

青森県ヤングケアラー実態調査

報告書

令和5年3月

青森県 健康福祉部 こどもみらい課

目次

1 調査概要	1
1.1 背景	1
1.2 先行調査の結果.....	2
1.3 本調査の目的および調査内容	6
1.4 調査方法.....	9
1.5 回答状況.....	10
2 調査結果の要約	11
3 調査結果(本編)	15
3.1 回答者の属性(プロフィール).....	15
3.1.1 性別.....	16
3.1.2 居住地.....	17
3.1.3 学校の種類(高校2年生のみ).....	19
3.1.4 家族構成.....	20
3.1.5 親の就労状況.....	27
3.2 学校・家庭での生活について	32
3.2.1 健康状態.....	33
3.2.2 欠席 / 遅刻・早退.....	35
3.2.3 学校生活.....	37
3.2.4 部活動や習い事(小学6年生、中学2年生、高校2年生のみ).....	39
3.2.5 悩みごと・話を聞いてくれる相手.....	40
3.3 家庭内でのお世話の状況.....	44
3.3.1 お世話が必要な人の有無	45
3.3.2 お世話が必要な人	49
3.3.3 お世話をしている人のパターン.....	50
3.3.4 ヤングケアラーの分類	53
3.3.5 お世話が必要な人 × お世話をしている人のパターン	56
3.3.6 お世話が必要な理由	58
3.3.7 お世話の内容	63
3.4 ヤングケアラーの負担.....	71
3.4.1 お世話の期間・頻度・時間	72
3.4.2 お世話の大変さ	78
3.4.3 お世話に伴う困りごと	83
3.4.4 就職への不安(大学3年生のみ).....	89
3.4.5 お世話をしている理由.....	90
3.5 ヤングケアラーの相談状況・要望	92
3.5.1 相談経験.....	93

3.5.2	相談していない理由・悩みを聞いてくれる人の有無.....	98
3.5.3	支援の要望・希望する相談方法.....	101
3.5.4	支援の要望<自由記述>(1).....	104
3.5.5	支援の要望<自由記述>(2).....	105
3.6	ヤングケアラーの認知度・知ったきっかけ.....	116
3.7	追加調査 クロス集計.....	119
3.7.1	相談経験 × お世話の大変さ.....	120
3.7.2	相談していない理由 × お世話の大変さ.....	121
3.7.3	お世話をしている理由 × お世話の大変さ.....	123
3.7.4	支援の要望 × お世話の大変さ.....	125
4	まとめと考察	127
4.1	グループ毎の支援の方向性.....	128
4.1.1	孤独ケアラー.....	128
4.1.2	メインケアラー.....	130
4.1.3	サブケアラー.....	132
4.1.4	孤独ケアラー＋メインケアラー.....	134
4.2	お世話の大変さの有無によるヤングケアラーの比較.....	136
4.3	ヤングケアラー全体の支援の方向性.....	139
5	調査票	142

1 調査概要

1.1 背景

「ヤングケアラー」とは、**本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども**のことをいい¹、その**責任や負担の重さ**により、**学業や友人関係などに影響**が出てしまうことがある。

子どもが家族の手伝いや手助けをするのは「ふつうのこと」であるという考えがある一方で、誰からの支援も得られないまま**年齢や成長度合いに見合わない重い責任や負担**が長く続くことで、本人の**生活や学業、友人関係**などに影響を及ぼす可能性が懸念される。

しかし、家庭内のプライベートかつデリケートな問題であることから表面化しにくく、必要な支援につなげることが困難である。また、重い責任や負担を**家族や子ども本人が自覚していない**、自覚があっても**他者に助けを求めることができない**といった課題がある。

そこで、**表面化しづらいヤングケアラーの実態**を把握するとともに、**誰にどんな支援が必要なのか**、ヤングケアラーをどのように**早期発見**し、**支援**するのかを具体的に検討し、**支援体制を構築**することが求められる。

ヤングケアラーの例(厚生労働省 HP より)



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の見えない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

¹ 厚生労働省 HP ヤングケアラーについて <https://www.mhlw.go.jp/stf/young-carer.html>

1.2 先行調査の結果

これまでヤングケアラーについて実態の把握が困難であったが、令和2年度・3年度に厚生労働省が全国調査を実施しており²、子ども本人(小学生・中学生・高校生・大学生)を対象とした調査結果から、以下の内容がわかった。

※本報告書における「国の先行調査」は、脚注2に記載した2つの調査のことをいう。

先行調査でわかったこと

◆ヤングケアラーの割合

家族の中に自分がお世話をしている人が「いる」と答えた(=ヤングケアラーと定義)回答者の割合は、小学6年生は6.5%、中学2年生は5.7%、高校2年生(全日制)は4.1%、大学3年生は「現在いる」が6.2%、「過去にいた」が4.0%であった。

Q：家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。
(ここで「お世話」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。)

お世話をしている家族の有無(%)

	小学6年生	中学2年生	高校2年生 (全日制)		大学3年生
いる	6.5	5.7	4.1	現在いる	6.2
				過去にいた	4.0
いない	93.5	93.6	94.9	いない	89.8
無回答	0.0	0.6	0.9	無回答	0.0
人数(n)	9,759	5,558	7,407	人数(n)	9,679

² 令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 報告書(2021)
令和3年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 ヤングケアラーの実態に関する調査研究 報告書(2022)

お世話が必要な家族については、小学6年生、中学2年生、高校2年生では、「きょうだい」と回答している割合が最も多かった。

- お世話をしている相手は親よりもきょうだいの方が多く、病気の親のお世話をしている子どもよりも、(仕事で不在といった理由で)親の代わりに幼いきょうだいの世話を担っている子どもが相当数いるのではないかと示唆される。

大学3年生では、母親が最も多く、次に祖母であった。

お世話が必要な家族(%) ※複数回答						
	小学6年生		中学2年生	高校2年生 (全日制)		大学3年生
母親	19.8	父母	23.5	29.6	母親	35.4
父親	13.2				父親	20.5
祖母	10.3	祖父母	14.7	22.5	祖母	32.8
祖父	5.5				祖父	17.2
きょうだい	71.0	きょうだい	61.8	44.3	きょうだい	26.5
その他	1.9	その他	3.8	5.5	その他	4.7
無回答	5.7	無回答	9.4	8.8	無回答	0.0
人数(n)	631	人数(n)	319	307	人数(n)	987

※大学3年生は、現在もしくは過去についての回答

◆一緒にお世話をしている人

自分のみでお世話をしているよりも、親やきょうだい等と一緒に家族の世話をしているヤングケアラーが多かった。

お世話を一緒にしている人(%) ※複数回答				
	小学6年生	中学2年生	高校2年生 (全日制)	大学3年生
母親	64.2	58.3	52.1	52.9
父親	47.1	35.7	28.3	36.2
祖母	11.6	16.0	11.4	11.8
祖父	5.4	6.9	4.9	5.6
きょうだい	36.0	35.7	34.5	27.3
親戚の人	3.2	5.0	7.2	7.4
自分のみ	10.6	9.1	11.4	20.0
福祉サービス	2.4	6.3	7.2	14.1
その他	0.5	1.9	1.3	1.3
無回答	11.1	14.1	16.3	0.0
人数(n)	631	319	307	987

※大学3年生は、現在もしくは過去についての回答

◆お世話の負担感

お世話の負担感については、「特にきつさは感じていない」と回答した割合は、小学6年生は57.4%、中学2年生は60.5%、高校2年生が52.1%、大学3年生が41.8%であった。

「身体的にきつい」、「精神的にきつい」、「時間的余裕がない」のうちでは、「精神的にきつい」の回答が最も多かった。

お世話をすることを感じているきつさ(%) ※複数回答				
	小学6年生	中学2年生	高校2年生 (全日制)	大学3年生
身体的にきつい	13.9	6.6	6.5	16.3
精神的にきつい	18.4	15.0	19.9	42.4
時間的余裕がない	14.6	16.0	16.9	31.8
特にきつさは感じていない	57.4	60.5	52.1	41.8
無回答	8.7	13.2	16.0	
人数(n)	631	319	307	987

※大学3年生は、現在もしくは過去についての回答

本調査で明らかにしたいこと

① ヤングケアラーの実態を把握する

病気や障がいを持つ親のお世話をしているヤングケアラーだけではなく、家族(特にきょうだいが多い)のお世話をしているヤングケアラーが相当数いるのではないかと、ということが先行調査の結果からうかがえる。

大人がお世話できない、または必要な支援・サービスが受けられない状況で子ども自身がお世話を担っていると考えられる。

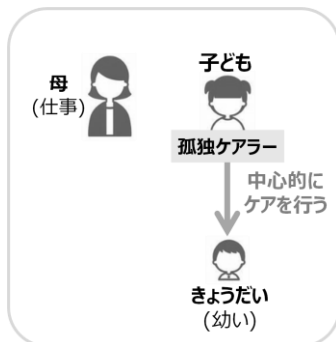
そのため、家庭内にお世話が必要な家族がおり、**自分以外の家族がお世話をしている回答者と自分がお世話をしている回答者の比較や、家族構成や親の就労状況**などからヤングケアラーの実態を把握する。

② どんなタイプのヤングケアラーがいるのか

家族のお世話については、担っている役割や一緒にお世話をしている家族の人数、サポートの有無などによって責任や負担の度合いは異なると考えられる。そのため、**ヤングケアラーをタイプ別に分類してグループごとに実態**を探る必要がある。

<ヤングケアラーの分類（イメージ）>

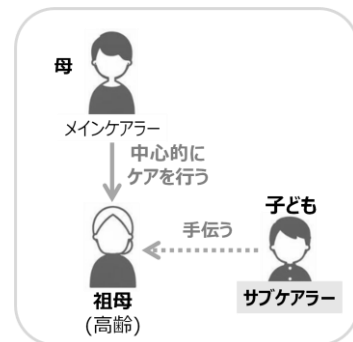
家族と一緒にではなく、子どもが中心的に一人でお世話をしている
孤独ケアラー



家族と一緒に、子どもが中心にお世話をしている
メインケアラー



中心にお世話をしている家族を手伝う
サブケアラー



③ 分類したヤングケアラーには、それぞれどのような支援が必要か

このように色々なタイプのヤングケアラーがいる中で、「それぞれのグループに対して、どのような支援が必要か」を明らかにする必要がある。グループ別に、**お世話の期間・頻度・時間やお世話の大変さ、日常生活・学校生活への影響、悩みごと**などに着目し、それぞれのグループの**特徴**を明らかにすることで、実態に即した**支援策**の立案が可能となる。

④ 外に現れやすい影響は何か

ヤングケアラーの支援や調査を行っている専門家からは、ヤングケアラーは外部の人間に助けを求めづらいという問題が指摘されている。そこで、学校の教師や支援者など周囲の人間が気づききっかけとなるような、外に現れやすい影響に注目することも必要である(遅刻、居眠り、宿題を忘れるなど)。

⑤ 有効と考えられる支援方法は何か

ヤングケアラーのグループや特徴を考慮しながら支援の方向性を定め、支援体制を構築する必要があるが、当事者である**子どもにとって心理的ハードルの低い、最初の支援につなげやすい方法**は何かということも重要である。

そのため、**子どもの相談窓口**だけでなく、**学校や地域、専門家、行政**ができることも含め、子どもがアプローチしやすい、支援のきっかけとなりやすい**施策**は何かを調査結果から検討していく必要がある。

1.3 本調査の目的および調査内容

目的

本調査では、回答者以外の家族がお世話をしている割合も含めた家庭内でのお世話の状況や親の就労状況についても考慮し、ヤングケアラーをタイプ別に分類して、ヤングケアラーとその実態を明らかにすることで、支援の方向性や有効な施策の立案に活用することを目的とする。

調査内容

回答者
全員

3.1 回答者の属性(プロフィール)

3.1.1	3.1.2	3.1.3	3.1.4	3.1.5
性別	居住地	学校の種類	家族構成	親の就労状況

(高校2年生のみ質問)

ヤングケアラーの生活環境を把握

回答者
全員

3.2 学校・家庭での生活について

3.2.1	3.2.2	3.2.3	3.2.4	3.2.5
健康状態	欠席 遅刻・早退	学校生活	部活動や 習いごと	悩みごと・ 話を聞いてくれる相手

ヤングケアラーの日常生活・学校生活を把握

3.3 家庭内でのお世話の状況

3.3.1

お世話が必要な人の有無

いない

いる

3.3.2

お世話が必要な人

3.3.3

お世話をしている人のパターン

- ① お世話をしている人はいない
- ② 福祉サービスのみ
- ③ 家族がお世話(回答者を含まない)
- ④ 子どもがお世話(回答者を含む)

(本調査での) **ヤングケアラー**と定義³

3.3.4

ヤングケアラーの分類

- ④-1 孤独ケアラー
- ④-2 メインケアラー
- ④-3 サブケアラー

比較

3.3.5

お世話が必要な人
×
お世話をしている人のパターン

3.3.6

お世話が必要な理由

3.3.7

お世話の内容

分類別にヤングケアラーの負担やお世話の内容を把握

³ 厳密には、子どもであるきょうだいのみが家族のお世話をしている(回答者はしていない)場合もヤングケアラーのいる世帯となるが、少数であり(P.50 参照)、本調査では回答者がお世話をしている場合をヤングケアラーとみなして集計・分析する。

3.4 ヤングケアラーの負担

3.4.1

お世話の
期間・頻度・時間

3.4.2

お世話の
大変さ

3.4.3

お世話に伴う
困りごと

3.4.4

就職への
不安

3.4.5

お世話をし
ている理由

(大学3年生のみ質問)

ヤングケアラーの負担や困りごと等を把握

3.5 ヤングケアラーの相談状況・要望

3.5.1

相談経験

3.5.2

相談していない理由
悩みを聞いてくれる人の有無

3.5.3

支援の要望
希望する相談方法

3.5.4 ~ 3.5.5

支援の要望
(自由記述)

ヤングケアラーの求めている支援の内容を把握

3.6 ヤングケアラーの認知度・知ったきっかけ

3.6

言葉の認知度 / 知ったきっかけ

ヤングケアラーの認知度と効果的な広報手段を把握

3.7 追加調査 クロス集計

3.7.1~3.7.4

相談経験/相談していない理由/お世話をしている理由/支援の要望 × お世話の大変さ

本報告書の見方

- ・ 小数点第2位を四捨五入した値を表記しているため、合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかを示しているため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 調査結果について、原則として選択肢の回答数が10未満のものについては、図示することとどめ、本文中で言及しない。
- ・ 小学6年生から大学3年生までの回答を合計した図表等やその分析については、学校種別により選択肢の文言が異なる場合があることから、中学2年生、高校2年生の選択肢の文言を使用している。

1.4 調査方法

調査対象者

青森県内の小学校(6年生)、中学校(2年生)、高等学校(2年生)、大学(3年生)の児童生徒を調査対象とし、対象となる児童生徒数は合計で 32,540 人であった。

対象の学校	学校数	対象学年	対象児童生徒数	内訳
小学校	257 校	6 年生	9,485 人	・ 県内の国公立の小学校 (休校中・該当年児童なしの学校は除く)
中学校	153 校	2 年生	9,801 人	・ 県内の国公立及び私立の中学校 (休校中・該当年生徒なしの学校は除く)
高等学校	67 校	2 年生	9,547 人	・ 県内の国公立及び私立の高等学校 (該当年生徒なしの学校は除く) － 工業高等専門学校(高専)を含む － 定時制を含む － 通信制を除く
大学	11 校	3 年生	3,707 人	・ 県内の国公立及び私立の大学
合計	488 校	－	32,540 人	

※ 対象児童・生徒数(小・中・高)は、令和 4 年 5 月 1 日「学校基本調査」児童・生徒数による。

※ 大学については、令和 2 年 5 月 1 日「学校基本調査」入学定員数による。

回答方法

- Web によるアンケート調査(Web 上で回答・回収)
 - 回答者は基本的に Web 上で回答し、個別の状況により一部の回答者は紙の調査票で回答した
- 対象の学校へ調査概要(児童・生徒向け、教職員向け)を郵送
- 調査対象の児童・生徒へは、学校を通じて調査回答フォームの QR コードおよび URL を記載した調査概要を配布
 - 小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生へは、紙の調査概要を配布
 - 大学 3 年生へは、学校を通じてメールにて調査概要を配信
- 「学校と家庭生活についての Web アンケート」という調査名で実施
- 調査は任意で実施し、家庭内でのお世話に関する質問にはすべて「答えたくない」という選択肢を用意した

調査時期

令和 4 年 12 月 16 日(金)～令和 5 年 1 月 16 日(月)

1.5 回答状況

学校および学年	対象児童生徒数	回答数	有効回答数 [※]	回答率
小学 6 年生	9,485 人	6,971	6,971	73.5%
中学 2 年生	9,801 人	6,588	6,584	67.2%
高校 2 年生	9,547 人	5,217	5,217	54.6%
大学 3 年生	3,707 人	760	760	20.5%
合計	32,540 人	19,536	19,532	60.0%

※ 紙による調査票で回答した 90 名のうち、4 名は大部分が未回答であったため無効とした。

2 調査結果の要約

調査結果は、以下のとおりである。

◆お世話が必要な人の有無 (P.45 参照)

一緒に住んでいる人のなかに、食事や身の回りのお世話が必要な人がいる割合は、回答者の **10.2%**で、およそ **10 人に 1 人**が、お世話が必要な人がいると回答した。

小学 6 年生は 12.0%、**中学 2 年生**は 9.6%、**高校 2 年生**は 8.4%、**大学 3 年生**は「**現在いる**」が 11.3%、「**過去にいた**」は 2.6%であった。

	小学 6 年生	中学 2 年生	高校 2 年生	大学 3 年生	合計
本調査	12.0% (839/6,971 人)	9.6% (631/6,584 人)	8.4% (439/5,217 人)	現在 11.3% (86/760 人) 過去 2.6% (20/760 人)	10.2% (1,995/19,532 人)

※合計は、小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生及び大学 3 年生のうち「現在いる」と回答したものを集計した。

◆ヤングケアラーの割合 (P.53 参照)

全有効回答者に占めるヤングケアラーの割合（本調査においては、お世話が必要な家族がいる、かつ、お世話をしている人の中に自分を選択した回答者をヤングケアラーとして捉えている）は、以下のとおりであり、少なくとも数ですべての学校種別にいることが確認された。

	小学 6 年生	中学 2 年生	高校 2 年生	大学 3 年生	合計
本調査	5.9% (408/6,971 人)	5.0% (331/6,584 人)	3.3% (173/5,217 人)	2.5% (19/760 人)	4.8% (931/19,532 人)
国の先行調査	6.5%	5.7%	4.1%	6.2%	5.7%※

※国の先行調査は、高校 2 年生は全日制高校 2 年生の割合。国の先行調査では、各学校種別のヤングケアラーの割合のみ公表されていることから、公表資料を踏まえて、青森県として各学校種別の回答者数と割合から、合計の割合を算出した。

◆ヤングケアラーの分類 (P.54～参照)

ヤングケアラーについて、「**孤独ケアラー**」「**メインケアラー**」「**サブケアラー**」に分類したところ、割合は以下のとおりであった。

グループ名	ヤングケアラーに占める割合				
	小学 6 年生	中学 2 年生	高校 2 年生	大学 3 年生	合計
孤独ケアラー	6.9% (28/408 人)	4.8% (16/331 人)	4.6% (8/173 人)	15.8% (3/19 人)	5.9% (55/931 人)
メインケアラー	29.2% (119/408 人)	20.8% (69/331 人)	22.0% (38/173 人)	21.1% (4/19 人)	24.7% (230/931 人)
サブケアラー	64.0% (261/408 人)	74.3% (246/331 人)	73.4% (127/173 人)	63.2% (12/19 人)	69.4% (646/931 人)

参考：有効回答数に占める割合

グループ名	有効回答数に占める割合				
	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計
孤独ケアラー	0.4% (28/6,971人)	0.2% (16/6,584人)	0.2% (8/5,217人)	0.4% (3/760人)	0.3% (55/19,532人)
メインケアラー	1.7% (119/6,971人)	1.0% (69/6,584人)	0.7% (38/5,217人)	0.5% (4/760人)	1.2% (230/19,532人)
サブケアラー	3.7% (261/6,971人)	3.7% (246/6,584人)	2.4% (127/5,217人)	1.6% (12/760人)	3.3% (646/19,532人)

◆お世話が必要な人 (P.49 参照)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話が必要な人を聞いたところ、「妹・弟」(41.9%)が最も高く、次いで「母親」(26.1%)、「祖母」(20.7%)、「答えたくない」(17.1%)、「祖父」(15.2%)、「父親」(15.1%)、「姉・兄」(7.9%)、「その他」(5.3%)の順であった。

◆お世話をしている人のパターン (P.50～参照)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話をしている人を聞いたところ、お世話をしている人のパターンとして最も多いものは、小学6年生、中学2年生、高校2年生で、「子どもがお世話」(子どもと家族が一緒にお世話をしている場合を含む)で、小学6年生では48.6%、中学2年生では52.5%、高校2年生では39.4%であった。次いで「家族がお世話」(子どもを含まない家族でお世話をしている場合。福祉サービス等を併用している場合を含む。)であった。これは、家庭内にお世話が必要な家族がいる場合、回答者の4～5割はお世話をしている人に子どもが含まれており、子どもがお世話の役割を担っていることを示している。

また、大学3年生は、「家族がお世話」(52.3%)が最も多かったが、これは、大学3年生の約6割が「家族と別居」(一人暮らし/寮/下宿など)していることから、「家族がお世話」のパターンが多かったものと考えられる。

◆お世話が必要な理由 (P.58～参照)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話が必要な理由を聞いたところ、子どもがお世話をしている場合は、「母親」については、小学6年生、中学2年生、高校2年生で「わからない」が最も高く、「父親」については、小学6年生、中学2年生では、「わからない」が最も高いが、高校2年生では「答えたくない」が最も高かった。

「祖母」「祖父」については、すべての学校種別で「高齢(65歳以上)」が最も高かった。

また、「姉・兄」については、「答えたくない」が3～4割程度で最も高かったほか、小学6年生では「しょうがい」が31.3%、中学2年生では「知的障がい」が36.8%、「身体障がい」、「精神疾患」が21.1%、高校2年生では「知的障がい」が44.4%、「身体障がい」、「精神疾患」が22.2%であった。

「妹・弟」については、すべての学校種別で「幼い」が最も高かった。

◆お世話の内容 (P.63～参照)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話の内容を聞いたところ、子どもがお世話をしている場合、「母親」「父親」「祖母」「姉・兄」については、小学6年生、中学2年生、高校2年生で「**家事（食事の準備やそうじ、せんたく）**」が最も高かった。

また、「祖父」については、小学6年生は「**話を聞く**」が最も高いが、中学2年生、高校2年生では、「**家事**」が最も高く、「妹・弟」については、小学6年生、中学2年生では「**見守り**」が最も高く、高校2年生では「**家事**」が最も高かった。

全体の傾向としては、お世話の内容として、「家事」の回答が多かった。

◆お世話の期間・頻度・時間 (P.72～参照)

ヤングケアラーにお世話の期間・頻度・時間を聞いたところ、お世話の期間は、小学6年生、中学2年生で「**2～3年**」、高校2年生で「**6年～**」が、最も高かった。

お世話の頻度は、すべての学校種別で「**ほぼ毎日**」の割合が最も高く、また、週に3日以上お世話をしているヤングケアラーが6割以上であった。

お世話の時間は、すべての学校種別で「**1時間より少ない**」が最も高く、次いで「**1時間**」であった。1日に6時間以上お世話をしているヤングケアラーが4～6%程度存在していた。

グループ別にみると、孤独ケアラーとメインケアラーの合計・サブケアラーは、小学6年生では同様の傾向だが、中学2年生、高校2年生では、サブケアラーに比較して、孤独ケアラーとメインケアラーの合計のお世話の期間が長期化し、頻度・時間の負担が増加していることがうかがえる。

◆お世話の大変さ (P.78～参照)

ヤングケアラーにお世話の大変さを聞いたところ、**約4割**が「**大変さを感じる**」と回答（「身体的に大変」、「精神的に大変」、「時間的余裕がない」のうち1つ以上を選択）し、**約6割**は「**特に大変さは感じていない**」と回答した。

グループ別にみると、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、身体的・精神的・時間的のすべての面において、サブケアラーよりも大変さを感じる割合が高かった。

◆お世話に伴う困りごと (P.83～参照)

ヤングケアラーにお世話に伴う困りごとを聞いたところ、小学6年生、中学2年生、高校2年生では、4～6割の回答者が「**困っていることはない**」と回答した。

困りごとの内容では、すべての学校種別で、「**ストレスを感じる**」が1位であった。

困りごとの2～5位の内容で、すべての学校種別に共通するものは以下のとおりであった。

- ・ 自分の時間が取れない
- ・ 宿題(大学3年生は課題・予習復習)や勉強をする時間がない
- ・ 睡眠が十分に取れない(大学3年生を除く)

◆お世話をしている理由 (P.90～参照)

お世話をしている理由については、「**自分がお世話をしないと家族が困るため**」が 46.3%で最も高く、次いで「**自分がお世話をしたいと思うため**」が 37.9%であった。

また、「**わからない・考えたことがない**」という回答が 19.7%であった。この回答を選んだヤングケアラーには、明確な理由はわからないまま、気がついたときにはすでにお世話をしている状況にある子どもが含まれていると考えられる。

◆相談経験 (P.93～参照)

ヤングケアラーにお世話について相談した経験を聞いたところ、約 8 割が「**相談経験がない**」と回答した。学校種別では、小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生の約 8 割、大学 3 年生の約 6 割が「**相談経験がない**」と回答した。相談経験が「**ある**」と回答した人に、相談相手を聞いたところ、すべての学校種別で「**家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）**」が 7～8 割と最も高かった。

◆相談していない理由・悩みを聞いてくれる人の有無 (P.98～参照)

ヤングケアラーで相談経験が「**ない**」と回答した人にその理由について聞いたところ、すべての学校種別で、「**相談するほどの悩みではないと自分と思うから**」が最も高く、小学 6 年生、中学 2 年生では次いで「**周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから**」が高く、高校 2 年生では「**家族外の人に相談するような悩みではないから**」であった。

相談経験が「**ない**」と回答した人に、お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無を聞いたところ、すべての学校種別で 6～7 割が「**いる**」と答えた。

◆支援の要望・希望する相談方法 (P.101～参照)

ヤングケアラーに支援の要望について聞いたところ、すべての学校種別で、「**特にない**」が最も高く、次いで小学 6 年生では、「**勉強を教えてほしい**」、中学 2 年生では「**学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい**」、高校 2 年生では「**進路や就職など将来の相談にのってほしい**」であった。

支援の要望で「**自分のことについて話を聞いてほしい**」、「**家族のお世話について相談にのってほしい**」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、すべて学校種別で「**直接会って**」が最も高く、次いで小学 6 年生では「**電話**」、中学 2 年生では「**SNS**」、高校 2 年生では「**電話**」「**SNS**」であった。

◆ヤングケアラーの認知度、知ったきっかけ (P.116～参照)

全有効回答者に「ヤングケアラー」という言葉の認知度を聞いたところ、「**聞いたことがない**」が 52.9%、「**聞いたことがあり、内容も知っている**」が 29.2%、「**聞いたことがあるが、よく知らない**」が 17.9%であった。

小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生では「**聞いたことがない**」が最も高く、大学 3 年生では「**聞いたことがあり、内容も知っている**」が最も高かった。

回答者の年齢が上がるにつれて、「**聞いたことがあり、内容も知っている**」という割合が高くなっていった。

「**聞いたことがあり、内容も知っている**」、「**聞いたことはあるが、よく知らない**」と回答した人に「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについて聞いたところ、すべての学校種別で、「**テレビや新聞、ラジオ**」が最も高く、次いで「**SNS やインターネット**」、「**学校**」であった。

3 調査結果(本編)

3.1 回答者の属性(プロフィール)

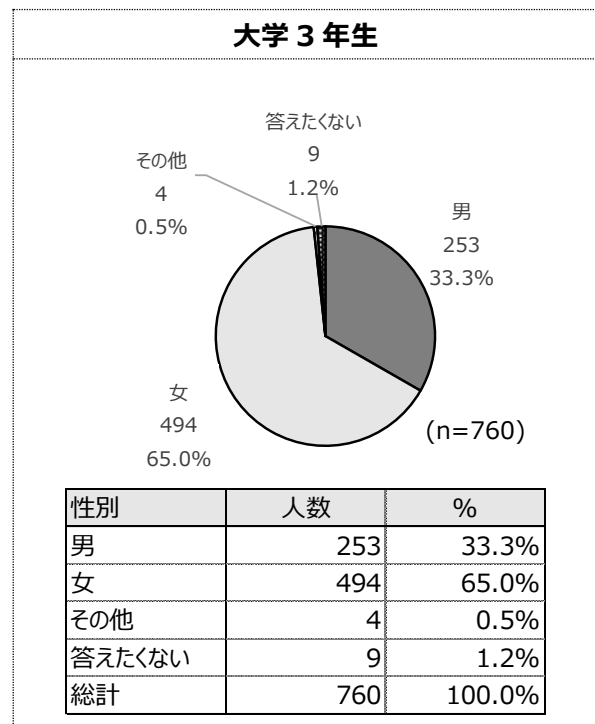
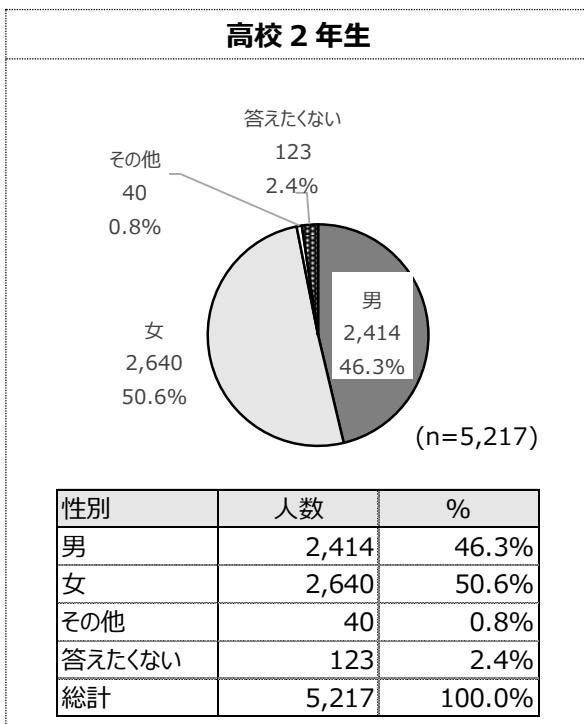
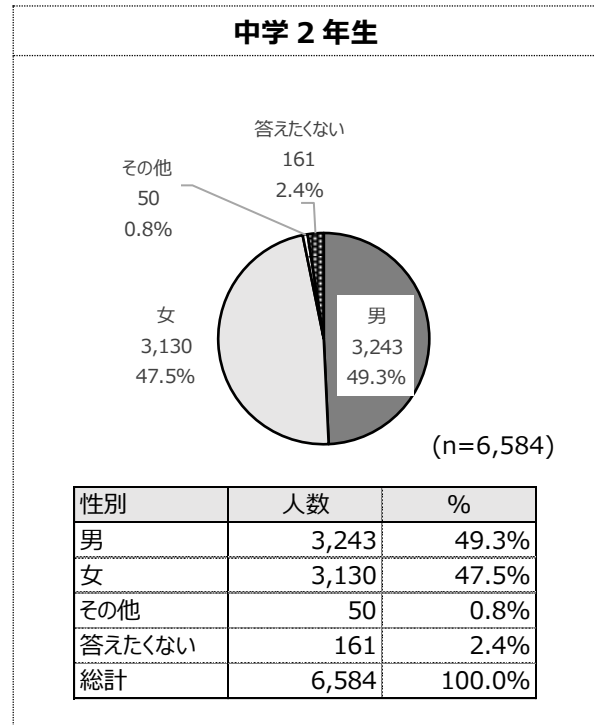
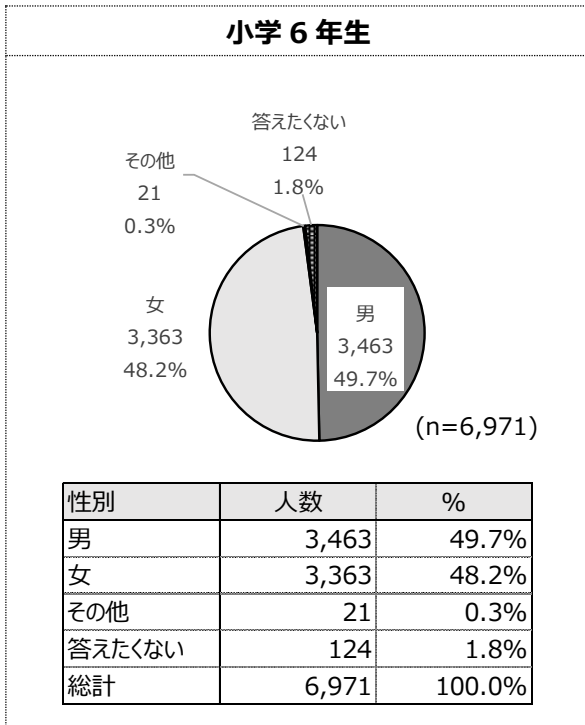
本セクションでは、下記の項目について記載する。

- 3.1.1 性別
- 3.1.2 居住地
- 3.1.3 学校の種類(高校生のみ質問)
- 3.1.4 家族構成
- 3.1.5 親の就労状況

3.1.1 性別

本調査への回答は任意であるが、小学6年生、中学2年生、高校2年生の男女比は、おおよそ1:1であった。

大学3年生の回答者の男女比はおおよそ1:2であり、女子の割合が男子よりも高かった。これは、国の先行調査（男:35.7%、女子:62.0%）と同様の割合であった。



3.1.2 居住地

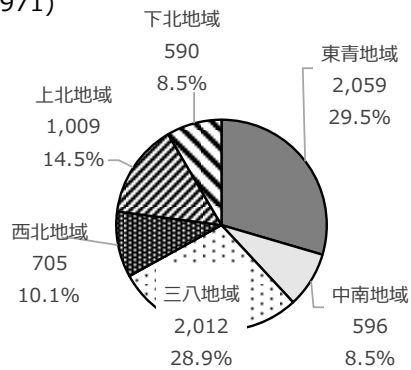
地域区分	市町村
東青地域	青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町
中南地域	弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町
三八地域	八戸市、おいらせ町、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村
西北地域	五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町
上北地域	十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村
下北地域	むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村



※県地域県民局地域健康福祉部の所管により区分

小学6年生

(n=6,971)



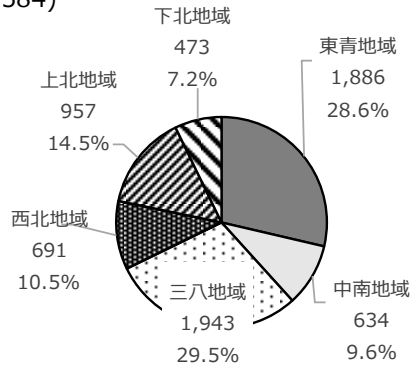
地域区分	人数	%
東青地域	2,059	29.5%
中南地域	596	8.5%
三八地域	2,012	28.9%
西北地域	705	10.1%
上北地域	1,009	14.5%
下北地域	590	8.5%
総計	6,971	100.0%

市町村別 (上位 10)

市町村	順位	人数	%
青森市	1	1,964	28.2%
八戸市	2	1,432	20.5%
むつ市	3	489	7.0%
三沢市	4	324	4.6%
五所川原市	5	317	4.5%
弘前市	6	270	3.9%
十和田市	7	247	3.5%
おいらせ町	8	210	3.0%
つがる市	9	153	2.2%
東北町	10	114	1.6%
その他の市町村		1,451	20.8%
総計		6,971	100.0%

中学 2 年生

(n=6,584)



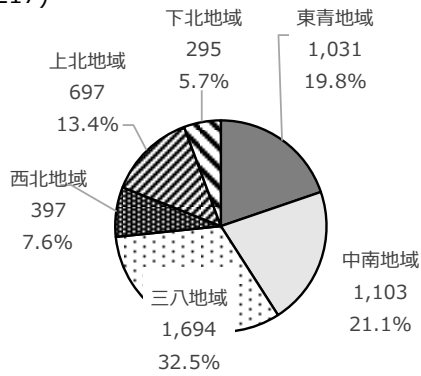
地域区分	人数	%
東青地域	1,886	28.6%
中南地域	634	9.6%
三八地域	1,943	29.5%
西北地域	691	10.5%
上北地域	957	14.5%
下北地域	473	7.2%
総計	6,584	100.0%

市町村別 (上位 10)

市町村	順位	人数	%
青森市	1	1,799	27.3%
八戸市	2	1,363	20.7%
むつ市	3	382	5.8%
五所川原市	4	337	5.1%
十和田市	5	292	4.4%
弘前市	6	252	3.8%
三沢市	7	197	3.0%
つがる市	8	195	3.0%
おいらせ町	8	195	3.0%
東北町	10	123	1.9%
その他の市町村		1,449	22.0%
総計		6,584	100.0%

高校 2 年生

(n=5,217)

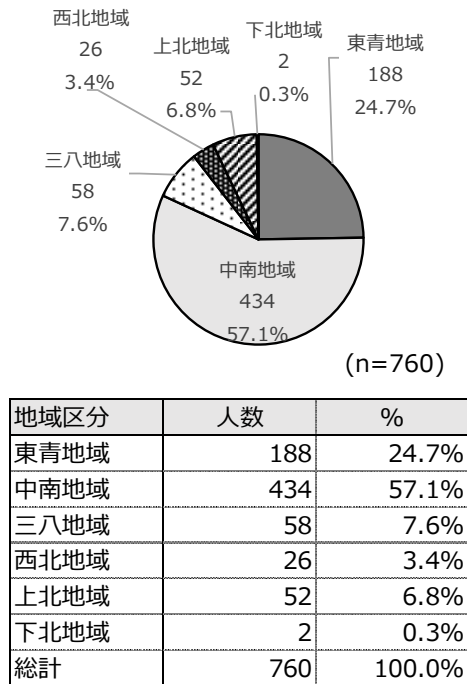


地域区分	人数	%
東青地域	1,031	19.8%
中南地域	1,103	21.1%
三八地域	1,694	32.5%
西北地域	397	7.6%
上北地域	697	13.4%
下北地域	295	5.7%
総計	5,217	100.0%

市町村別 (上位 10)

市町村	順位	人数	%
八戸市	1	1,262	24.2%
青森市	2	976	18.7%
弘前市	3	774	14.8%
十和田市	4	302	5.8%
むつ市	5	263	5.0%
五所川原市	6	171	3.3%
三沢市	7	151	2.9%
おいらせ町	8	137	2.6%
つがる市	9	112	2.1%
平川市	10	101	1.9%
その他の市町村		968	18.6%
総計		5,217	100.0%

大学 3 年生



市町村別 (上位 10)

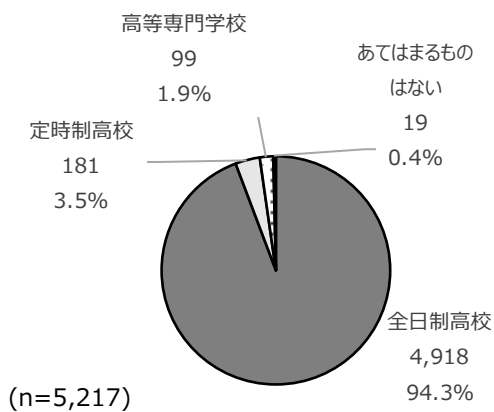
市町村	順位	人数	%
弘前市	1	398	52.4%
青森市	2	185	24.3%
十和田市	3	42	5.5%
八戸市	4	38	5.0%
五所川原市	5	16	2.1%
階上町	6	13	1.7%
黒石市	7	11	1.4%
平川市	8	8	1.1%
つがる市	9	6	0.8%
大鰐町	10	5	0.7%
その他の市町村		38	5.0%
総計		760	100.0%

今回の回答においては、小学 6 年生、中学 2 年生の回答者の地理的分布は同じ傾向である。一方で高校 2 年生、大学 3 年生とは異なっている。回答者の属性が調査結果に影響を及ぼす可能性がある。

3.1.3 学校の種類(高校 2 年生のみ)

本調査においては、高校 2 年生のみ回答者の学校の種類(全日制/定時制/高専)を尋ねる質問を用意しており、94.3%が全日制高校の生徒であった。

高校 2 年生



学校の種類	人数	%
全日制高校	4,918	94.3%
定時制高校	181	3.5%
高等専門学校	99	1.9%
あてはまるものはない	19	0.4%
総計	5,217	100.0%

3.1.4 家族構成

家族構成については、小学6年生、中学2年生、高校2年生と大学3年生とで質問が異なる。

- ・ **小学6年生・中学2年生・高校2年生**：回答者全員に、**一緒に住んでいる家族**を聞いている。
- ・ **大学3年生**：**同居の場合**は、**一緒に住んでいる家族**を、**別居の場合**は、**実家に住んでいる家族**を聞いている。

同居/別居の家族

学年	住まい方	質問
小学6年生 中学2年生 高校2年生	同居 (共通)	Q：あなたが一緒に住んでいる人はだれですか。 1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. 姉・兄 6. 妹・弟 7. その他 ()
大学3年生	同居	Q：あなたが一緒に住んでいる人はだれですか。 (選択肢同じ)
	別居 (一人暮らし/寮/下宿など)	Q：あなたの実家に住んでいる人は誰ですか。 (選択肢同じ)

↓
母親/父親を選んだ回答者に対して

親の就労状況

学年	住まい方	質問
小学6年生 中学2年生 高校2年生	同居 (共通)	(共通) Q：お母さん/お父さんはお仕事をしていますか。 (家事や家族のお世話を除いて)
大学3年生	同居	Q：お母さん/お父さんの職業を教えてください。 (中学2年生、高校2年生、大学3年生のみ質問)
	別居 (一人暮らし/寮/下宿など)	

本調査では、ヤングケアラーも含めた**家庭内でのお世話**の状況(お世話が必要な人/お世話をしている人)を把握するために、**同居 (大学3年生は同居/別居) の家族**について聞いている。

※ **一緒に住んでいる/実家に住んでいる**家族を選ぶ聞き方であるため、**選択しない場合の解釈**に注意が必要である。

回答例	選択しない場合の例
母親 / 父親の選択なし	ひとり親の場合 だけでなく、 単身赴任等により別居である場合 も考えられる。
姉・兄 / 妹・弟の選択なし	一人っ子 だけでなく、 進学や独立などにより、きょうだい が 別居している ことも考えられる。
祖母 / 祖父の選択なし	死去 や 別居 だけでなく、 入院 や 施設等 への 入居 も考えられる。

家族構成

世帯構成：同居する祖父母がいない場合を二世帯、同居している場合を三世帯として集計

同居する親の人数：ひとは単身赴任を含む、「その他」は親と一緒に住んでいない回答者

同居する家族	すべての学校種別で、「 母親 」が最も高く、 9割強 であり、次いで「 父親 」が約8割、「 妹・弟 」が4～5割であった。 「 祖母・祖父 」は、2～3割であった。 また、「 姉・兄 」については、小学6年生、中学2年生に比較し、高校2年生、大学3年生では同居の割合が低かった。
世帯	すべての学校種別で、親と子どもの 二世帯家族が約7割 であり、祖父母と同居する 三世帯家族が約3割 であった。
同居する親の人数	すべての学校種別で、両親との 同居が約8割 であり、 同居する親が「ひとり」は約2割 であった。
同居する親ひとりの内訳	小学6年生、中学2年生、高校2年生のうち、同居する親がひとりの場合、約9割が 母親と同居していた 。大学3年生は約8割が母親と同居していた。
同居するきょうだい	小学6年生、中学2年生は、約8割が きょうだいと同居 しており、 妹・弟 がいる割合は 約半数 であった。 高校2年生、大学3年生では、きょうだいと同居する割合が、小学6年生、中学2年生と比較して低かった。また、家庭内で 同居するきょうだいは「なし（回答者のみ）」 の割合が、高校2年生は3割強、大学3年生の4割強であり、小学6年生、中学2年生より高かった。
住まい方 (大学3年生のみ 質問)	一人暮らし、寮、下宿などで「 家族と別居 」している大学3年生は約6割で、「 家族と同居 」と比較して、別居の割合が高かった。

同居する家族（複数回答）

同居する家族	人数	%
お母さん	6,817	97.8%
お父さん	5,762	82.7%
おばあさん	2,140	30.7%
おじいさん	1,531	22.0%
お姉さん・お兄さん	3,292	47.2%
妹・弟	3,391	48.6%
その他	348	5.0%

n=6,971

同居する家族	人数	%
母親	6,364	96.7%
父親	5,316	80.7%
祖母	2,026	30.8%
祖父	1,361	20.7%
姉・兄	2,876	43.7%
妹・弟	3,158	48.0%
その他	428	6.5%

n=6,584

同居する家族	人数	%
母親	4,855	93.1%
父親	3,966	76.0%
祖母	1,566	30.0%
祖父	979	18.8%
姉・兄	1,433	27.5%
妹・弟	2,350	45.0%
その他	387	7.4%

n=5,217

同居する家族	人数	%
母親	711	93.6%
父親	605	79.6%
祖母	199	26.2%
祖父	110	14.5%
姉・兄	127	16.7%
妹・弟	307	40.4%
その他	29	3.8%

※ 同居・別居を含めた大学3年生全体で集計 n=760

【国の先行調査との比較】

同居の家族	小学校6年生		中学校2年生		高校2年生		大学3年生※1	
	国(%)	青森県(%)	国(%)	青森県(%)	国(%)	青森県(%)	国(%)	青森県(%)
母親	97.4%	97.8%	97.5%	96.7%	95.5%	93.1%	94.6%	92.1%
父親	87.3%	82.7%	85.4%	80.7%	81.3%	76.0%	80.9%	78.6%
祖母	16.3%	30.7%	16.5%	30.8%	20.8%	30.0%	16.2%	28.2%
祖父	11.0%	22.0%	10.9%	20.7%	13.4%	18.8%	9.2%	17.1%
姉・兄	48.2%	47.2%	43.7%	43.7%	36.9%	27.5%	24.9%	17.9%
妹・弟	48.8%	48.6%	50.7%	48.0%	50.5%	45.0%	44.6%	41.4%
その他	2.5%	5.0%	1.9%	6.5%	3.0%	7.4%	2.9%	4.6%
無回答	0.4%	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%	-	0.0%
	n=9,759	n=6,971	n=5,558	n=6,584	n=7,407	n=5,217	n=5,734	n=280

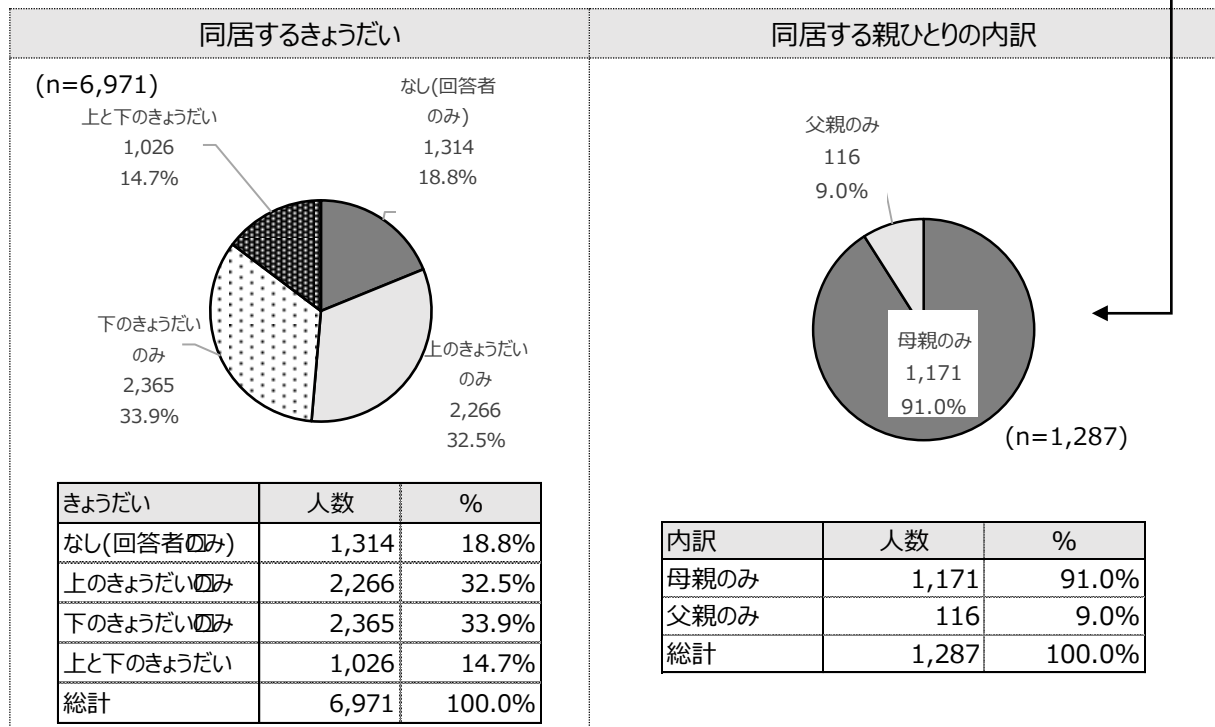
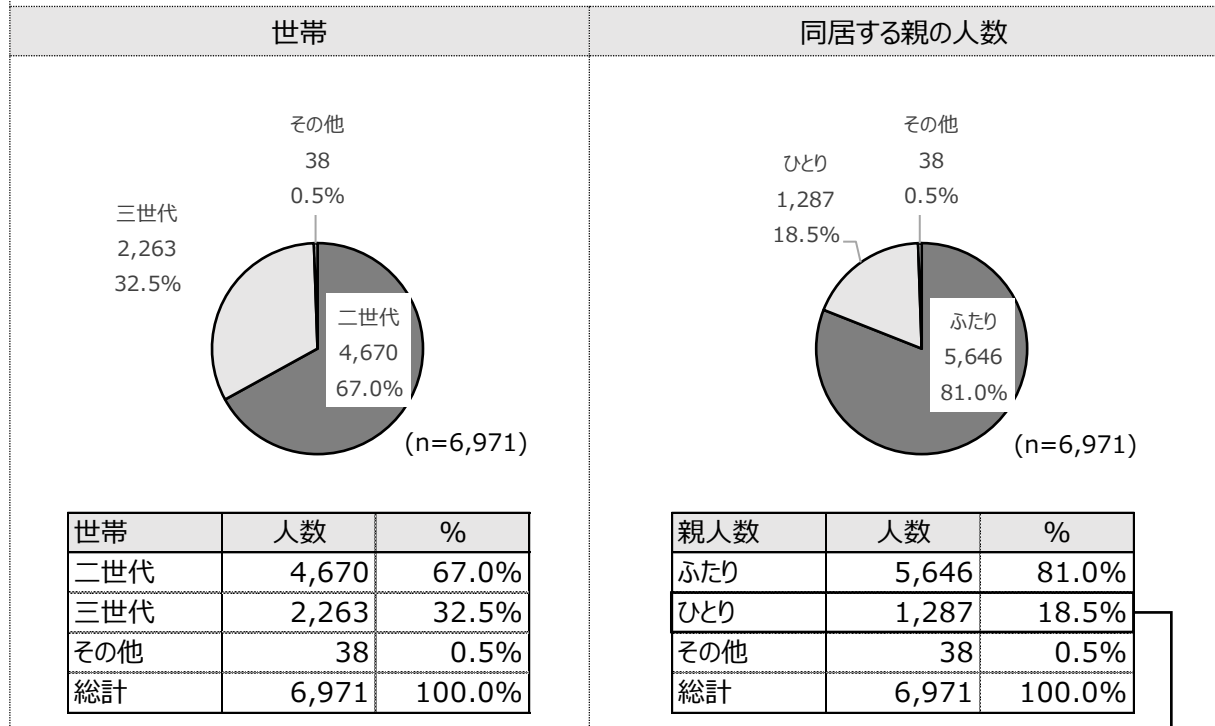
※1：青森県の大学3年生は国との比較のため居住形態が「家族と同居」の回答者を抽出

同居家族について、国の先行調査と比較したところ、小学6年生、中学2年生、高校2年生では国も青森県も「母親」が最も高く、次いで「父親」、「妹・弟」、「姉・兄」であった。大学3年生では、国では、「母親」「父親」「妹・弟」「姉・兄」の順であったが、青森県では、「母親」「父親」「妹・弟」「祖母」の順であった。

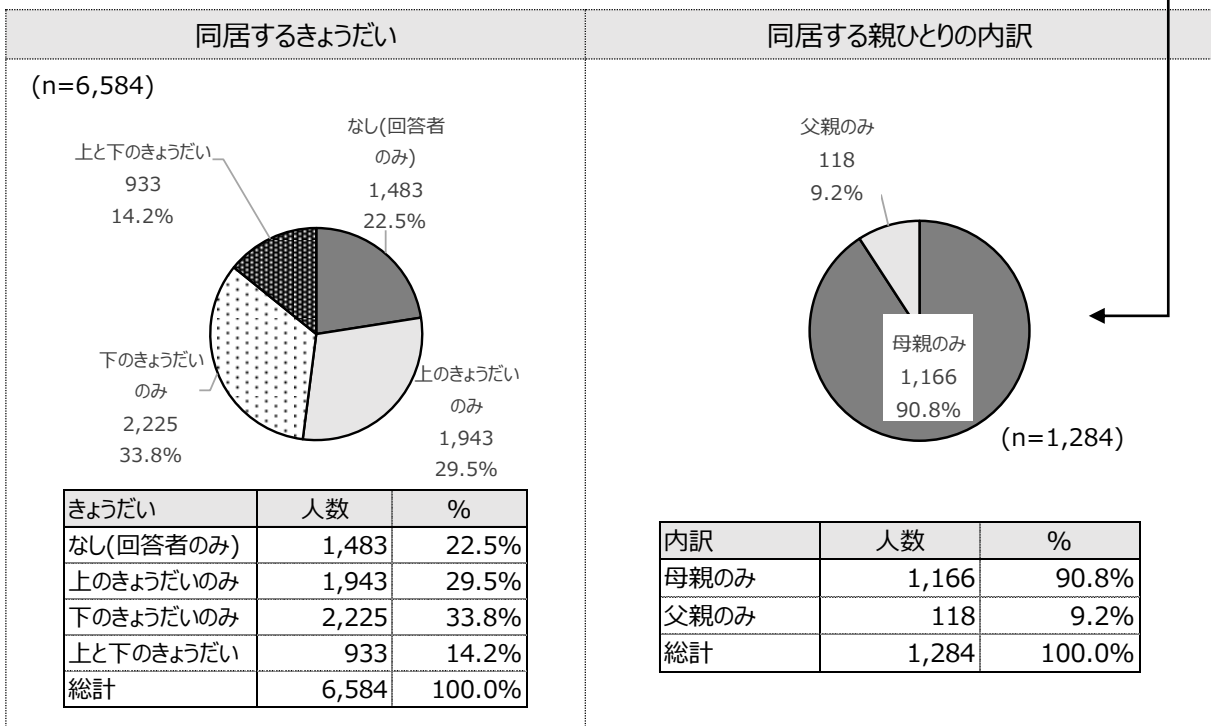
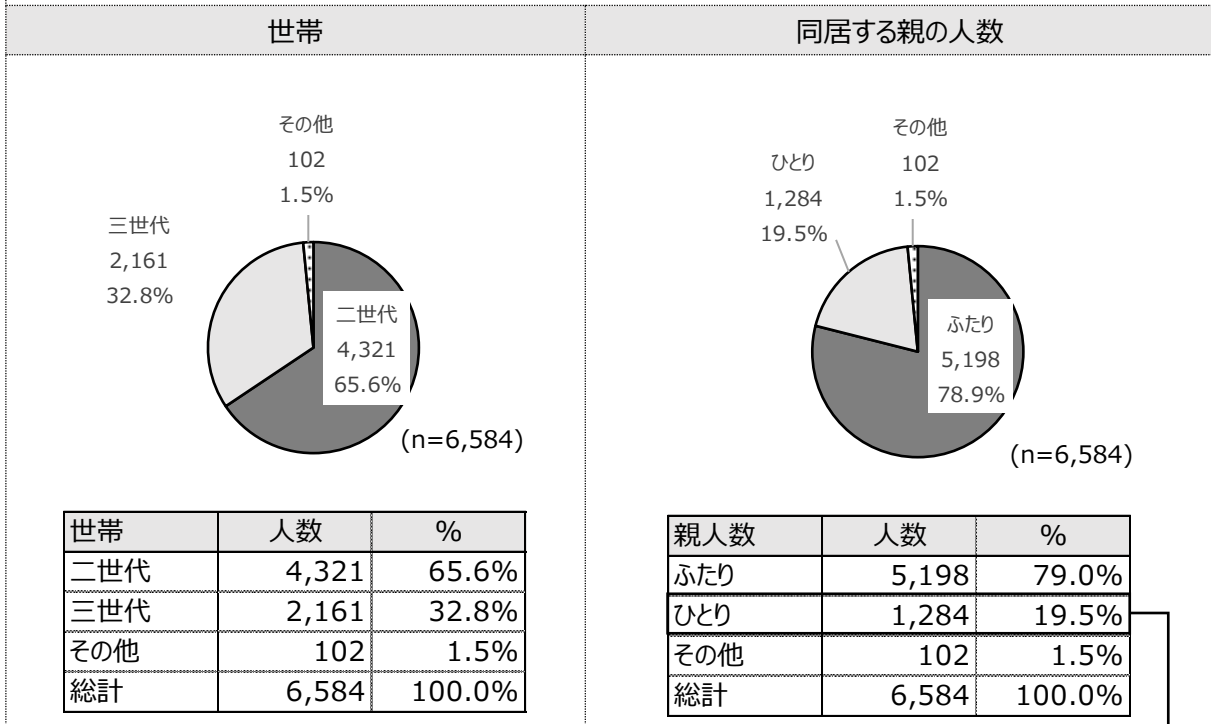
また、青森県は、国と比較し、すべての学校種別で、祖父母と同居している割合が高く、高校2年生・大学3年生においては、姉・兄と同居している割合が低かった。これは、本県の高齢者人口の割合が全国的にも高いこと（令和2年総務省「国勢調査」33.7%、全国7位）、就職や進学を契機に県外に転出する若年者が多いこと（総務省「住民基本台帳」）が理由であると考えられる。

世帯/同居する親の人数/同居するきょうだい/同居する親ひとりの内訳

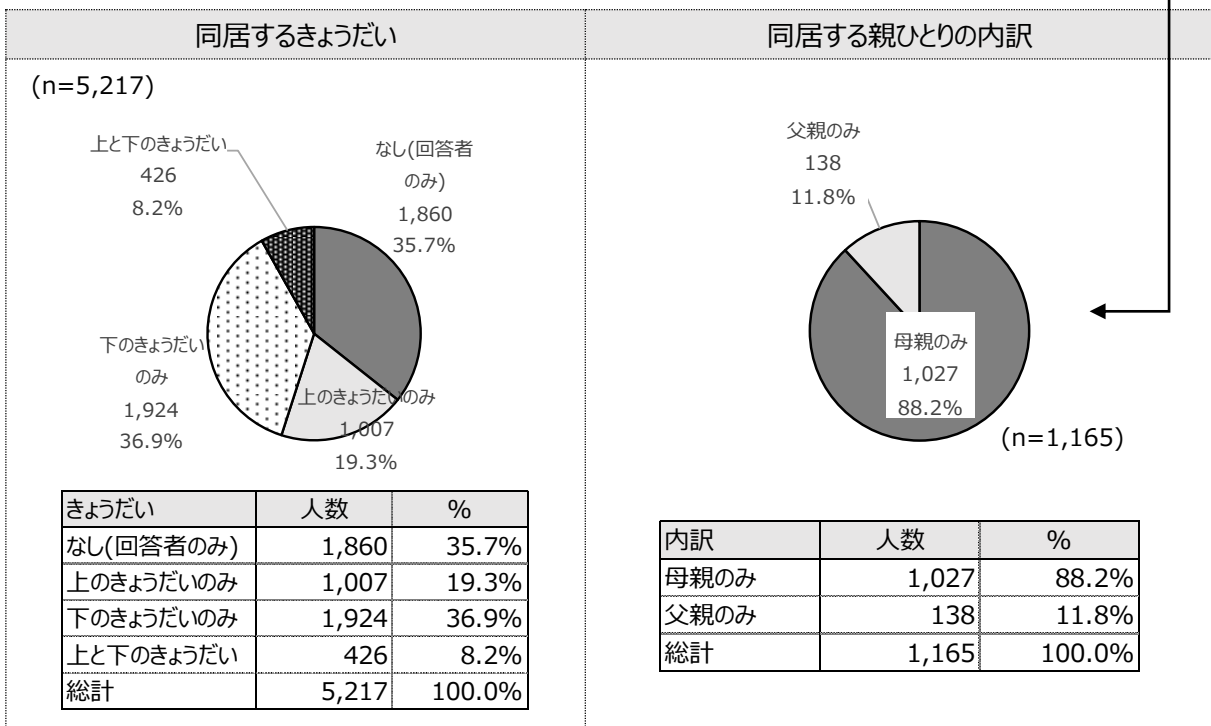
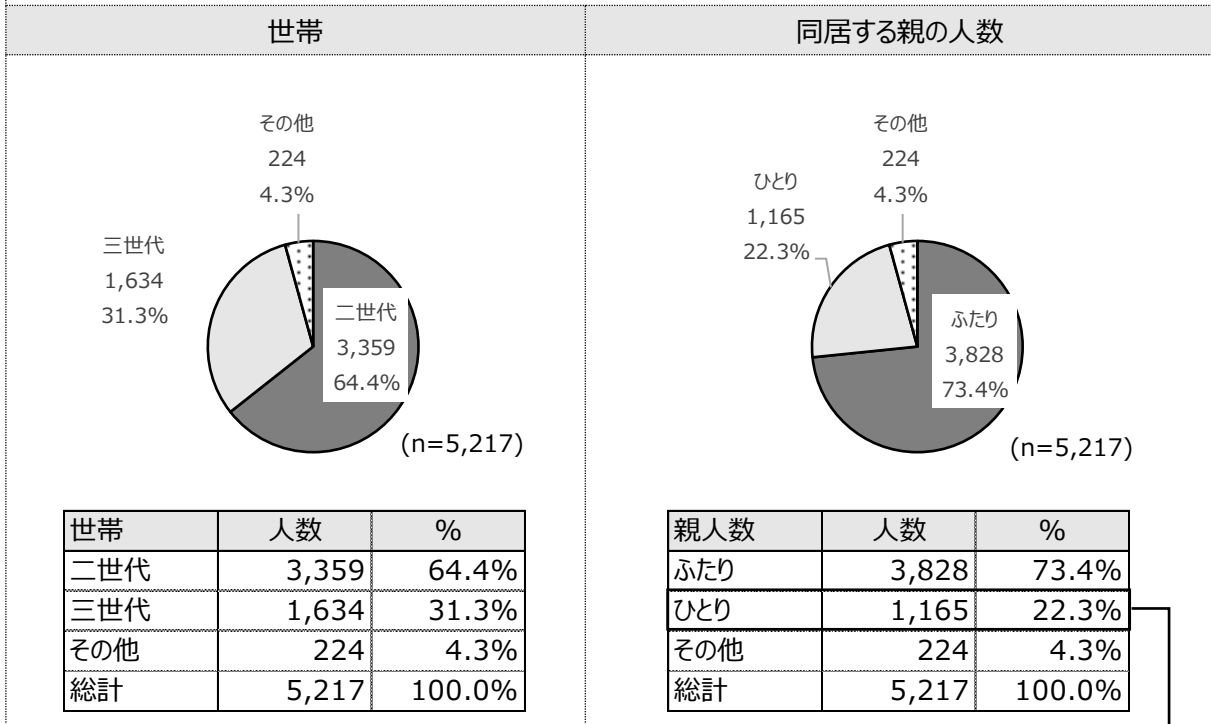
小学6年生



中学 2 年生

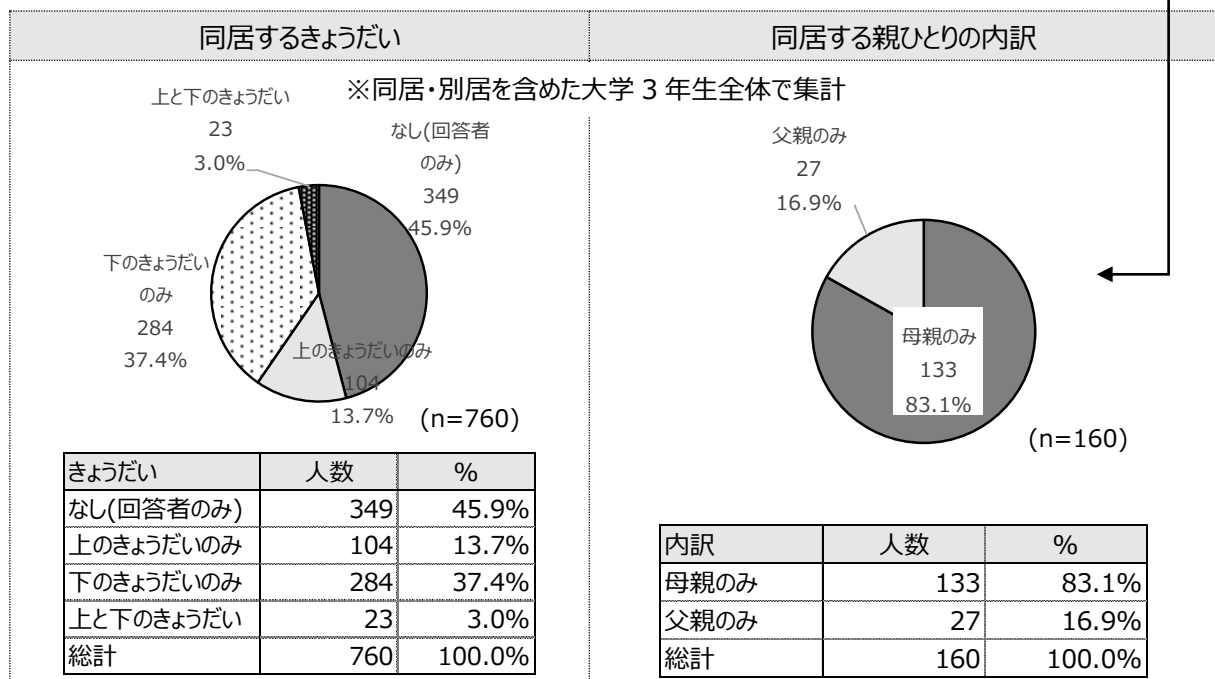
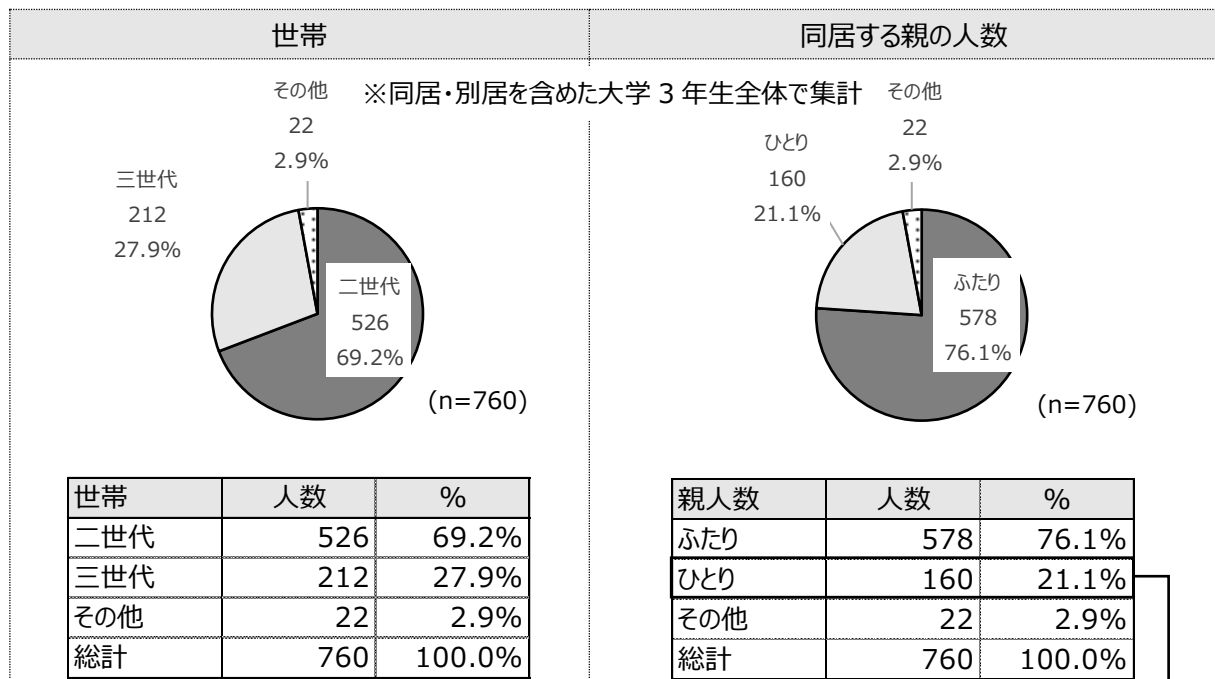
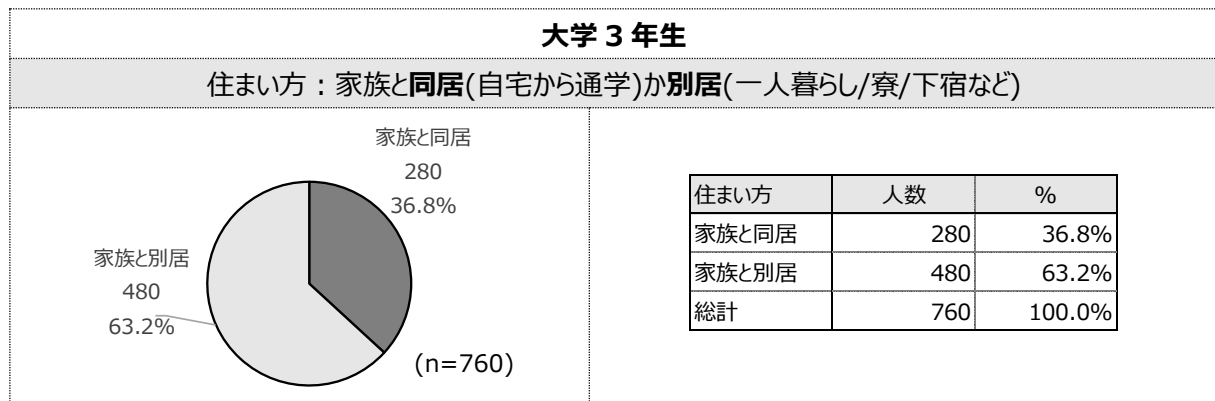


高校 2 年生



小学 6 年生、中学 2 年生と比較して、高校 2 年生では、きょうだいがなしとする回答が増えており、同居するきょうだいの分布が大きく変わっている。

大学3年生の住まい方と家族構成



3.1.5 親の就労状況

一緒に住んでいる/実家に住んでいる家族に「母親」「父親」を選択した回答者に対して、

Q：お母さん/お父さんはお仕事をしていますか。(家事や家族のお世話を除いて)

↓
している

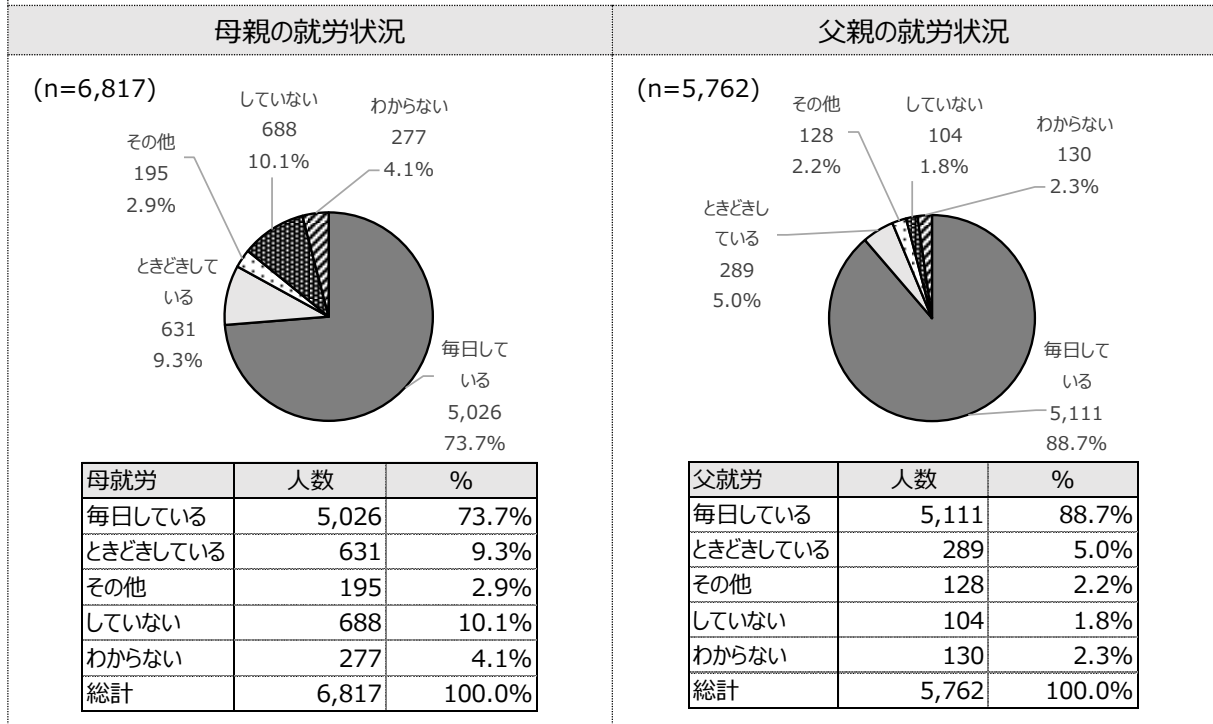
<中学 2 年生・高校 2 年生・大学 3 年生のみ>

Q：お母さん/お父さんの職業を教えてください。

父親の就労状況	すべての学校種別で、仕事を「毎日している」が最も高く、約 9 割だった。
母親の就労状況	すべての学校種別で、仕事を「毎日している」が最も高く、約 7 割強、次いで「ときどきしている」が 1 割前後であった。 母親が仕事をしている割合 (「毎日している」+「ときどきしている」+「その他」)は約 9 割であった。

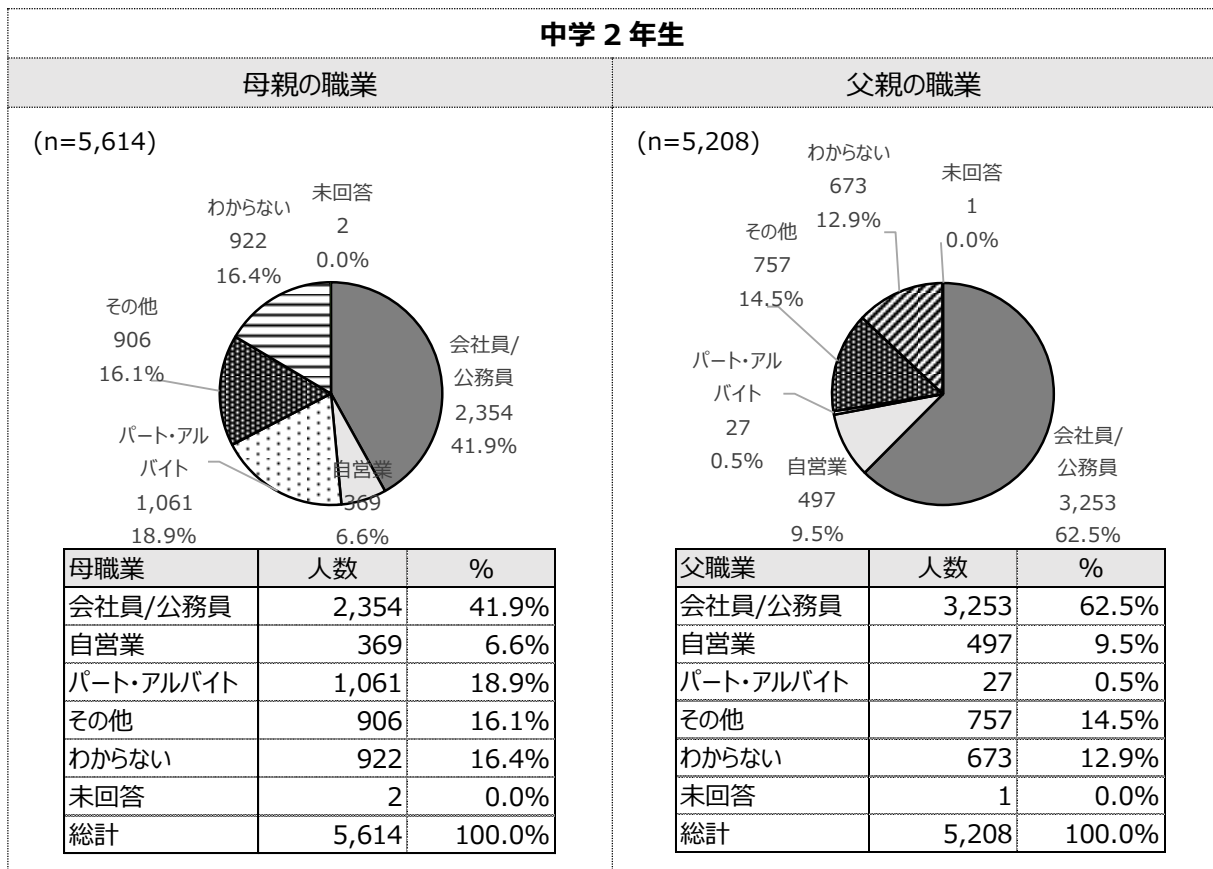
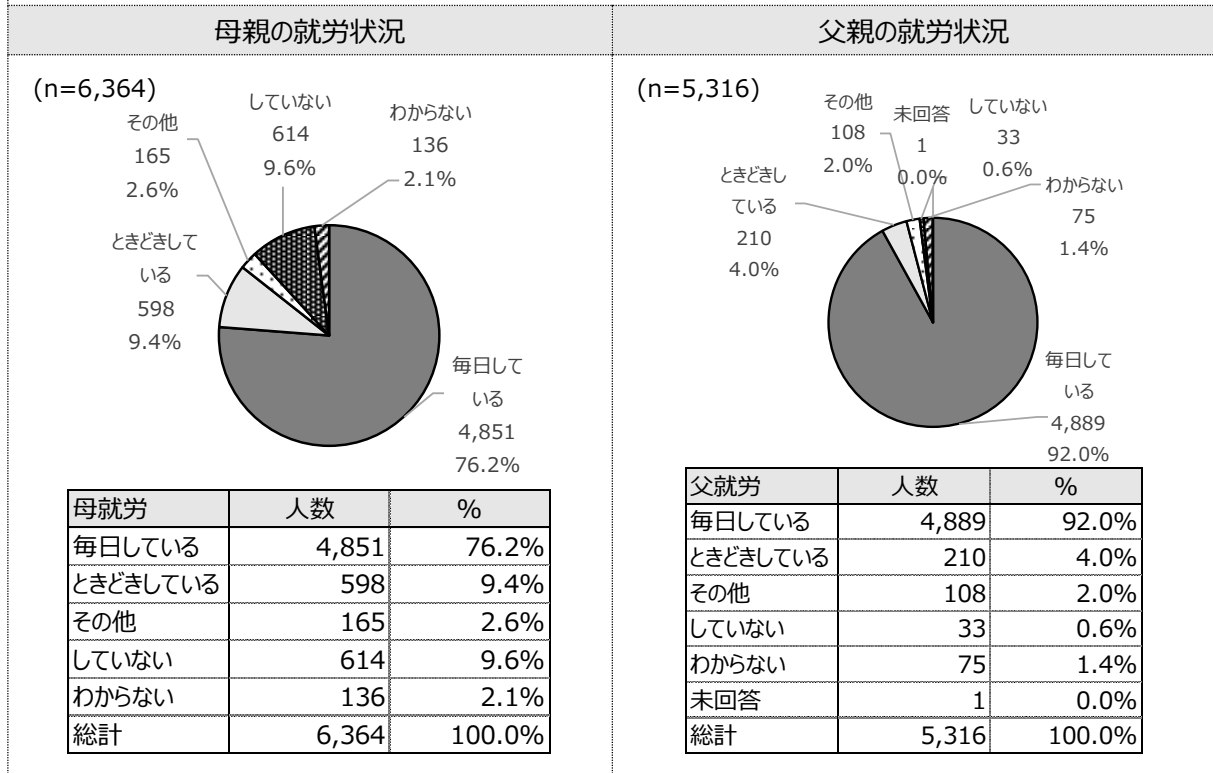
父親の職業	「 会社員/公務員 」と回答した割合が、中学 2 年生では 62.5%、高校 2 年生では 71.2%、大学 3 年生では 80.4%と、ほかの職業と比べ最も高かった。母親とは異なり、パート・アルバイトは 1 %以下であった。
母親の職業	「 会社員/公務員 」と回答した割合が、中学 2 年生では 41.9%、高校 2 年生では 45.9%、大学 3 年生では 46.2%と、ほかの職業と比べ最も高かったが、父親と比較すると低かった。また、「パート・アルバイト」の割合が、中学 2 年生では 18.9%、高校 2 年生では 28.1%、大学 3 年生では 40.3%であった。

小学6年生



- ※ 同居している家族に母親・父親を選択した回答者のみへ質問している。(以下、中学2年生、高校2年生、大学3年生も同様)
- ※ その他…自由記述欄に働いている日数や休みの曜日が記述されていたため、仕事をしている割合に含める。(以下、中学2年生、高校2年生、大学3年生も同様)

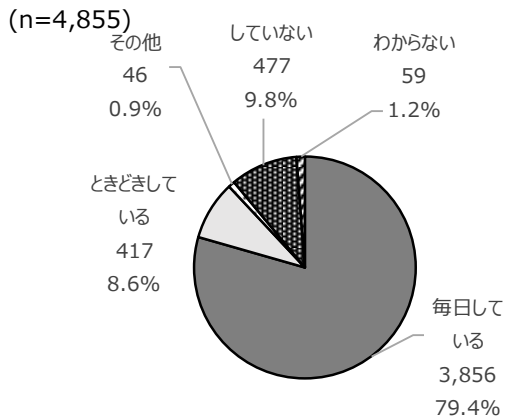
中学 2 年生



※ 仕事を「毎日している」「時々している」「その他」を選択した回答者へ質問している。(以下、高校 2 年生、大学 3 年生も同様)

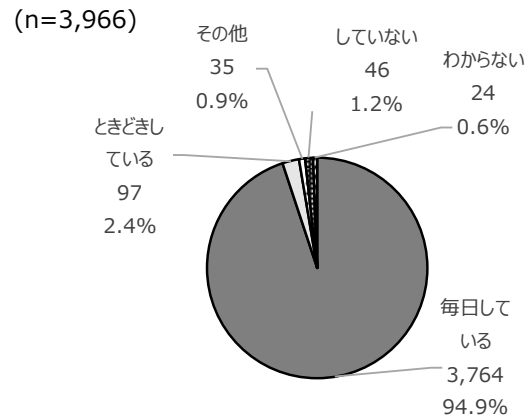
高校2年生

母親の就労状況



母就労	人数	%
毎日している	3,856	79.4%
ときどきしている	417	8.6%
その他	46	0.9%
していない	477	9.8%
わからない	59	1.2%
総計	4,855	100.0%

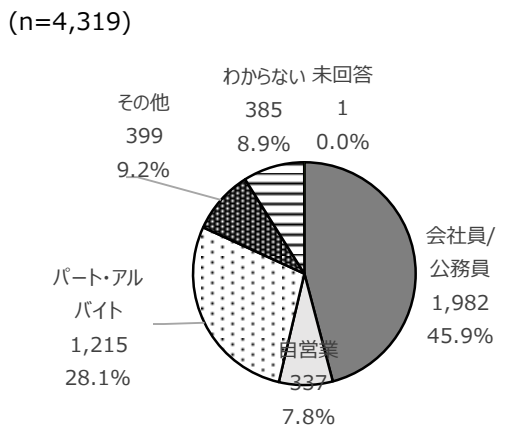
父親の就労状況



父就労	人数	%
毎日している	3,764	94.9%
ときどきしている	97	2.4%
その他	35	0.9%
していない	46	1.2%
わからない	24	0.6%
総計	3,966	100.0%

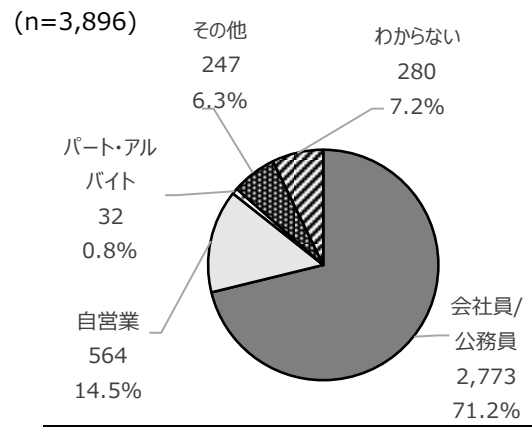
高校2年生

母親の職業



母職業	人数	%
会社員/公務員	1,982	45.9%
自営業	337	7.8%
パート・アルバイト	1,215	28.1%
その他	399	9.2%
わからない	385	8.9%
未回答	1	0.0%
総計	4,319	100.0%

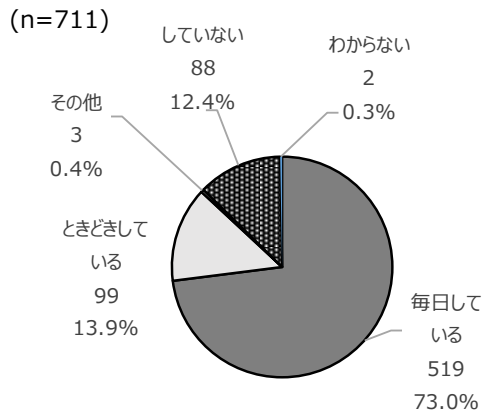
父親の職業



父職業	人数	%
会社員/公務員	2,773	71.2%
自営業	564	14.5%
わからない	280	7.2%
その他	247	6.3%
パート・アルバイト	32	0.8%
総計	3,896	100.0%

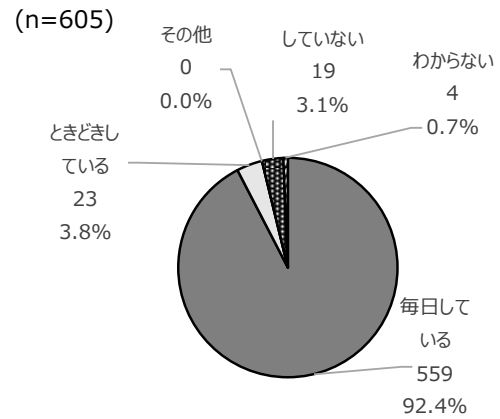
大学3年生

母親の就労状況



母就労	人数	%
毎日している	519	73.0%
ときどきしている	99	13.9%
その他	3	0.4%
していない	88	12.4%
わからない	2	0.3%
総計	711	100.0%

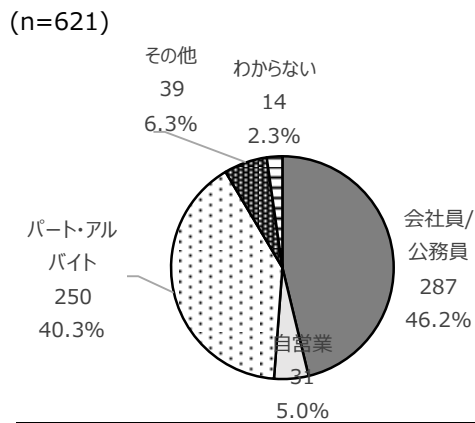
父親の就労状況



父就労	人数	%
毎日している	559	92.4%
ときどきしている	23	3.8%
その他	0	0.0%
していない	19	3.1%
わからない	4	0.7%
総計	605	100.0%

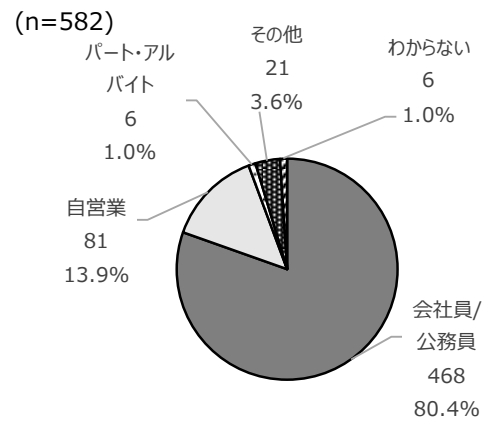
大学3年生

母親の職業



母職業	人数	%
会社員/公務員	287	46.2%
自営業	31	5.0%
パート・アルバイト	250	40.3%
その他	39	6.3%
わからない	14	2.3%
総計	621	100.0%

父親の職業



父職業	人数	%
会社員/公務員	468	80.4%
自営業	81	13.9%
パート・アルバイト	6	1.0%
その他	21	3.6%
わからない	6	1.0%
総計	582	100.0%

3.2 学校・家庭での生活について

本セクションでは、下記の項目について記載する。

3.2.1 健康状態

3.2.2 欠席 / 遅刻・早退

3.2.3 学校生活

3.2.4 部活動や習い事(小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生のみ)

3.2.5 悩みごと・話を聞いてくれる相手

3.2.1 健康状態

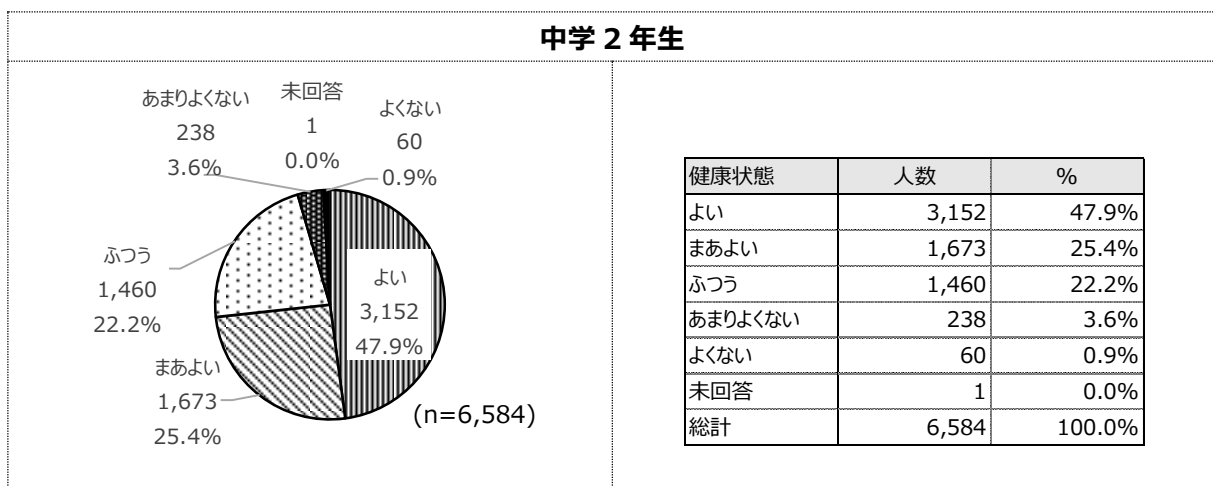
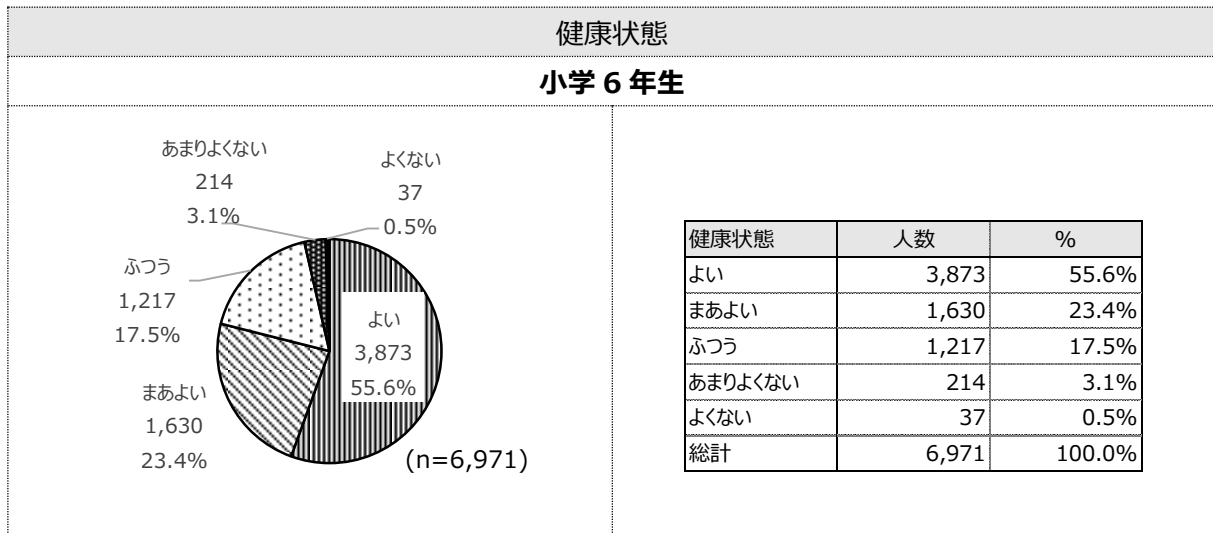
Q：あなたの健康状態について教えてください。

※ 小学6年生、中学2年生、高校2年生には回答者の健康状態を聞いている。大学3年生には身体面と精神面の健康状態を聞いている。

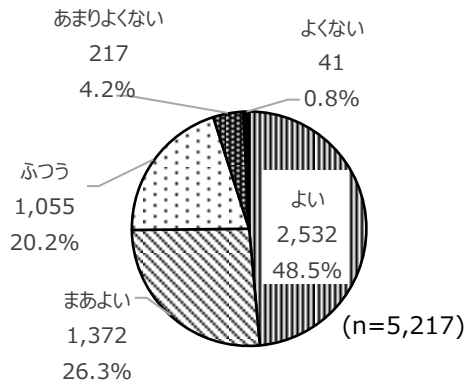
小学6年生、中学2年生、高校2年生の健康状態

健康状態については、すべての学校種別で、「よい」「まあよい」を合わせた割合は、約7～8割であった。「ふつう」が約2割、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は3～5%程度であった。

中学2年生、高校2年生の「よい」と回答した割合は、小学6年生と比べ低かった。



高校2年生



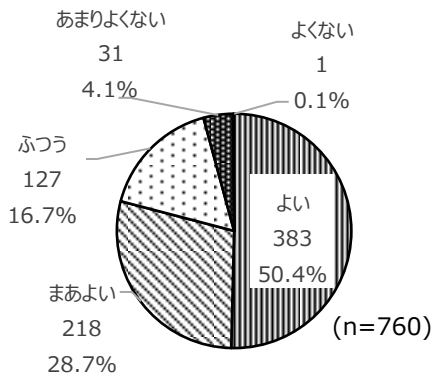
健康状態	人数	%
よい	2,532	48.5%
まあよい	1,372	26.3%
ふつう	1,055	20.2%
あまりよくない	217	4.2%
よくない	41	0.8%
総計	5,217	100.0%

大学3年生の健康状態(身体面・精神面)

健康状態については、大学3年生の**身体面**では、「よい」「まあよい」を合わせた割合は79.1%であった。「ふつう」が16.7%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は4.2%であった。また、**精神面**は、「よい」「まあよい」を合わせた割合は59.6%であり、身体面に比べ少なかった。

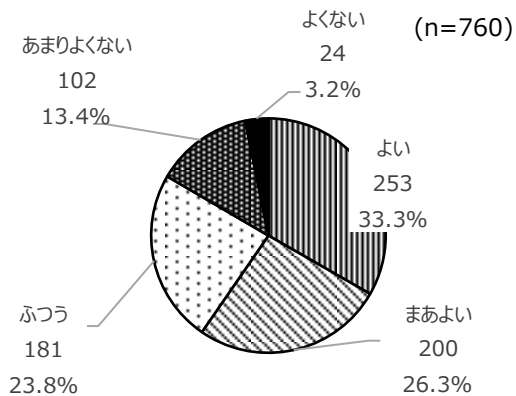
大学3年生

身体面の健康状態



健康状態(身体)	人数	%
よい	383	50.4%
まあよい	218	28.7%
ふつう	127	16.7%
あまりよくない	31	4.1%
よくない	1	0.1%
総計	760	100.0%

精神面の健康状態

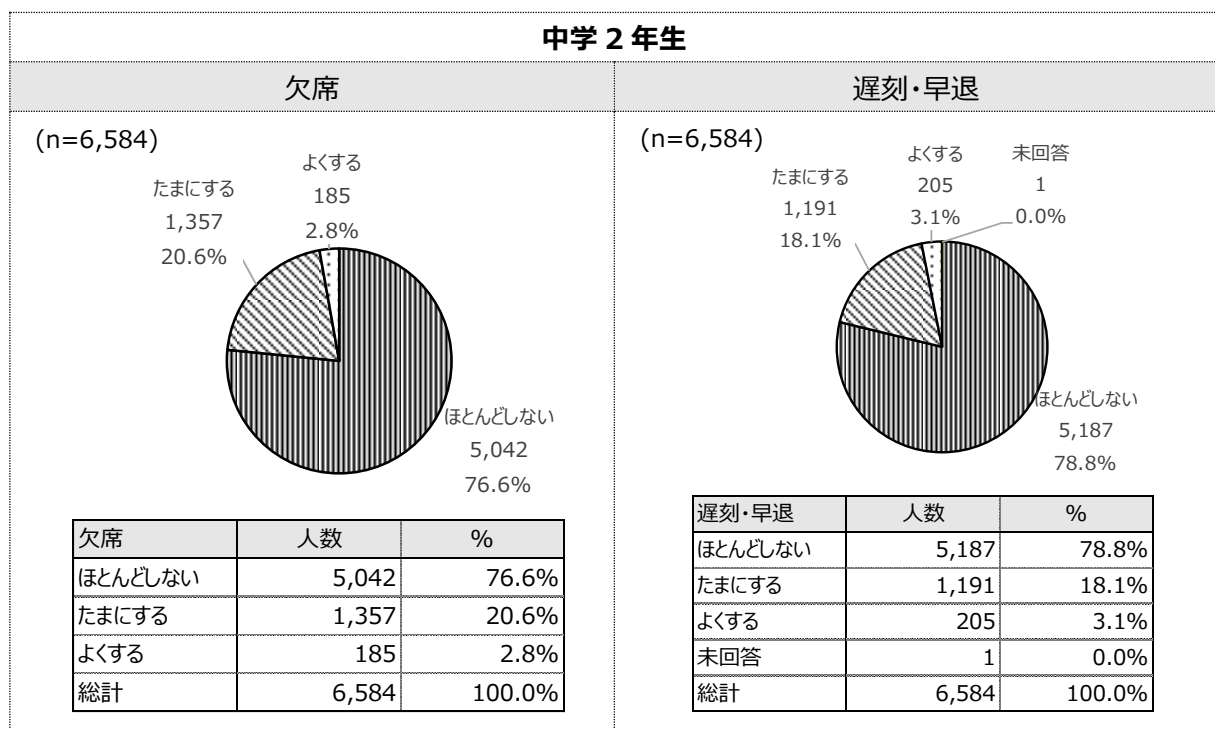
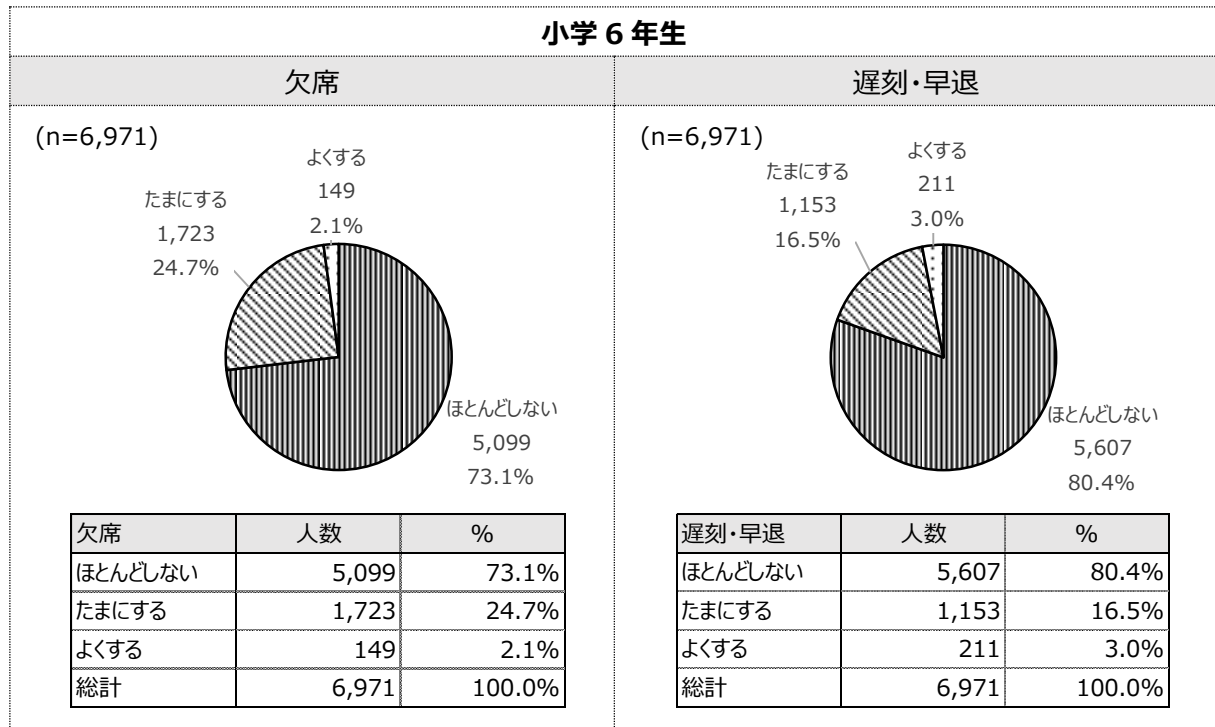


健康状態(精神)	人数	%
よい	253	33.3%
まあよい	200	26.3%
ふつう	181	23.8%
あまりよくない	102	13.4%
よくない	24	3.2%
総計	760	100.0%

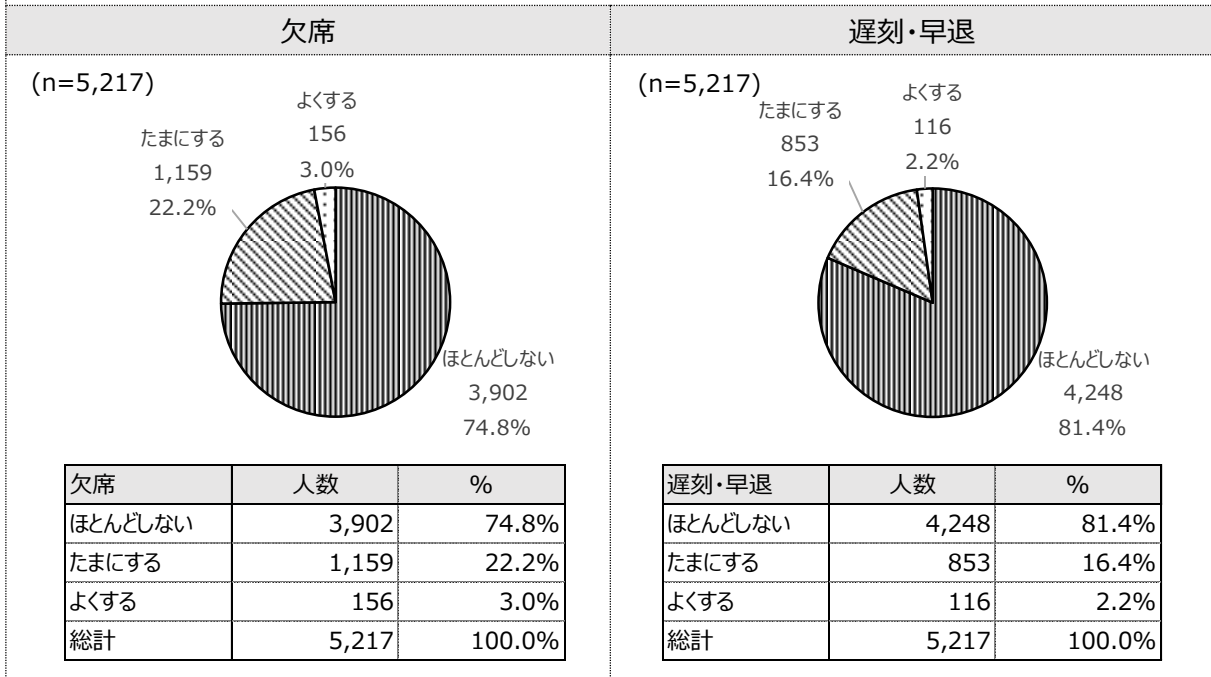
3.2.2 欠席 / 遅刻・早退

Q：あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

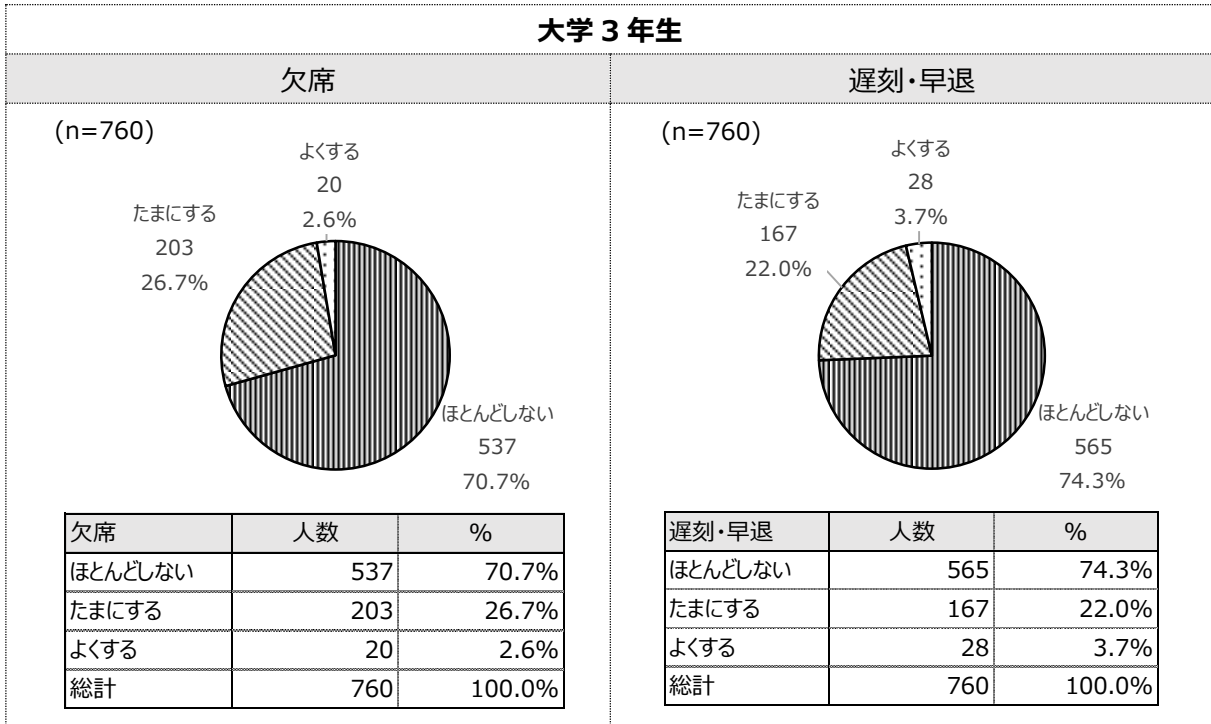
学校への出席状況については、すべての学校種別で、「ほとんどしない」が約7～8割、「たまにする」は2割前後、「よくする」は3%前後であった。



高校 2 年生



大学 3 年生



3.2.3 学校生活

Q：ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまるものすべて)

※ 授業中の居眠りや宿題ができていない、持ち物の忘れ物が多いなど学校生活についての質問。

小学6年生（複数回答）

ふだんの学校生活であてはまることについては、「**特にない**」（60.6%）が最も高く、次いで「持ち物のわずれ物が多い」（23.0%）、「提出物を出すのがおくれることが多い」（18.7%）であった。

ふだんの学校生活について	人数	%
授業中にねてしまうことが多い	608	8.7%
宿題ができていないことが多い	782	11.2%
持ち物のわずれ物が多い	1,606	23.0%
部活動や習い事を休むことが多い	218	3.1%
提出物を出すのがおくれることが多い	1,303	18.7%
修学旅行などの宿はく行事を欠席する	28	0.4%
保健室で過ごすことが多い	77	1.1%
学校では一人で過ごすことが多い	337	4.8%
友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	281	4.0%
特にない	4,225	60.6%
		n=6,971

中学2年生（複数回答）

ふだんの学校生活であてはまることについては、「**特にない**」（50.1%）が最も高く、次いで「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れることが多い」（23.7%）、「授業中に居眠りすることが多い」（22.1%）であった。

ふだんの学校生活について	人数	%
授業中に居眠りすることが多い	1,453	22.1%
宿題や課題ができていないことが多い	1,344	20.4%
持ち物の忘れ物が多い	1,297	19.7%
部活動や習い事を休むことが多い	483	7.3%
提出しなければならぬ書類などの提出が遅れることが多い	1,559	23.7%
修学旅行などの宿泊行事を欠席する	27	0.4%
保健室で過ごすことが多い	91	1.4%
学校では一人で過ごすことが多い	405	6.2%
友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	373	5.7%
特にない	3,300	50.1%
		n=6,584

高校 2 年生（複数回答）

ふだんの学校生活ではまるごとについては、「**特にない**」（43.8%）が最も高く、次いで「授業中に居眠りすることが多い」（40.0%）、「宿題や課題ができていないことが多い」（18.1%）であった。

ふだんの学校生活について	人数	%
授業中に居眠りすることが多い	2,085	40.0%
宿題や課題ができていないことが多い	943	18.1%
持ち物の忘れ物が多い	749	14.4%
部活動や習い事を休むことが多い	285	5.5%
提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	894	17.1%
修学旅行などの宿泊行事を欠席する	111	2.1%
保健室で過ごすことが多い	48	0.9%
学校では一人で過ごすことが多い	350	6.7%
友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	330	6.3%
特にない	2,286	43.8%
		n=5,217

授業中の「**居眠り**」は、小学 6 年生では 8.7%、中学 2 年生では 22.1%、高校 2 年生では 40.0%となっており、小学 6 年生に比較して、中学 2 年生及び高校 2 年生の割合が高かった。

大学 3 年生（複数回答）

ふだんの学校生活ではまるごとについては、「**特にない**」（49.9%）が最も高く、次いで「課題や予習復習ができていないことが多い」（25.1%）、「大学では一人で過ごすことが多い」（19.7%）であった。

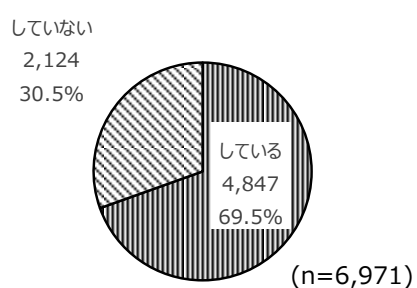
ふだんの大学生生活について	人数	%
授業を欠席しがちである	62	8.2%
課題や予習復習ができていないことが多い	191	25.1%
持ち物の忘れ物が多い	82	10.8%
部活・サークル等を休むことが多い	49	6.4%
提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	75	9.9%
合宿等の行事を欠席する	13	1.7%
大学では一人で過ごすことが多い	150	19.7%
友達と遊んだり、話したりする時間が少ない	131	17.2%
特にない	379	49.9%
		n=760

3.2.4 部活動や習い事(小学6年生、中学2年生、高校2年生のみ)

Q：部活動(学校外での活動を含む)や習い事をしていますか。

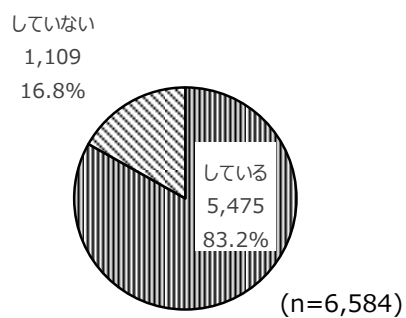
部活動(学校外での活動を含む)や習い事については、「**している**」と回答した割合が小学6年生は69.5%、中学2年生は83.2%、高校2年生は72.6%であり、中学2年生は、すべての学校種別の中で、部活動や習い事をしている割合が最も高かった。

小学6年生



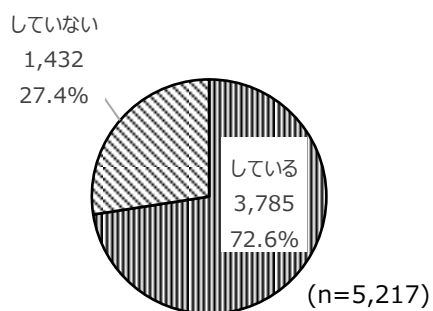
部活	人数	%
している	4,847	69.5%
していない	2,124	30.5%
総計	6,971	100.0%

中学2年生



部活	人数	%
している	5,475	83.2%
していない	1,109	16.8%
総計	6,584	100.0%

高校2年生



部活	人数	%
している	3,785	72.6%
していない	1,432	27.4%
総計	5,217	100.0%

3.2.5 悩みごと・話を聞いてくれる相手

Q：あなたが悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべて)

↓
「特にない」以外の選択肢を選んだ回答者に対して

Q：その悩みについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

悩みごとの有無

悩みごとの有無については、小学6年生では、悩みごとが「**特にない**」と回答した割合は71.9%であり、中学2年生では42.1%、高校2年生では32.3%、大学3年生では15.7%であった。

小学6年生（複数回答）

悩みごとの有無については、「**特にない**」（71.9%）が最も高く、次いで「**友達のこと**」（12.6%）、「**学校の成績のこと**」（12.2%）であった。

悩んでいること	人数	%
友達のこと	875	12.6%
学校の成績のこと	852	12.2%
部活動や習い事のこと	398	5.7%
家族のこと	384	5.5%
生活や勉強に必要なお金のこと	238	3.4%
自分のために使える時間が少ないこと	269	3.9%
その他	247	3.5%
特にない	5,015	71.9%
		n=6,971

中学 2 年生（複数回答）

悩みごとの有無については、「**特にない**」（42.1%）が最も高く、次いで「**進路のこと**」（39.7%）、「**学業成績のこと**」（34.6%）であった。

悩んでいること	人数	%
友人との関係のこと	1,031	15.7%
学業成績のこと	2,280	34.6%
進路のこと	2,613	39.7%
部活動や習い事のこと	916	13.9%
学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	267	4.1%
塾(通信含む)や習い事ができない	94	1.4%
家庭の経済的状況のこと	272	4.1%
自分と家族との関係のこと	379	5.8%
家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	279	4.2%
病気や障がいのある家族のこと	100	1.5%
自分のために使える時間が少ないこと	371	5.6%
その他	170	2.6%
特にない	2,775	42.1%
		n=6,584

高校 2 年生（複数回答）

悩みごとの有無については、「**進路のこと**」（52.5%）が最も高く、次いで「**学業成績のこと**」（37.0%）、「**特にない**」（32.3%）であった。

悩んでいること	人数	%
友人との関係のこと	642	12.3%
学業成績のこと	1,931	37.0%
進路のこと	2,738	52.5%
部活動や習い事のこと	567	10.9%
学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	379	7.3%
塾(通信含む)や習い事ができない	54	1.0%
家庭の経済的状況のこと	332	6.4%
自分と家族との関係のこと	249	4.8%
家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	204	3.9%
病気や障がいのある家族のこと	94	1.8%
自分のために使える時間が少ないこと	431	8.3%
その他	116	2.2%
特にない	1,687	32.3%
		n=5,217

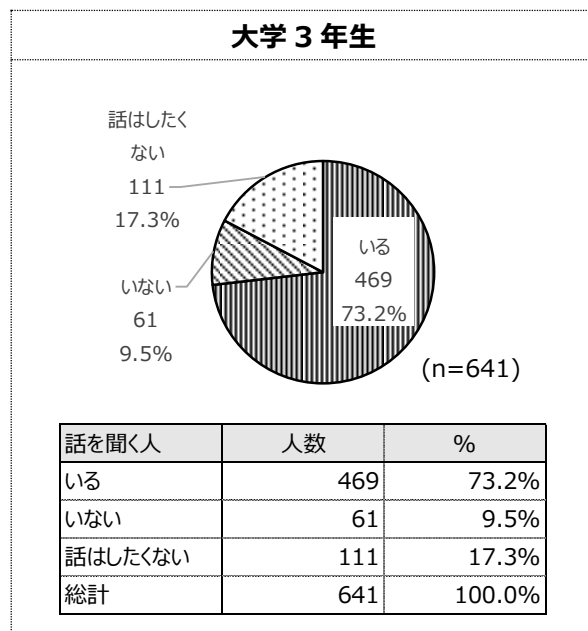
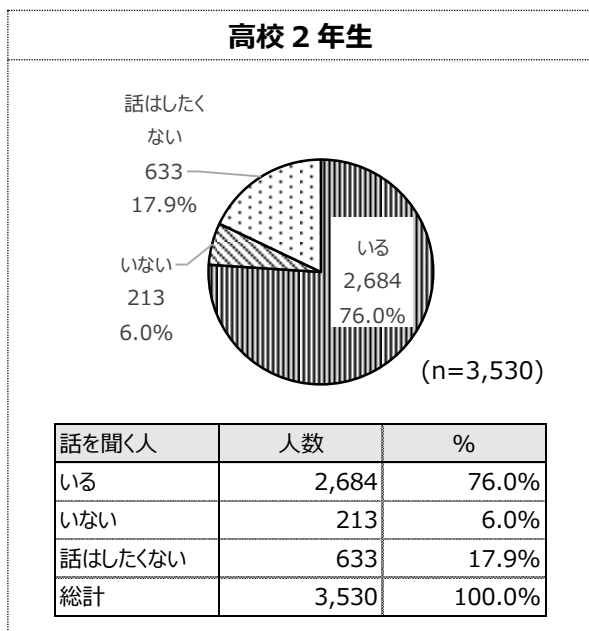
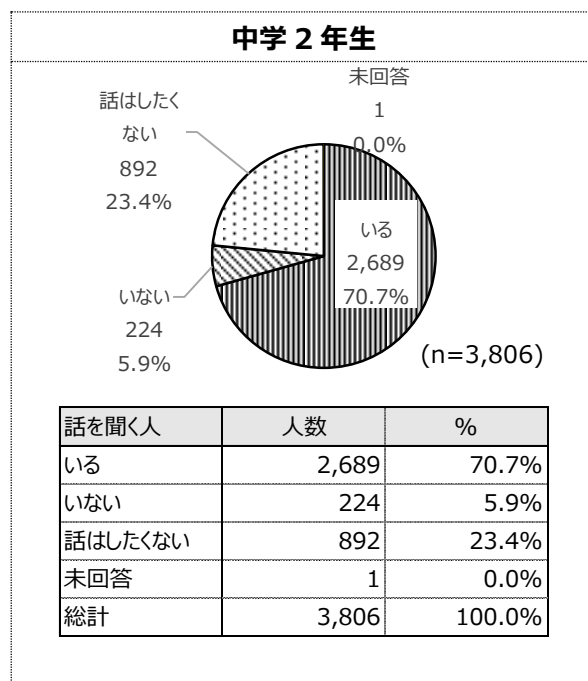
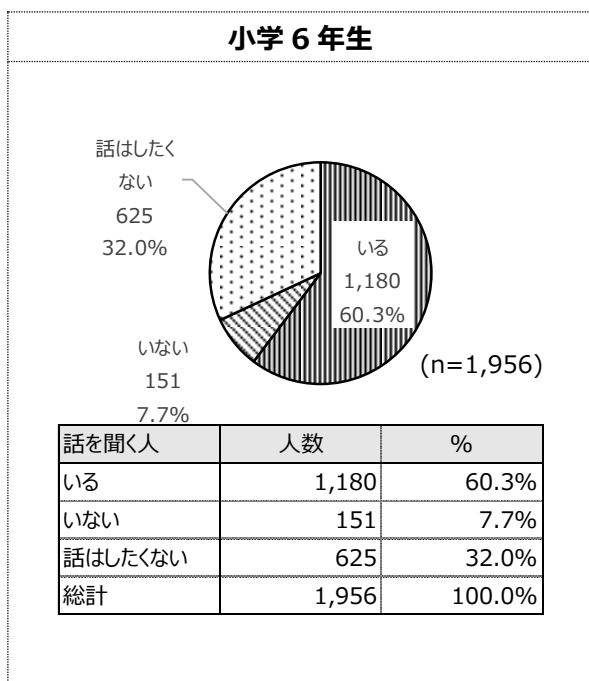
大学3年生（複数回答）

悩みごとの有無については、「就職・進路のこと」（68.4%）が最も高く、次いで「学業成績のこと」（25.8%）、「学費（授業料）など大学生生活に必要なお金のこと」（23.8%）であった。

悩んでいること	人数	%
友人との関係のこと	105	13.8%
学業成績のこと	196	25.8%
就職・進路のこと	520	68.4%
部活動・サークル活動のこと	39	5.1%
学費(授業料)など大学生生活に必要なお金のこと	181	23.8%
課外活動や習い事ができない	21	2.8%
アルバイト・仕事のこと	160	21.1%
家庭の経済的状況のこと	115	15.1%
自分と家族との関係のこと	69	9.1%
家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	46	6.1%
病気や障がいのある家族のこと	25	3.3%
自分のために使える時間が少ないこと	91	12.0%
その他	21	2.8%
特になし	119	15.7%
		n=760

話を聞いてくれる相手（悩みごとの有無について、「特にない」以外の選択肢を選んだ回答者に対して質問）

話を聞いてくれる相手については、すべての学校種別で、「いる」と回答した割合が 6～8 割で最も多かった。次いで「話したくない」が 2～3 割であり、小学 6 年生は、「話をしたくない」という回答が、すべての学校種別のうち、最も多かった。「いない」と回答している割合は 1 割未満であった。



3.3 家庭内でのお世話の状況

本セクションでは、下記の項目について記載する。

3.3.1 お世話が必要な人の有無

3.3.2 お世話が必要な人

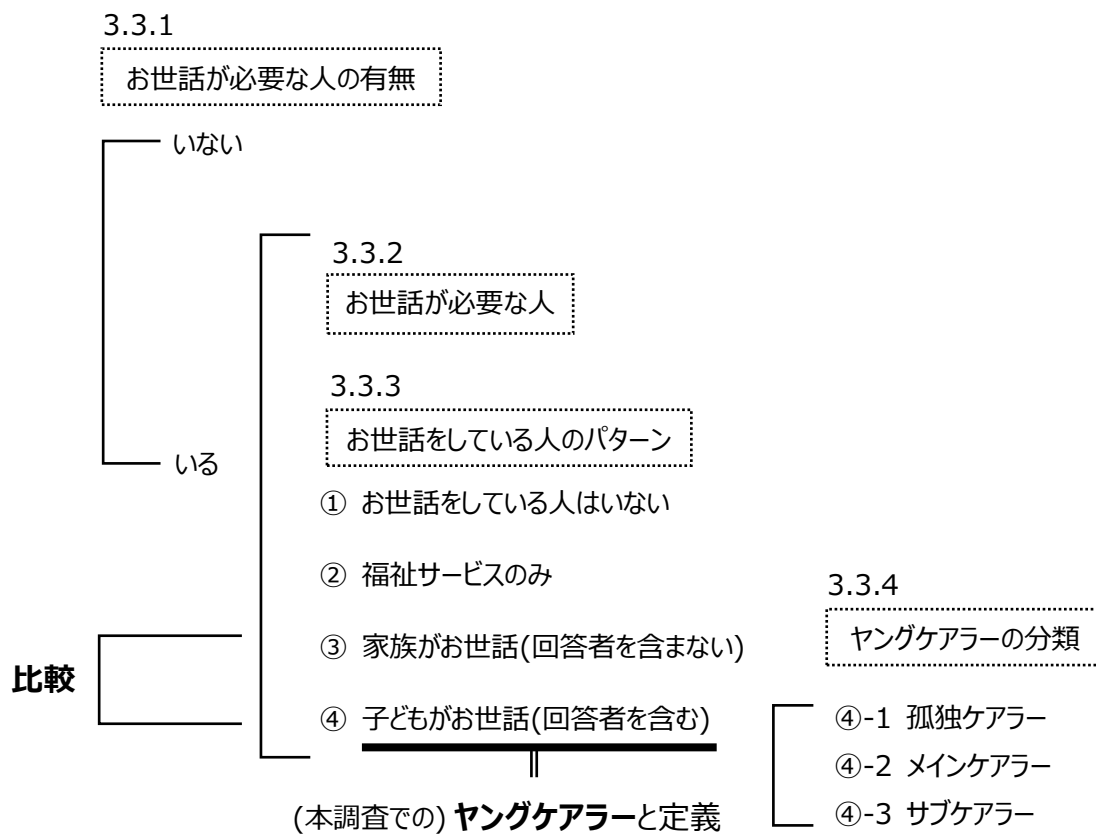
3.3.3 お世話をしている人のパターン

3.3.4 ヤングケアラーの分類

3.3.5 お世話が必要な人 × お世話をしている人のパターン

3.3.6 お世話が必要な理由

3.3.7 お世話の内容



3.3.1 お世話が必要な人の有無

<小学6年生・中学2年生・高校2年生> ⇒現在いるか

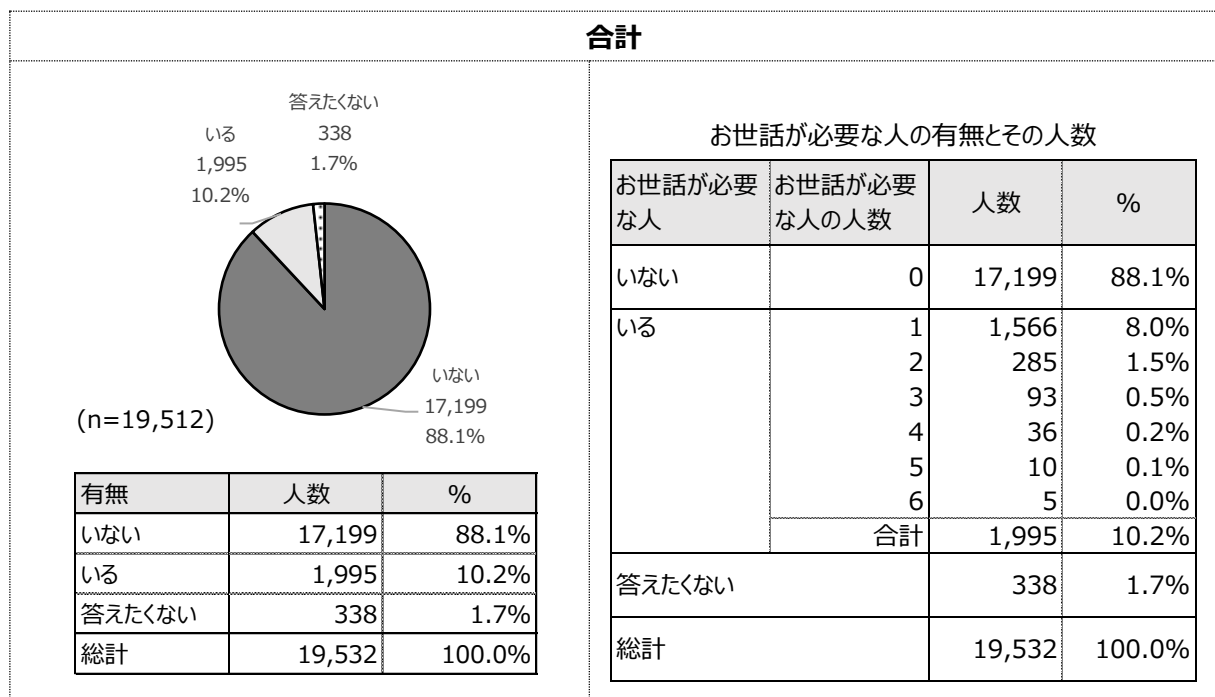
Q：一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人がいますか。
(あてはまる人すべて)

<大学3年生> ⇒現在いるかまたは過去にいたか

Q：一緒に住んでいる(家族と別居の場合は実家に住んでいる)人の中で現在(または過去に)、
食事や身の回りのお世話が必要な人がいますか。(あてはまる人すべて)

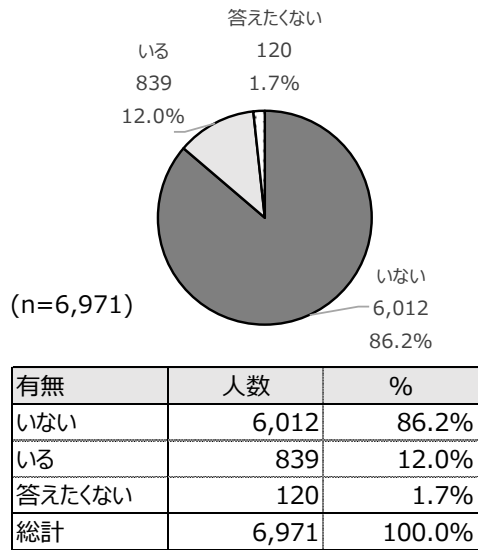
お世話が必要な人の有無について、「いる」と回答した割合は、回答者の **10.2%** で、おおよそ **10人に1人** が、お世話が必要な人がいると回答した。

小学6年生は12.0%、**中学2年生**は9.6%、**高校2年生**は8.4%、**大学3年生**は「現在いる」が11.3%、「過去にいた」は2.6%であった。



※大学3年生のお世話が必要な人の「過去も現在もいない」、「過去にいた」を「いない」とし、合計している。

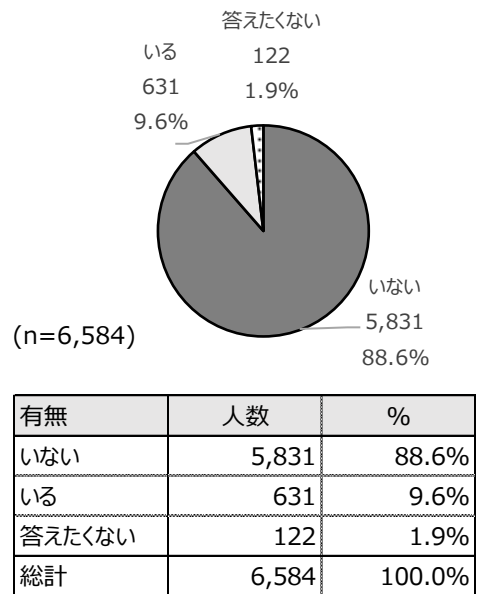
小学6年生



お世話が必要な人の有無とその人数

お世話が必要な人	お世話が必要な人の人数	人数	%
いない	0	6,012	86.2%
いる	1	611	8.8%
	2	139	2.0%
	3	61	0.9%
	4	23	0.3%
	5	4	0.1%
	6	1	0.0%
	合計	839	12.0%
答えたくない		120	1.7%
総計		6,971	100.0%

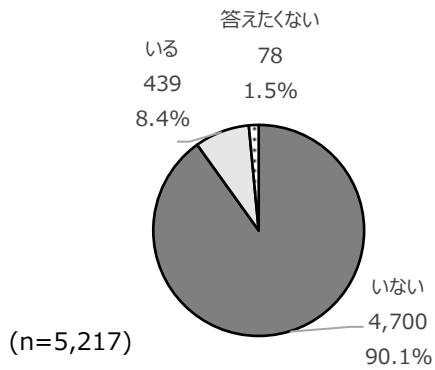
中学2年生



お世話が必要な人の有無とその人数

お世話が必要な人	お世話が必要な人の人数	人数	%
いない	0	5,831	88.6%
いる	1	509	7.7%
	2	86	1.3%
	3	17	0.3%
	4	12	0.2%
	5	4	0.1%
	6	3	0.0%
	合計	631	9.6%
答えたくない		122	1.9%
総計		6,584	100.0%

高校2年生

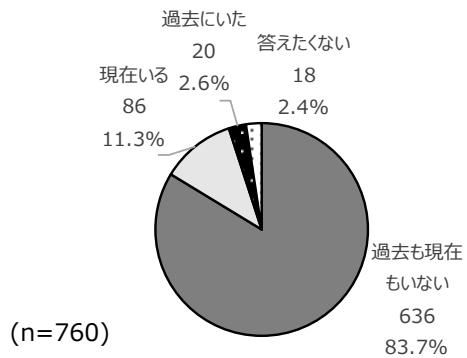


有無	人数	%
いない	4,700	90.1%
いる	439	8.4%
答えたくない	78	1.5%
総計	5,217	100.0%

お世話が必要な人の有無とその人数

お世話が必要な人	お世話が必要な人の人数	人数	%
いない	0	4,700	90.1%
いる	1	366	7.0%
	2	54	1.0%
	3	15	0.3%
	4	1	0.0%
	5	2	0.0%
	6	1	0.0%
	合計	439	8.4%
答えたくない		78	1.5%
総計		5,217	100.0%

大学3年生



有無	人数	%
過去も現在もいない	636	83.7%
現在いる	86	11.3%
過去にいた	20	2.6%
答えたくない	18	2.4%
総計	760	100.0%

お世話が必要な人の有無とその人数

お世話が必要な人	お世話が必要な人の人数	人数	%
過去も現在もいない	0	636	83.7%
現在いる	1	80	10.5%
	2	6	0.8%
	合計	86	11.3%
過去にいた	1	19	2.5%
	2	1	0.1%
	合計	20	2.6%
答えたくない		18	2.4%
総計		760	100.0%

大学3年生の集計・分析方法

大学3年生では、お世話が必要な家族が「現在いるか」、いない場合は「過去にいたか」を質問しているが、本報告書では、「現在いる」を選択した回答者の調査結果を記載する。

お世話が必要な人(現在いる+過去にいた)の内訳			
お世話が必要な人	お世話が必要な人の人数	人数	%
過去も現在もいない	0	636	83.7%
現在いる	1	80	10.5%
	2	6	0.8%
	合計	86	11.3%
過去にいた	1	19	2.5%
	2	1	0.1%
	合計	20	2.6%
答えたくない		18	2.4%
総計		760	100.0%

※ 「過去にいた」と回答した20人のうち、自分(子ども)がお世話をしていた回答者は6名。

※ 大学生になる以前(小・中・高校)にお世話が必要だった家族が多く含まれると考えられるため、**「現在いる」大学生と合算せずに**、本報告書の調査結果(本編)では、「過去にいた」20名を除いた740名を集計・分析の対象とする。

このうち、自分(子ども)がお世話をしていた回答者は6名

いつから	いつまで	人数
小学校就学以前から	中学入学以前まで	2
小学校高学年から	大学入学以前まで	1
中学生から	高校入学以前まで	2
大学入学以降	直近まで	1
総計		6

3.3.2 お世話が必要な人

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話が必要な人を聞いたところ、「妹・弟」(41.9%)が最も高く、次いで「母親」(26.1%)、「祖母」(20.7%)、「答えたくない」(17.1%)、「祖父」(15.2%)、「父親」(15.1%)、「姉・兄」(7.9%)、「その他」(5.3%)の順であった。

小学6年生では、「妹・弟」(46.2%)が最も高く、次いで「母親」(32.5%)、「父親」(20.3%)、「祖母」(17.4%)の順であった。

中学2年生では、「妹・弟」(46.8%)が最も高く、次いで「母親」(20.9%)、「祖母」(20.4%)、「答えたくない」(20.1%)の順であり、小学6年生と比べ、「母親」の割合が低かった。

高校2年生では、「妹・弟」(30.5%)が最も高く、次いで「祖母」(26.7%)、「母親」(22.6%)、「答えたくない」(18.5%)の順であり、小学6年生及び中学2年生と比べ「妹・弟」の割合が低く、「祖母」の割合が高かった。

大学3年生では、「祖母」「祖父」(24.4%)がいずれも最も高く、次いで「妹・弟」(22.1%)、「母親」(19.8%)の順であった。

お世話が必要な人(複数回答)

合計			
		人数	%
お世話が必要な人	母親	521	26.1%
	父親	302	15.1%
	祖母	413	20.7%
	祖父	303	15.2%
	姉・兄	158	7.9%
	妹・弟	836	41.9%
	その他	106	5.3%
	答えたくない	342	17.1%
(n=1,995)			

※各学校種別において、家庭内にお世話が必要な人が「いる」と答えた回答者人数(n)を分母としている。

小学6年生			
		人数	%
お世話が必要な人	母親	273	32.5%
	父親	170	20.3%
	祖母	146	17.4%
	祖父	116	13.8%
	姉・兄	70	8.3%
	妹・弟	388	46.2%
	その他	27	3.2%
	答えたくない	122	14.5%
(n=839)			

中学2年生			
		人数	%
お世話が必要な人	母親	132	20.9%
	父親	76	12.0%
	祖母	129	20.4%
	祖父	94	14.9%
	姉・兄	54	8.6%
	妹・弟	295	46.8%
	その他	38	6.0%
	答えたくない	127	20.1%
(n=631)			

高校2年生			
		人数	%
お世話が必要な人	母親	99	22.6%
	父親	48	10.9%
	祖母	117	26.7%
	祖父	72	16.4%
	姉・兄	32	7.3%
	妹・弟	134	30.5%
	その他	37	8.4%
	答えたくない	81	18.5%
(n=439)			

大学3年生			
		人数	%
お世話が必要な人	母親	17	19.8%
	父親	8	9.3%
	祖母	21	24.4%
	祖父	21	24.4%
	姉・兄	2	2.3%
	妹・弟	19	22.1%
	その他	4	4.7%
	答えたくない	12	14.0%
(n=86)			

3.3.3 お世話をしている人のパターン

Q：誰が、●●(お世話が必要な人)のお世話をしていますか。 ※お世話をしている人すべて

お世話が必要な家族が「いる」と答えた回答者を集計対象とし、**お世話をしている人が誰か**によって、以下の6つのパターンに分類している。

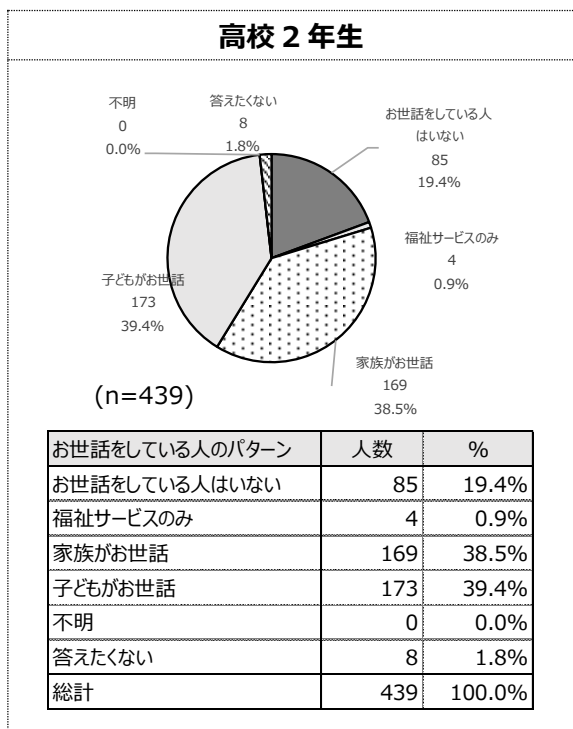
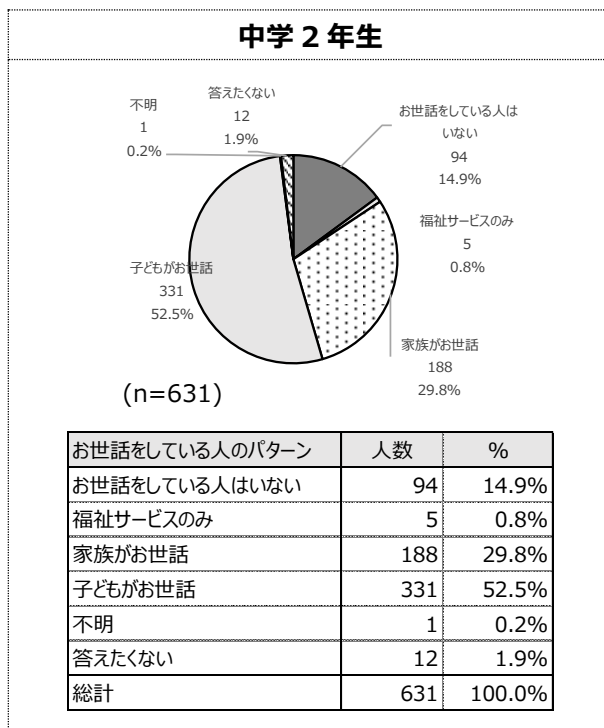
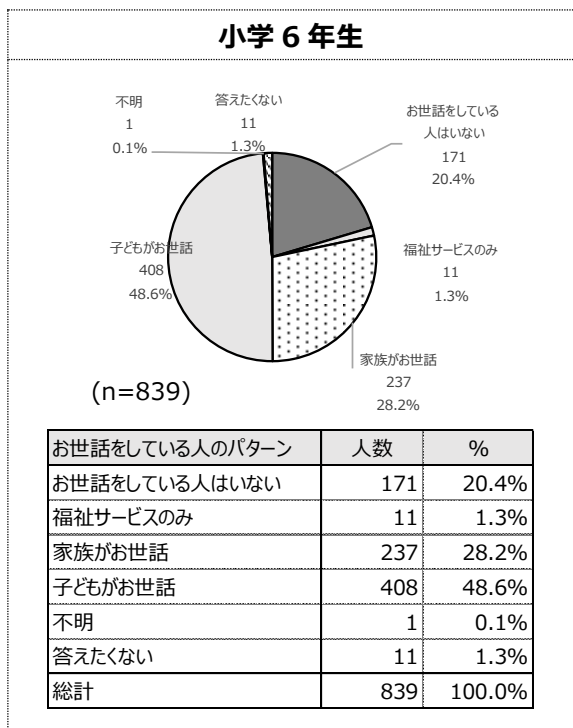
パターン	分類方法
お世話をしている人はいない	お世話が必要な家族がいるが、その人のお世話をしている人は「特にない」を選択した回答者(誰もお世話していない)。
福祉サービスのみ	お世話をしている人は「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」のみを選択した回答者(家族や子どもはお世話していない)。
家族がお世話⁴ (回答者を含まない)	お世話をしている人は、自分(回答者)以外を選択した回答者。主に 大人の家族がお世話 をしていて、 子どもはお世話をしていない 。 ※「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」の選択も含む。
子どもがお世話 (回答者を含む)	お世話をしている人に自分(回答者)を含めて選択した回答者。 ※自分のほかに家族を選択している場合も含む (子ども+家族 でお世話)。 ※「福祉サービス(ヘルパーなど)を利用」の選択も含む。
答えたくない	お世話をしている人全員について「答えたくない」を選択した回答者。
不明	お世話をしている人の一部に「答えたくない」を選択した回答者で、分類できない。

結果は次のページに記載する。

⁴ 厳密には、子どもであるきょうだいのみが家族のお世話をしている(回答者はしていない)場合もヤングケアラーのいる世帯となるが、本調査では少数である(小学6年生:21人、中学2年生:16人、高校2年生:7人、大学3年生:2人)。そのため、お世話をしている人が家族のみの場合は、主に大人がお世話をしているとみなす。

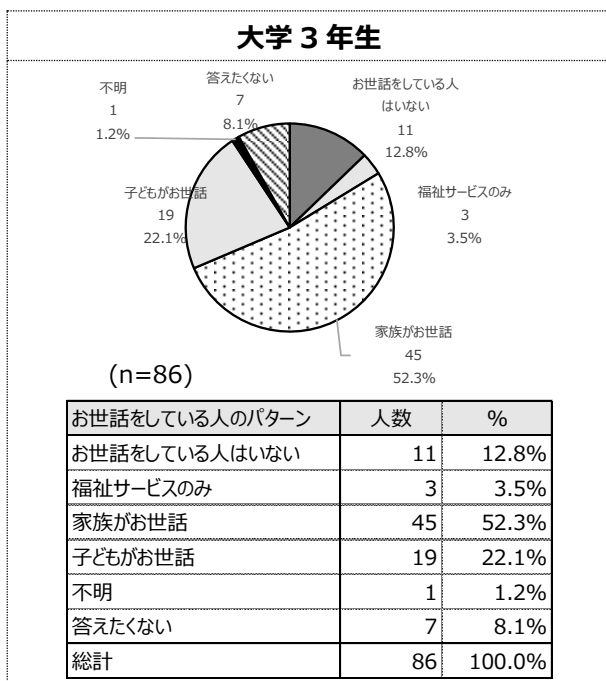
<小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生>

お世話をしている人のパターンとして最も多いものは、すべての学校種別で「**子どもがお世話**」であり、小学 6 年生は 48.6%、中学 2 年生は 52.5%、高校 2 年生は 39.4%であった。次いで、すべての学校種別で、「**家族がお世話**」が高く、小学 6 年生が 28.2%、中学 2 年生が 29.8%、高校 2 年生が 38.5%であった。これは、家庭内にお世話が必要な人がいる場合、回答者の 4～5 割はお世話をしている人に子どもが含まれており、子どもがお世達の役割を担っていることを示している。



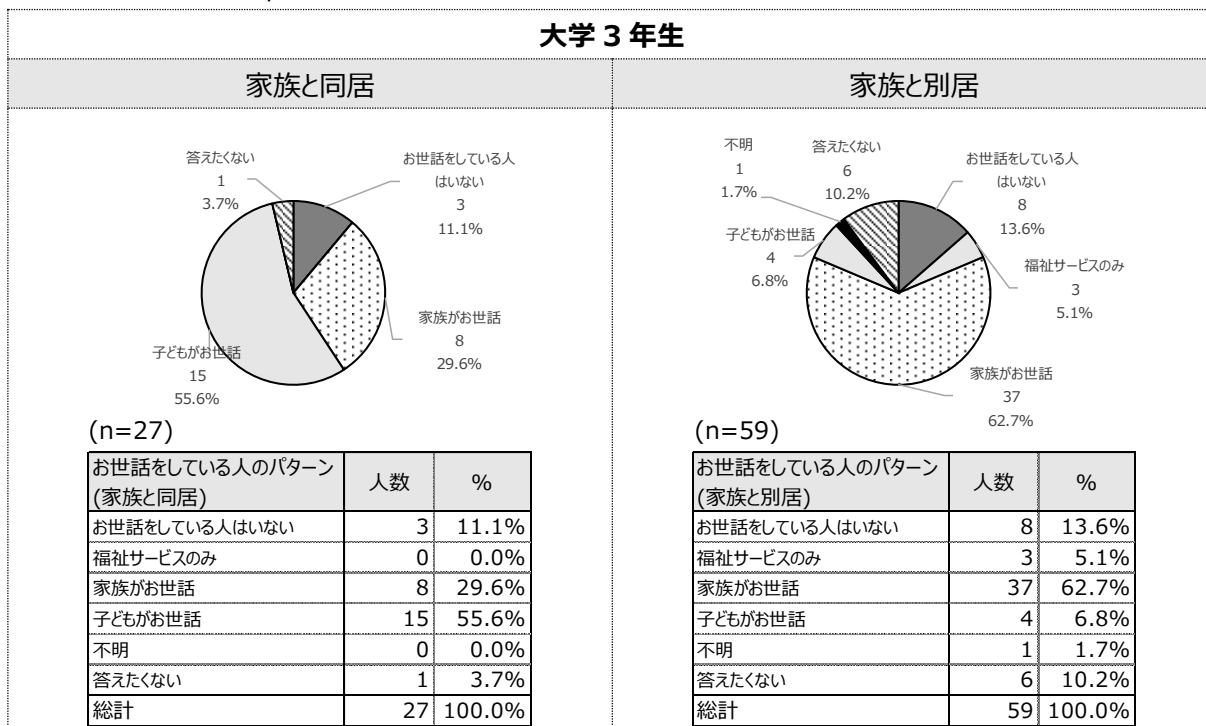
<大学3年生>

小学6年生、中学2年生、高校2年生とは異なり、**大学3年生**では「**家族がお世話**」のパターンが最も多く、52.3%であった。これは、大学3年生の住まい方(P.26 参照)の約6割が「**家族と別居**」(一人暮らし/寮/下宿など)しており、「**家族がお世話**」のパターンが多くなっていると考えられる。



また、以下のクロス集計からも言えるとおり、住まい方が「**家族と同居**」か「**家族と別居**」かによって、お世話をしている人のパターンに違いがみられた。「**家族と同居**」の場合は「**子どもがお世話**」(55.6%)が最も高く、「**家族と別居**」の場合は「**家族がお世話**」(62.7%)が最も高かった。

住まい方 (家族と同居/別居) × お世話をしている人のパターン (クロス集計)



3.3.4 ヤングケアラーの分類

ヤングケアラーの割合

全有効回答者に占めるヤングケアラーの割合（本調査においては、お世話が必要な家族がいる、かつ、お世話をしている人の中に自分を選択した回答者をヤングケアラーとして捉えている）は以下のとおりであり、少なくない数ですべての学校種別にいることが確認された。

（3.3.3 お世話をしている人のパターン ※P.50 参照）

	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計
本調査	5.9% (408/6,971人)	5.0% (331/6,584人)	3.3% (173/5,217人)	2.5% (19/760人)	4.8% (931/19,532人)
国の先行調査	6.5%	5.7%	4.1%	6.2%	5.7%※

※本調査および国の先行調査で、大学3年生はお世話をしている家族が「現在いる」回答者の割合

※国の先行調査は、高校2年生は全日制高校2年生の割合。国の先行調査では、各学校種別のヤングケアラーの割合のみ公表されていることから、公表資料を踏まえて、青森県として各学校種別の回答者数と割合から、合計の割合を算出した。

次に、家族のお世話をしている人に自分が含まれると答えた回答者(以下、ヤングケアラー)を、下記の3つのグループ（孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラー）に分類した。

家族のお世話をしている場合でも、**自らが中心的な役割や責任を担う場合と、中心적으로お世話をしている家族を手伝う場合**とでは、**負担の度合いが異なる**と考えられるためである。

お世話のパターン	グループ名	一緒にお世話をしている家族	中心にお世話をしている人
子どもがお世話	孤独ケアラー	いない	自分
	メインケアラー	いる	自分
	サブケアラー	いる	自分以外の家族

◆ヤングケアラーの分類

※ 一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人が「いる」と選択した回答者に対する質問

Q：●●(お世話が必要な人)をお世話している人の中で、**中心的に(一番長い時間)**お世話している人は誰ですか。

※日によって違う場合は、だいたい良いので一番長い時間お世話している人、何人かいる場合は全員を選んでください

ヤングケアラーを3つに分類（孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラー）したところ、孤独ケアラーは5.9%、メインケアラーは24.7%、サブケアラーは69.4%であった。

すべての学校種別で、最も割合が高かったのは、**中心にお世話をしている家族を手伝う「サブケアラー」**で、小学6年生は64.0%、中学2年生は74.3%、高校2年生は73.4%、大学3年生は63.2%であった。

次いで割合が高かったのは、**家族と一緒に子どもが中心にお世話をしている「メインケアラー」**で、小学6年生は29.2%、中学2年生は20.8%、高校2年生は22.0%、大学3年生は21.1%であった。

家族と一緒にではなく、子どもが中心に一人でお世話をしている「孤独ケアラー」は、小学6年生では6.9%、中学2年生は4.8%、高校2年生は4.6%、大学3年生は15.8%であった。

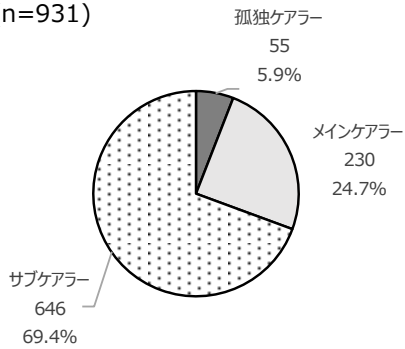
グループ名	ヤングケアラーに占める割合				
	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計
孤独ケアラー	6.9% (28/408人)	4.8% (16/331人)	4.6% (8/173人)	15.8% (3/19人)	5.9% (55/931人)
メインケアラー	29.2% (119/408人)	20.8% (69/331人)	22.0% (38/173人)	21.1% (4/19人)	24.7% (230/931人)
サブケアラー	64.0% (261/408人)	74.3% (246/331人)	73.4% (127/173人)	63.2% (12/19人)	69.4% (646/931人)

参考：有効回答数に占める割合

グループ名	有効回答数に占める割合				
	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生	合計
孤独ケアラー	0.4% (28/6,971人)	0.2% (16/6,584人)	0.2% (8/5,217人)	0.4% (3/760人)	0.3% (55/19,532人)
メインケアラー	1.7% (119/6,971人)	1.0% (69/6,584人)	0.7% (38/5,217人)	0.5% (4/760人)	1.2% (230/19,532人)
サブケアラー	3.7% (261/6,971人)	3.7% (246/6,584人)	2.4% (127/5,217人)	1.6% (12/760人)	3.3% (646/19,532人)

合計

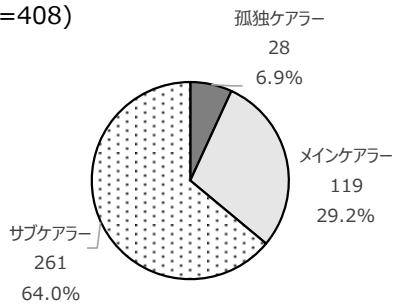
(n=931)



ヤングケアラーの分類	人数	%
孤独ケアラー	55	5.9%
メインケアラー	230	24.7%
サブケアラー	646	69.4%
総計	931	100.0%

小学6年生

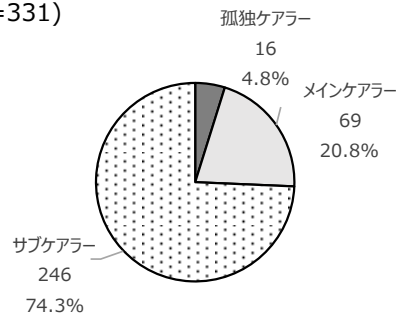
(n=408)



ヤングケアラーの分類	人数	%
孤独ケアラー	28	6.9%
メインケアラー	119	29.2%
サブケアラー	261	64.0%
総計	408	100.0%

中学2年生

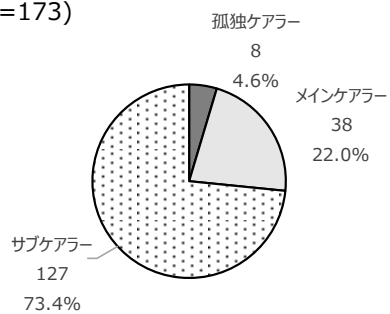
(n=331)



ヤングケアラーの分類	人数	%
孤独ケアラー	16	4.8%
メインケアラー	69	20.8%
サブケアラー	246	74.3%
総計	331	100.0%

高校2年生

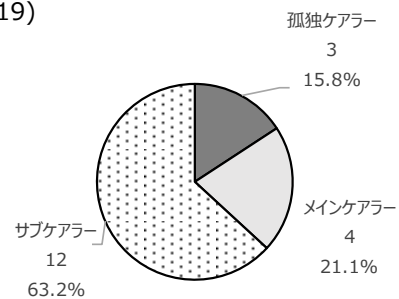
(n=173)



ヤングケアラーの分類	人数	%
孤独ケアラー	8	4.6%
メインケアラー	38	22.0%
サブケアラー	127	73.4%
総計	173	100.0%

大学3年生

(n=19)



ヤングケアラーの分類	人数	%
孤独ケアラー	3	15.8%
メインケアラー	4	21.1%
サブケアラー	12	63.2%
総計	19	100.0%

3.3.5 お世話が必要な人 × お世話をしている人のパターン

お世話が必要な人 (P.49 参照) × お世話をしている人のパターン (P.50 参照) (クロス集計)

以下、お世話をしている人のパターンを、「子どもがお世話」、「家族がお世話」、「お世話をしている人がいない」の3つに分けて記載する。

また、「子どもがお世話」している場合の「孤独ケアラー」「メインケアラー」「サブケアラー」について記載する。

「子どもがお世話」をしているパターン

- ・ 小学6年生で、お世話が必要な人を「**妹・弟**」と回答した人が290人と最も多く、次いで「母親」(52人)、「祖母」(46人)であった。
- ・ 中学2年生で、お世話が必要な人を「**妹・弟**」と回答した人が224人と最も多く、次いで「祖母」(40人)、「祖父」(31人)であった。
- ・ 高校2年生で、お世話が必要な人を「**妹・弟**」と回答した人が91人と最も多く、次いで「祖母」(33人)、「母親」(19人)であった。
- ・ 小学6年生、中学2年生、高校2年生いずれも、お世話が必要な人は「**妹・弟**」が最も多い結果となり、3つのグループの分類では、「**サブケアラー**」が最も多かった。
- ・ 小学6年生、中学2年生、高校2年生いずれも、お世話が必要な人が「**母親**」の場合、3つのグループの内訳では、「**メインケアラー**」が最も多かった。

「家族がお世話」をしているパターン

- ・ 小学6年生で、お世話が必要な人を「**妹・弟**」と回答した人が85人と最も多く、次いで「祖父」(59人)、「祖母」(50人)であった。
- ・ 中学2年生で、お世話が必要な人を「**妹・弟**」と回答した人が60人と最も多く、次いで「祖母」(54人)、「祖父」(48人)であった。
- ・ 高校2年生で、お世話が必要な人を「**祖母**」と回答した人が55人と最も高く、次いで「祖父」(45人)、「妹・弟」(35人)であった。
- ・ 小学6年生、中学2年生、高校2年生いずれも、お世話が必要な人が「祖母」「祖父」の場合、子どもがお世話をしているパターンよりも多かった。

「お世話をしている人がいない」パターン

- ・ お世話が必要な人として回答者が選んだにも関わらず、お世話をしている人は「**特にいない**」と回答したパターンでは、すべての学校種別で「**母親**」が最も多く、次いで「父親」であった。

小学6年生

		お世話をしている人					計
		子どもがお世話	家族がお世話	福祉サービスのみ	いない	不明	
お世話が 必要な人	母親	52	29	0	180	12	273
	父親	25	17	0	122	6	170
	祖母	46	50	6	39	5	146
	祖父	22	59	5	29	1	116
	姉・兄	16	31	0	22	1	70
	妹・弟	290	85	1	8	4	388
	その他	6	19	0	2	0	27

(n=839)

子どもがお世話の内訳		
孤独 ケアラー	メイン ケアラー	サブ ケアラー
11	30	11
1	17	7
6	15	25
1	10	11
0	10	6
9	74	207
0	2	4

(n=408)

※お世話が必要な人は「答えたくない」と答えた回答者（P.49 参照）には、誰がお世話をしているかは聞いていないためここには含まれない。
（以下、中学2年生、高校2年生、大学3年生も同様）

中学2年生

		お世話をしている人					計
		子どもがお世話	家族がお世話	福祉サービスのみ	いない	不明	
お世話が 必要な人	母親	28	11	0	88	5	132
	父親	15	8	0	49	4	76
	祖母	40	54	5	26	4	129
	祖父	31	48	1	12	2	94
	姉・兄	19	19	0	13	3	54
	妹・弟	224	60	0	10	1	295
	その他	12	24	1	0	1	38

(n=631)

子どもがお世話の内訳		
孤独 ケアラー	メイン ケアラー	サブ ケアラー
5	15	8
2	11	2
1	14	25
1	6	24
2	8	9
4	42	178
1	4	7

(n=331)

高校2年生

		お世話をしている人					計
		子どもがお世話	家族がお世話	福祉サービスのみ	いない	不明	
お世話が 必要な人	母親	19	6	2	69	3	99
	父親	6	7	1	31	3	48
	祖母	33	55	0	28	1	117
	祖父	18	45	2	6	1	72
	姉・兄	9	14	0	9	0	32
	妹・弟	91	35	0	7	1	134
	その他	11	20	0	2	4	37

(n=439)

子どもがお世話の内訳		
孤独 ケアラー	メイン ケアラー	サブ ケアラー
3	10	6
1	3	2
1	8	24
1	4	13
0	1	8
3	17	71
0	1	10

(n=173)

大学3年生

		お世話をしている人					計
		子どもがお世話	家族がお世話	福祉サービスのみ	いない	不明	
お世話が 必要な人	母親	4	4	0	6	3	17
	父親	3	2	0	3	0	8
	祖母	4	12	2	0	3	21
	祖父	3	14	1	2	1	21
	姉・兄	1	0	0	1	0	2
	妹・弟	4	11	0	3	1	19
	その他	1	3	0	0	0	4

(n=86)

子どもがお世話の内訳		
孤独 ケアラー	メイン ケアラー	サブ ケアラー
2	1	1
1	1	1
0	1	3
0	0	3
0	1	0
0	1	3
0	0	1

(n=19)

3.3.6 お世話が必要な理由

※ 一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人が「いる」と選択した回答者に対する質問
(お世話が必要な人を聞く他の質問とあわせて集計し、お世話が必要な人別のお世話が必要な理由を判断している。)

Q：●●(お世話が必要な人)をお世話しているのは**どのような理由**ですか。(あてはまるものすべて)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話が必要な理由を聞いたところ、子どもがお世話をしている場合は、「母親」については、小学6年生、中学2年生、高校2年生で「**わからない**」が最も高く、「父親」については、小学6年生、中学2年生では、「**わからない**」が最も高いが、高校2年生では「**答えたくない**」が最も高かった。

「祖母」「祖父」については、すべての学校種別で「**高齢(65歳以上)**」が最も高かった。

また、「姉・兄」については、「**答えたくない**」が3～4割程度で最も高かったほか、小学6年生では「**しょうがい**」が31.3%、中学2年生では「**知的障がい**」が36.8%、「**身体障がい**」、「**精神疾患**」が21.1%、高校2年生では「**知的障がい**」が44.4%、「**身体障がい**」、「**精神疾患**」が22.2%であった。

「妹・弟」については、すべての学校種別で「**若い**」が最も高かった。

小学6年生（複数回答）

母親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=52)		家族がお世話 (n=29)	
	人数	割合	人数	割合
高れい(65才以上)	2	3.8%	1	3.4%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	2	3.8%	1	3.4%
病気	3	5.8%	1	3.4%
しょうがい	1	1.9%	1	3.4%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	28	53.8%	10	34.5%
答えたくない	15	28.8%	7	24.1%
その他	12	23.1%	7	24.1%

父親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=25)		家族がお世話 (n=17)	
	人数	割合	人数	割合
高れい(65才以上)	0	0.0%	0	0.0%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	1	4.0%	0	0.0%
病気	4	16.0%	1	5.9%
しょうがい	1	4.0%	0	0.0%
日本語が苦手	1	4.0%	0	0.0%
わからない	14	56.0%	4	23.5%
答えたくない	10	40.0%	5	29.4%
その他	5	20.0%	2	11.8%

祖母のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=46)		家族がお世話 (n=50)	
	人数	割合	人数	割合
高れい(65才以上)	39	84.8%	34	68.0%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	18	39.1%	16	32.0%
病気	8	17.4%	6	12.0%
しょうがい	2	4.3%	3	6.0%
日本語が苦手	1	2.2%	0	0.0%
わからない	8	17.4%	11	22.0%
答えたくない	4	8.7%	1	2.0%
その他	8	17.4%	4	8.0%

祖父のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=22)		家族がお世話 (n=59)	
	人数	割合	人数	割合
高れい(65才以上)	22	100.0%	36	61.0%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	9	40.9%	10	16.9%
病気	7	31.8%	17	28.8%
しょうがい	3	13.6%	7	11.9%
日本語が苦手	0	0.0%	1	1.7%
わからない	4	18.2%	6	10.2%
答えたくない	2	9.1%	3	5.1%
その他	3	13.6%	3	5.1%

姉・兄のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=16)		家族がお世話 (n=31)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	3	18.8%	1	3.2%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	4	25.0%	1	3.2%
病気	0	0.0%	3	9.7%
しょうがい	5	31.3%	3	9.7%
日本語が苦手	1	6.3%	0	0.0%
わからない	7	43.8%	8	25.8%
答えたくない	7	43.8%	5	16.1%
その他	1	6.3%	7	22.6%

妹・弟のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=290)		家族がお世話 (n=85)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	234	80.7%	61	71.8%
かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	23	7.9%	5	5.9%
病気	4	1.4%	1	1.2%
しょうがい	18	6.2%	4	4.7%
日本語が苦手	12	4.1%	0	0.0%
わからない	23	7.9%	12	14.1%
答えたくない	6	2.1%	2	2.4%
その他	15	5.2%	4	4.7%

中学2年生（複数回答）

母親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=28)		家族がお世話 (n=11)	
高齢(65歳以上)	3	10.7%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	4	14.3%	0	0.0%
認知症	2	7.1%	0	0.0%
身体障がい	3	10.7%	0	0.0%
知的障がい	2	7.1%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	4	14.3%	1	9.1%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	2	7.1%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	3	10.7%	0	0.0%
日本語が苦手	2	7.1%	0	0.0%
わからない	13	46.4%	6	54.5%
答えたくない	7	25.0%	2	18.2%
その他	3	10.7%	3	27.3%

父親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=15)		家族がお世話 (n=8)	
高齢(65歳以上)	3	20.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	3	20.0%	2	25.0%
認知症	2	13.3%	1	12.5%
身体障がい	4	26.7%	4	50.0%
知的障がい	1	6.7%	1	12.5%
精神疾患(疑い含む)	1	6.7%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	1	6.7%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	1	6.7%	0	0.0%
日本語が苦手	1	6.7%	0	0.0%
わからない	8	53.3%	3	37.5%
答えたくない	2	13.3%	1	12.5%
その他	3	20.0%	0	0.0%

祖母のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=40)		家族がお世話 (n=54)	
高齢(65歳以上)	32	80.0%	42	77.8%
要介護(介護が必要な状態)	10	25.0%	13	24.1%
認知症	11	27.5%	12	22.2%
身体障がい	13	32.5%	11	20.4%
知的障がい	2	5.0%	2	3.7%
精神疾患(疑い含む)	4	10.0%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	2	5.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	2	5.0%	1	1.9%
日本語が苦手	2	5.0%	0	0.0%
わからない	11	27.5%	8	14.8%
答えたくない	3	7.5%	1	1.9%
その他	1	2.5%	3	5.6%

祖父のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=31)		家族がお世話 (n=48)	
高齢(65歳以上)	28	90.3%	33	68.8%
要介護(介護が必要な状態)	12	38.7%	12	25.0%
認知症	8	25.8%	10	20.8%
身体障がい	10	32.3%	10	20.8%
知的障がい	2	6.5%	1	2.1%
精神疾患(疑い含む)	2	6.5%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	6	19.4%	2	4.2%
精神疾患・依存症以外の病気	4	12.9%	2	4.2%
日本語が苦手	2	6.5%	0	0.0%
わからない	5	16.1%	8	16.7%
答えたくない	1	3.2%	1	2.1%
その他	1	3.2%	5	10.4%

姉・兄のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=19)		家族がお世話 (n=19)	
幼い	4	21.1%	1	5.3%
要介護(介護が必要な状態)	3	15.8%	0	0.0%
認知症	2	10.5%	0	0.0%
身体障がい	4	21.1%	3	15.8%
知的障がい	7	36.8%	5	26.3%
精神疾患(疑い含む)	4	21.1%	2	10.5%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	2	10.5%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	3	15.8%	0	0.0%
日本語が苦手	4	21.1%	0	0.0%
わからない	5	26.3%	5	26.3%
答えたくない	8	42.1%	1	5.3%
その他	2	10.5%	1	5.3%

妹・弟のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=224)		家族がお世話 (n=60)	
幼い	197	87.9%	46	76.7%
要介護(介護が必要な状態)	3	1.3%	0	0.0%
認知症	2	0.9%	0	0.0%
身体障がい	5	2.2%	1	1.7%
知的障がい	12	5.4%	3	5.0%
精神疾患(疑い含む)	4	1.8%	1	1.7%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	2	0.9%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	3	1.3%	0	0.0%
日本語が苦手	5	2.2%	1	1.7%
わからない	12	5.4%	9	15.0%
答えたくない	6	2.7%	1	1.7%
その他	10	4.5%	2	3.3%

高校2年生（複数回答）

母親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=19)		家族がお世話 (n=6)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	0	0.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	2	10.5%	2	33.3%
認知症	0	0.0%	1	16.7%
身体障がい	3	15.8%	3	50.0%
知的障がい	0	0.0%	1	16.7%
精神疾患(疑い含む)	1	5.3%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	1	5.3%	1	16.7%
わからない	9	47.4%	1	16.7%
答えたくない	3	15.8%	1	16.7%
その他	4	21.1%	1	16.7%

父親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=6)		家族がお世話 (n=7)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	0	0.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	2	33.3%	0	0.0%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	1	16.7%	3	42.9%
知的障がい	0	0.0%	1	14.3%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	1	14.3%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	1	14.3%
日本語が苦手	0	0.0%	1	14.3%
わからない	2	33.3%	2	28.6%
答えたくない	3	50.0%	1	14.3%
その他	0	0.0%	1	14.3%

祖母のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=33)		家族がお世話 (n=55)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	29	87.9%	43	78.2%
要介護(介護が必要な状態)	11	33.3%	10	18.2%
認知症	8	24.2%	14	25.5%
身体障がい	4	12.1%	8	14.5%
知的障がい	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	2	3.6%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	1	1.8%
精神疾患・依存症以外の病気	1	3.0%	2	3.6%
日本語が苦手	1	3.0%	0	0.0%
わからない	2	6.1%	3	5.5%
答えたくない	1	3.0%	4	7.3%
その他	1	3.0%	1	1.8%

祖父のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=18)		家族がお世話 (n=45)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	18	100.0%	42	93.3%
要介護(介護が必要な状態)	5	27.8%	14	31.1%
認知症	3	16.7%	10	22.2%
身体障がい	5	27.8%	9	20.0%
知的障がい	0	0.0%	2	4.4%
精神疾患(疑い含む)	1	5.6%	2	4.4%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	2	11.1%	2	4.4%
精神疾患・依存症以外の病気	1	5.6%	1	2.2%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	1	5.6%	4	8.9%
答えたくない	0	0.0%	1	2.2%
その他	1	5.6%	2	4.4%

姉・兄のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=9)		家族がお世話 (n=14)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	0	0.0%	1	7.1%
要介護(介護が必要な状態)	1	11.1%	1	7.1%
認知症	0	0.0%	1	7.1%
身体障がい	2	22.2%	1	7.1%
知的障がい	4	44.4%	8	57.1%
精神疾患(疑い含む)	2	22.2%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	1	11.1%	0	0.0%
日本語が苦手	1	11.1%	1	7.1%
わからない	1	11.1%	1	7.1%
答えたくない	3	33.3%	1	7.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%

妹・弟のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=91)		家族がお世話 (n=35)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	81	89.0%	26	74.3%
要介護(介護が必要な状態)	1	1.1%	1	2.9%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	0	0.0%	1	2.9%
知的障がい	5	5.5%	2	5.7%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	1	2.9%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	1	1.1%	0	0.0%
わからない	3	3.3%	3	8.6%
答えたくない	2	2.2%	4	11.4%
その他	5	5.5%	2	5.7%

大学3年生（複数回答）

母親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=4)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	1	25.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	0	0.0%	2	50.0%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	0	0.0%	3	75.0%
知的障がい	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	1	25.0%	1	25.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	1	25.0%	0	0.0%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	1	25.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

父親のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=3)		家族がお世話 (n=2)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	0	0.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	0	0.0%	0	0.0%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	2	66.7%	1	50.0%
知的障がい	1	33.3%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	1	50.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	33.3%	1	50.0%

祖母のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=12)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	4	100.0%	12	100.0%
要介護(介護が必要な状態)	2	50.0%	4	33.3%
認知症	3	75.0%	4	33.3%
身体障がい	0	0.0%	2	16.7%
知的障がい	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	1	8.3%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	1	8.3%

祖父のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=3)		家族がお世話 (n=14)	
	人数	割合	人数	割合
高齢(65歳以上)	2	66.7%	12	85.7%
要介護(介護が必要な状態)	2	66.7%	5	35.7%
認知症	1	33.3%	4	28.6%
身体障がい	1	33.3%	5	35.7%
知的障がい	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	33.3%	0	0.0%

姉・兄のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=1)		家族がお世話 (n=0)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	0	0.0%	0	0.0%
要介護(介護が必要な状態)	0	0.0%	0	0.0%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	0	0.0%	0	0.0%
知的障がい	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患(疑い含む)	1	100.0%	0	0.0%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

妹・弟のお世話が必要な理由	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=11)	
	人数	割合	人数	割合
幼い	3	75.0%	7	63.6%
要介護(介護が必要な状態)	0	0.0%	1	9.1%
認知症	0	0.0%	0	0.0%
身体障がい	0	0.0%	1	9.1%
知的障がい	1	25.0%	2	18.2%
精神疾患(疑い含む)	0	0.0%	1	9.1%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	0	0.0%	0	0.0%
精神疾患・依存症以外の病気	0	0.0%	0	0.0%
日本語が苦手	0	0.0%	0	0.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	1	9.1%

3.3.7 お世話の内容

※ 一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人が「いる」と選択した回答者に対する質問
(お世話が必要な人を聞く他の質問とあわせて集計し、お世話が必要な人別のお世話の内容を判断している。)

Q：●●(お世話が必要な人)にどのようなお世話をしていますか。(あてはまるものすべて)

家庭内にお世話が必要な人がいると回答した人に、お世話の内容を聞いたところ、子どもがお世話をしている場合、「母親」「父親」「祖母」「姉・兄」については、小学6年生、中学2年生、高校2年生で「家事（食事の準備やそうじ、せんたく）」が最も高かった。

また、「祖父」については、小学6年生で「話を聞く」が最も高いが、中学2年生、高校2年生では、「家事」が最も高く、「妹・弟」については、小学6年生、中学2年生では「見守り」が最も高く、高校2年生では「家事」が最も高かった。

全体の傾向としては、お世話の内容として、「家事」の回答が多かった。

お世話が必要な人	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
母親	家事（食事の準備やそうじ、せんたく）：71.2%	家事：75.0%	家事：63.2%	通院への付き添い：75.0%
父親	家事：56.0%	家事：73.3%	家事／見守り：66.7%	身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）：66.7%
祖母	家事／話を聞く：54.3%	家事：82.5%	家事：78.8%	家事：75.0%
祖父	話を聞く：55.2%	家事：71.0%	家事：77.8%	家事／身体的な介護／外出の付き添い：66.7%
姉・兄	家事：62.5%	家事：73.7%	家事：88.9%	外出の付き添い／通院への付き添い／感情面のサポート／見守り／薬の管理：100.0%
妹・弟	見守り：69.0%	見守り：69.6%	家事：70.3%	家事：75.0%

※お世話が必要な人別に、子どもがお世話をしている内容上位1つを掲載。

小学6年生（複数回答）

母親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=52)		家族がお世話 (n=29)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	37	71.2%	10	34.5%
入浴やトイレ、食事のお世話など	22	42.3%	4	13.8%
買い物や散歩にいっしょに行く	23	44.2%	6	20.7%
病院へいっしょに行く	12	23.1%	0	0.0%
話を聞く	23	44.2%	2	6.9%
見守り(そばについて見ている)	12	23.1%	0	0.0%
通やく(日本語や手話など)	1	1.9%	0	0.0%
お金の管理	11	21.2%	3	10.3%
薬の管理	9	17.3%	2	6.9%
家計を助ける(働く)	10	19.2%	0	0.0%
答えたくない	8	15.4%	5	17.2%
その他	1	1.9%	5	17.2%

父親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=25)		家族がお世話 (n=17)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	14	56.0%	3	17.6%
入浴やトイレ、食事のお世話など	7	28.0%	1	5.9%
買い物や散歩にいっしょに行く	10	40.0%	1	5.9%
病院へいっしょに行く	4	16.0%	1	5.9%
話を聞く	11	44.0%	1	5.9%
見守り(そばについて見ている)	7	28.0%	0	0.0%
通やく(日本語や手話など)	1	4.0%	0	0.0%
お金の管理	3	12.0%	2	11.8%
薬の管理	4	16.0%	1	5.9%
家計を助ける(働く)	4	16.0%	1	5.9%
答えたくない	7	28.0%	3	17.6%
その他	6	24.0%	3	17.6%

祖母のお世話の内容	子どもがお世話 (n=46)		家族がお世話 (n=50)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	25	54.3%	19	38.0%
入浴やトイレ、食事のお世話など	13	28.3%	10	20.0%
買い物や散歩にいっしょに行く	16	34.8%	5	10.0%
病院へいっしょに行く	14	30.4%	19	38.0%
話を聞く	25	54.3%	17	34.0%
見守り(そばについて見ている)	24	52.2%	5	10.0%
通やく(日本語や手話など)	2	4.3%	0	0.0%
お金の管理	6	13.0%	9	18.0%
薬の管理	14	30.4%	11	22.0%
家計を助ける(働く)	3	6.5%	4	8.0%
答えたくない	5	10.9%	4	8.0%
その他	3	6.5%	1	2.0%

祖父のお世話の内容	子どもがお世話 (n=22)		家族がお世話 (n=59)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	12	41.4%	29	49.2%
入浴やトイレ、食事のお世話など	6	20.7%	18	30.5%
買い物や散歩にいっしょに行く	4	13.8%	2	3.4%
病院へいっしょに行く	5	17.2%	24	40.7%
話を聞く	16	55.2%	14	23.7%
見守り(そばについて見ている)	14	48.3%	18	30.5%
通やく(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
お金の管理	0	0.0%	3	5.1%
薬の管理	5	17.2%	14	23.7%
家計を助ける(働く)	1	3.4%	4	6.8%
答えたくない	3	10.3%	6	10.2%
その他	2	6.9%	3	5.1%

姉・兄のお世話の内容	子どもがお世話 (n=16)		家族がお世話 (n=31)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	10	62.5%	8	25.8%
着がえの手伝いや ねかしつけ、送りむかえなど	5	31.3%	1	3.2%
入浴やトイレ、食事のお世話など	5	31.3%	3	9.7%
買い物や散歩にいっしょに行く	7	43.8%	1	3.2%
病院へいっしょに行く	4	25.0%	5	16.1%
話を聞く	7	43.8%	3	9.7%
見守り(そばについて見ている)	5	31.3%	1	3.2%
通やく(日本語や手話など)	1	6.3%	0	0.0%
お金の管理	4	25.0%	2	6.5%
薬の管理	2	12.5%	1	3.2%
家計を助ける(働く)	2	12.5%	0	0.0%
答えたくない	5	31.3%	6	19.4%
その他	0	0.0%	8	25.8%

妹・弟のお世話の内容	子どもがお世話 (n=290)		家族がお世話 (n=85)	
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	110	37.9%	35	41.2%
着がえの手伝いや ねかしつけ、送りむかえなど	137	47.2%	45	52.9%
入浴やトイレ、食事のお世話など	150	51.7%	45	52.9%
買い物や散歩にいっしょに行く	94	32.4%	26	30.6%
病院へいっしょに行く	38	13.1%	13	15.3%
話を聞く	107	36.9%	24	28.2%
見守り(そばについて見ている)	200	69.0%	44	51.8%
通やく(日本語や手話など)	7	2.4%	1	1.2%
お金の管理	21	7.2%	6	7.1%
薬の管理	21	7.2%	7	8.2%
家計を助ける(働く)	6	2.1%	2	2.4%
答えたくない	10	3.4%	3	3.5%
その他	12	4.1%	1	1.2%

【国の先行調査との比較】

■ 国

お世話の内容	全体
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	35.2%
きょうだいのお世話や送り迎え	28.5%
入浴やトイレのお世話	18.9%
買い物や散歩と一緒にいく	18.4%
病院へ一緒にいく	4.0%
話を聞く	26.3%
見守り	40.4%
通訳(日本語や手話など)	3.2%
お金の管理	2.4%
薬の管理	3.3%
-	-
-	-
その他	5.5%
無回答	12.7%
	n=631

■ 青森県

お世話の内容	合計
家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	48.6%
着がえの手伝いや ねかしつけ、送りむかえなど	32.2%
入浴やトイレ、食事のお世話など	46.2%
買い物や散歩にいっしょに行く	34.1%
病院へいっしょに行く	18.6%
話を聞く	42.0%
見守り(そばについて見ている)	58.6%
通やく(日本語や手話など)	2.6%
お金の管理	10.3%
薬の管理	13.8%
家計を助ける(働く)	5.9%
答えたくない	8.5%
その他	6.1%
無回答	0.0%
	n=457

※1

※1：青森県は家族をお世話している回答者のみへの質問

※注）国の質問・集計方法と異なり、青森県(本調査)では、お世話が必要な人に対するそれぞれのお世話の内容を質問・集計している

国の調査は、お世話が必要な人に関係なく、子どもにお世話の内容を聞いており、青森県の調査では、お世話を必要とする人別にお世話の内容を聞いているので、正確な比較はできないが、国の調査結果と傾向を比較するため、青森県の調査結果は、お世話を必要とする人別に回答されたお世話の内容の回答数を合計し、回答数全体で割ったものを掲載している。

国・県ともに「見守り」が最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の順となっており、概ね同じ傾向であった。

中学2年生（複数回答）

母親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=28)		家族がお世話 (n=11)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	21	75.0%	4	36.4%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	6	21.4%	0	0.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	9	32.1%	2	18.2%
通院への付き添い	4	14.3%	1	9.1%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	4	14.3%	1	9.1%
見守り(そばについて見ている)	6	21.4%	2	18.2%
通訳(日本語や手話など)	2	7.1%	0	0.0%
金銭管理	3	10.7%	2	18.2%
薬の管理	2	7.1%	2	18.2%
家計を助ける(働く)	2	7.1%	3	27.3%
答えたくない	5	17.9%	3	27.3%
その他	2	7.1%	3	27.3%

父親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=15)		家族がお世話 (n=8)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	11	73.3%	4	50.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	13.3%	1	12.5%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	6	40.0%	2	25.0%
通院への付き添い	4	26.7%	2	25.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	6.7%	1	12.5%
見守り(そばについて見ている)	3	20.0%	2	25.0%
通訳(日本語や手話など)	1	6.7%	0	0.0%
金銭管理	2	13.3%	1	12.5%
薬の管理	3	20.0%	1	12.5%
家計を助ける(働く)	3	20.0%	2	25.0%
答えたくない	5	33.3%	2	25.0%
その他	1	6.7%	0	0.0%

祖母のお世話の内容	子どもがお世話 (n=40)		家族がお世話 (n=54)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	33	82.5%	35	64.8%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	13	32.5%	21	38.9%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	17	42.5%	19	35.2%
通院への付き添い	16	40.0%	24	44.4%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	8	20.0%	6	11.1%
見守り(そばについて見ている)	22	55.0%	13	24.1%
通訳(日本語や手話など)	2	5.0%	0	0.0%
金銭管理	7	17.5%	8	14.8%
薬の管理	14	35.0%	17	31.5%
家計を助ける(働く)	6	15.0%	8	14.8%
答えたくない	3	7.5%	5	9.3%
その他	1	2.5%	0	0.0%

祖父のお世話の内容	子どもがお世話 (n=31)		家族がお世話 (n=48)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	22	71.0%	28	58.3%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	11	35.5%	17	35.4%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	15	48.4%	6	12.5%
通院への付き添い	14	45.2%	16	33.3%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	6	19.4%	3	6.3%
見守り(そばについて見ている)	19	61.3%	11	22.9%
通訳(日本語や手話など)	2	6.5%	1	2.1%
金銭管理	4	12.9%	4	8.3%
薬の管理	11	35.5%	16	33.3%
家計を助ける(働く)	3	9.7%	6	12.5%
答えたくない	3	9.7%	7	14.6%
その他	0	0.0%	1	2.1%

姉・兄のお世話の内容	子どもがお世話 (n=19)		家族がお世話 (n=19)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	14	73.7%	7	36.8%
着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	5	26.3%	3	15.8%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	6	31.6%	2	10.5%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	7	36.8%	3	15.8%
通院への付き添い	4	21.1%	4	21.1%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	7	36.8%	3	15.8%
見守り(そばについて見ている)	13	68.4%	4	21.1%
通訳(日本語や手話など)	3	15.8%	0	0.0%
金銭管理	2	10.5%	1	5.3%
薬の管理	4	21.1%	6	31.6%
家計を助ける(働く)	3	15.8%	0	0.0%
答えたくない	6	31.6%	1	5.3%
その他	1	5.3%	1	5.3%

妹・弟のお世話の内容	子どもがお世話 (n=224)		家族がお世話 (n=60)	
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	128	57.1%	35	58.3%
着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	133	59.4%	35	58.3%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	76	33.9%	15	25.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	94	42.0%	15	25.0%
通院への付き添い	19	8.5%	11	18.3%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	40	17.9%	10	16.7%
見守り(そばについて見ている)	156	69.6%	24	40.0%
通訳(日本語や手話など)	7	3.1%	0	0.0%
金銭管理	15	6.7%	6	10.0%
薬の管理	13	5.8%	4	6.7%
家計を助ける(働く)	11	4.9%	3	5.0%
答えたくない	5	2.2%	4	6.7%
その他	5	2.2%	0	0.0%

【国の先行調査との比較】

■ 国

お世話の内容	お世話が必要な人		
	父母	祖父母	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	73.3%	42.6%	37.6%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	-	-	34.0%
身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	17.3%	14.9%	20.8%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	38.7%	40.4%	21.3%
通院の付き添い	10.7%	4.3%	2.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	22.7%	29.8%	21.3%
見守り	24.0%	57.4%	68.0%
通訳(日本語や手話など)	8.0%	2.1%	3.0%
金銭管理	12.0%	10.6%	2.5%
薬の管理	5.3%	14.9%	3.0%
その他	2.7%	4.3%	5.1%
無回答	9.3%	8.5%	5.1%
	n=75	n=47	n=197

■ 青森県

お世話の内容	お世話が必要な人		
	父母	祖父母	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	74.4%	77.5%	58.4%
着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	-	-	56.8%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	18.6%	33.8%	33.7%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	34.9%	45.1%	41.6%
通院への付き添い	18.6%	42.3%	9.5%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	11.6%	19.7%	19.3%
見守り(そばについて見ている)	20.9%	57.7%	69.5%
通訳(日本語や手話など)	7.0%	5.6%	4.1%
金銭管理	11.6%	15.5%	7.0%
薬の管理	11.6%	35.2%	7.0%
家計を助ける(働く)	11.6%	12.7%	5.8%
答えたくない	23.3%	8.5%	4.5%
その他	7.0%	1.4%	2.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%
	n=43	n=71	n=243

※ 1

※ 1：青森県は家族をお世話している回答者のみへの質問

※ 注) 国の質問・集計方法と異なり、青森県(本調査)では、お世話が必要な人に対するそれぞれのお世話の内容を質問・集計している

国の調査は、「父母」「祖父母」「きょうだい」の区分にわけて、子どものお世話の内容を聞いており、青森県の調査では、お世話が必要な人別にお世話の内容を聞いているので、正確な比較はできないが、国の調査結果と傾向を比較するため、青森県の調査結果を国の区分にあわせて合計し、回答数で割ったものを掲載している。お世話が必要な人が「父母」の場合、国の先行調査では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「外出の付き添い(買い物、散歩など)」の順であり、青森県でも概ね同様であった。

お世話が必要な人が「祖父母」の場合、国では「見守り(そばについて見ている)」の割合が最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の順であったが、青森県では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「見守り(そばについて見ている)」の順であった。青森県では、ほかに「通院の付き添い」や「薬の管理」も高かったことが特徴である。

お世話が必要な人が「きょうだい」の場合、国では「見守り」の割合が最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の順であり、青森県でも概ね同様であった。

高校2年生（複数回答）

母親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=19)		家族がお世話 (n=6)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	12	63.2%	5	83.3%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	10.5%	4	66.7%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	5	26.3%	5	83.3%
通院への付き添い	3	15.8%	4	66.7%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	4	21.1%	3	50.0%
見守り(そばについて見ている)	1	5.3%	2	33.3%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	1	5.3%	0	0.0%
薬の管理	0	0.0%	1	16.7%
家計を助ける(働く)	1	5.3%	2	33.3%
答えたくない	4	21.1%	1	16.7%
その他	3	15.8%	0	0.0%

父親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=6)		家族がお世話 (n=7)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	4	66.7%	3	42.9%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	33.3%	0	0.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	3	50.0%	0	0.0%
通院への付き添い	1	16.7%	1	14.3%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	2	33.3%	1	14.3%
見守り(そばについて見ている)	4	66.7%	3	42.9%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	0	0.0%	2	28.6%
薬の管理	2	33.3%	1	14.3%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	3	42.9%
答えたくない	1	16.7%	1	14.3%
その他	0	0.0%	0	0.0%

祖母のお世話の内容	子どもがお世話 (n=33)		家族がお世話 (n=55)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	26	78.8%	30	54.5%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	14	42.4%	16	29.1%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	11	33.3%	15	27.3%
通院への付き添い	19	57.6%	28	50.9%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	11	33.3%	5	9.1%
見守り(そばについて見ている)	14	42.4%	7	12.7%
通訳(日本語や手話など)	1	3.0%	1	1.8%
金銭管理	4	12.1%	8	14.5%
薬の管理	13	39.4%	24	43.6%
家計を助ける(働く)	3	9.1%	3	5.5%
答えたくない	2	6.1%	7	12.7%
その他	1	3.0%	0	0.0%

祖父のお世話の内容	子どもがお世話 (n=18)		家族がお世話 (n=45)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	14	77.8%	34	75.6%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	11.1%	22	48.9%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	4	22.2%	12	26.7%
通院への付き添い	4	22.2%	26	57.8%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	7	38.9%	6	13.3%
見守り(そばについて見ている)	7	38.9%	11	24.4%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	2	11.1%	11	24.4%
薬の管理	4	22.2%	17	37.8%
家計を助ける(働く)	2	11.1%	3	6.7%
答えたくない	0	0.0%	2	4.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%

姉・兄のお世話の内容	子どもがお世話 (n=9)		家族がお世話 (n=14)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	8	88.9%	6	42.9%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	4	44.4%	2	14.3%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	22.2%	3	21.4%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	2	22.2%	2	14.3%
通院への付き添い	2	22.2%	2	14.3%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	5	55.6%	2	14.3%
見守り(そばについて見ている)	6	66.7%	6	42.9%
通訳(日本語や手話など)	1	11.1%	0	0.0%
金銭管理	2	22.2%	2	14.3%
薬の管理	2	22.2%	1	7.1%
家計を助ける(働く)	1	11.1%	1	7.1%
答えたくない	2	22.2%	1	7.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%

妹・弟のお世話の内容	子どもがお世話 (n=91)		家族がお世話 (n=35)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	64	70.3%	28	80.0%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	50	54.9%	18	51.4%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	28	30.8%	10	28.6%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	41	45.1%	11	31.4%
通院への付き添い	7	7.7%	9	25.7%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	14	15.4%	4	11.4%
見守り(そばについて見ている)	62	68.1%	13	37.1%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	8	8.8%	6	17.1%
薬の管理	8	8.8%	7	20.0%
家計を助ける(働く)	2	2.2%	0	0.0%
答えたくない	1	1.1%	4	11.4%
その他	1	1.1%	0	0.0%

【国の先行調査との比較】

■ 国

お世話の内容	お世話が必要な人		
	父母	祖父母	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	68.1%	43.5%	56.6%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	-	-	43.4%
身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9.9%	21.7%	16.2%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	26.4%	17.4%	16.2%
通院の付き添い	4.4%	14.5%	2.2%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	17.6%	31.9%	17.6%
見守り	15.4%	52.2%	53.7%
通訳(日本語や手話など)	7.7%	5.8%	0.7%
金銭管理	12.1%	4.3%	4.4%
薬の管理	7.7%	23.2%	2.2%
その他	1.1%	5.8%	8.8%
無回答	13.2%	5.8%	5.9%
	n=91	n=69	n=136

■ 青森県

お世話の内容	お世話が必要な人		
	父母	祖父母	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	64.0%	78.4%	72.0%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	-	-	54.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	16.0%	31.4%	30.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	32.0%	29.4%	43.0%
通院への付き添い	16.0%	45.1%	9.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	24.0%	35.3%	19.0%
見守り(そばについて見ている)	20.0%	41.2%	68.0%
通訳(日本語や手話など)	0.0%	2.0%	1.0%
金銭管理	4.0%	11.8%	10.0%
薬の管理	8.0%	33.3%	10.0%
家計を助ける(働く)	4.0%	9.8%	3.0%
答えたくない	20.0%	3.9%	3.0%
その他	12.0%	2.0%	1.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%
	n=25	n=51	n=100

※1：青森県は家族をお世話している回答者のみへの質問

※注）国の質問・集計方法と異なり、青森県(本調査)では、お世話が必要な人に対するそれぞれのお世話の内容を質問・集計している

国の調査は、「父母」「祖父母」「きょうだい」の区分にわけて、子どものお世話の内容を聞いており、青森県の調査では、お世話が必要な人別にお世話の内容を聞いているので、正確な比較はできないが、国の調査結果と傾向を比較するため、青森県の調査結果を国の区分にあわせて合計し、回答数全体で割ったものを掲載している。

お世話が必要な人が「父母」の場合、国の先行調査では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「外出の付き添い(買い物、散歩など)」の順であり、青森県でも概ね同様であった。

お世話が必要な人が「祖父母」の場合、国では「見守り」の割合が最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の順であったが、青森県では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「通院への付き添い」の順であった。青森県では、ほかに「薬の管理」も高かったことが特徴である。

お世話が必要な人が「きょうだい」の場合、国では「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」の割合が最も高く、次いで「見守り」の順であり、青森県でも概ね同様であった。

大学3年生（複数回答）

母親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=4)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	1	25.0%	3	75.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	0	0.0%	1	25.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	2	50.0%	2	50.0%
通院への付き添い	3	75.0%	0	0.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	2	50.0%	3	75.0%
見守り(そばについて見ている)	2	50.0%	2	50.0%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	1	25.0%	1	25.0%
薬の管理	1	25.0%	0	0.0%
家計を助ける(働く)	1	25.0%	2	50.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

父親のお世話の内容	子どもがお世話 (n=3)		家族がお世話 (n=2)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	1	33.3%	2	100.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	66.7%	0	0.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	0	0.0%	1	50.0%
通院への付き添い	0	0.0%	2	100.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	0	0.0%	0	0.0%
見守り(そばについて見ている)	0	0.0%	0	0.0%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	0	0.0%	1	50.0%
薬の管理	0	0.0%	1	50.0%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	33.3%	0	0.0%

祖母のお世話の内容	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=12)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	3	75.0%	8	66.7%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	50.0%	1	8.3%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	2	50.0%	7	58.3%
通院への付き添い	2	50.0%	10	83.3%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	0	0.0%	0	0.0%
見守り(そばについて見ている)	2	50.0%	4	33.3%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	0	0.0%	4	33.3%
薬の管理	2	50.0%	6	50.0%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	1	8.3%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

祖父のお世話の内容	子どもがお世話 (n=3)		家族がお世話 (n=14)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	2	66.7%	11	78.6%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	2	66.7%	7	50.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	2	66.7%	5	35.7%
通院への付き添い	0	0.0%	10	71.4%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	0	0.0%	1	7.1%
見守り(そばについて見ている)	0	0.0%	4	28.6%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	1	7.1%
金銭管理	0	0.0%	1	7.1%
薬の管理	0	0.0%	9	64.3%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

姉・兄のお世話の内容	子どもがお世話 (n=1)		家族がお世話 (n=0)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	0	0.0%	0	0.0%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	0	0.0%	0	0.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	0	0.0%	0	0.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	1	100.0%	0	0.0%
通院への付き添い	1	100.0%	0	0.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	100.0%	0	0.0%
見守り(そばについて見ている)	1	100.0%	0	0.0%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	0	0.0%	0	0.0%
薬の管理	1	100.0%	0	0.0%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

妹・弟のお世話の内容	子どもがお世話 (n=4)		家族がお世話 (n=11)	
	回数	割合	回数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	3	75.0%	10	90.9%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	2	50.0%	5	45.5%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	1	25.0%	3	27.3%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	1	25.0%	6	54.5%
通院への付き添い	0	0.0%	2	18.2%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	25.0%	3	27.3%
見守り(そばについて見ている)	2	50.0%	7	63.6%
通訳(日本語や手話など)	0	0.0%	0	0.0%
金銭管理	0	0.0%	2	18.2%
薬の管理	1	25.0%	2	18.2%
家計を助ける(働く)	0	0.0%	2	18.2%
答えたくない	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%

【国の先行調査との比較】

■ 国

お世話の内容	お世話が必要な人				
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	69.9%	56.9%	51.5%	48.2%	59.9%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	13.5%	8.4%	3.1%	1.8%	35.1%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	7.2%	9.9%	26.5%	26.5%	11.5%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	24.6%	15.8%	33.6%	29.4%	22.1%
通院の付き添い	13.2%	13.9%	25.9%	28.8%	6.1%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	42.7%	19.3%	36.7%	28.2%	30.5%
見守り	23.5%	20.3%	57.4%	56.5%	45.4%
通訳(日本語や手話など)	3.4%	2.5%	0.3%	1.2%	1.1%
金銭管理	10.0%	9.9%	5.2%	4.1%	3.8%
薬の管理	7.7%	8.9%	15.4%	11.8%	2.7%
家計を助ける(働く)	17.2%	18.3%	2.5%	1.2%	6.9%
その他	5.2%	8.4%	3.1%	2.4%	4.6%

n=349 n=202 n=324 n=170 n=262

■ 青森県

お世話の内容	お世話が必要な人				
	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	25.0%	33.3%	75.0%	66.7%	60.0%
着替えの手伝いや 寝かしつけ、保育所等への送迎など	-	-	-	-	40.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	0.0%	66.7%	50.0%	66.7%	20.0%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	50.0%	0.0%	50.0%	66.7%	40.0%
通院への付き添い	75.0%	0.0%	50.0%	0.0%	20.0%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
見守り(そばについて見ている)	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	60.0%
通訳(日本語や手話など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金銭管理	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
薬の管理	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	40.0%
家計を助ける(働く)	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
答えたくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

n=4 n=3 n=4 n=3 n=5

※1：青森県は家族をお世話している回答者のみへの質問

※注）国の質問・集計方法と異なり、青森県(本調査)では、お世話が必要な人に対するそれぞれのお世話の内容を質問・集計している

3.4 ヤングケアラーの負担

本セクションでは、下記の項目について記載する。

- 3.4.1 お世話の期間・頻度・時間
- 3.4.2 お世話の大変さ
- 3.4.3 お世話に伴う困りごと
- 3.4.4 就職への不安(大学3年生のみ)
- 3.4.5 お世話をしている理由

3.4.1 お世話の期間・頻度・時間

①お世話の期間

Q：あなたは何歳から家族のお世話をしていますか。
 (はっきりとわからない場合は、だいたいの年がかまいません)
 ※お世話をしている人が何人かいる場合は、いちばん最初の年齢を選んでください

※大学3年生は選択

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 小学校就学以前から | 2. 小学校低学年(1～3年生)から |
| 3. 小学校高学年(4～6年生)から | 4. 中学生から |
| 5. 高校生から | 6. 大学入学以降 |

※ 小学6年生・中学2年生・高校2年生はお世話を始めた年齢、大学3年生はお世話を始めた学年を質問しているが、下記の年齢区分に基づきおおよその年数に換算

年数	選択肢(年齢)		
	小学6年生	中学2年生	高校2年生
～1年	11～12歳	13～14歳	16～17歳
2～3年	9～10歳	11～12歳	14～15歳
4～5年	7～8歳	9～10歳	12～13歳
6年～	1～6歳	1～8歳	1～11歳

年数	選択肢(学年)
	大学3年生
～2年	大学入学以降
3～5年	高校生から
6年～	小学校就学以前から
	小学校低学年(1～3年生)から
	小学校高学年(4～6年生)から
	中学校から

学校種別については、小学6年生（総計）では「**2～3年**」（35.5%）が最も高く、次いで「～1年」（27.9%）であった。中学2年生（総計）では「**2～3年**」（27.2%）が最も高く、次いで「6年～」（26.9%）、「4～5年」（25.1%）であった。高校2年生（総計）では「**6年～**」（37.6%）が最も高く、次いで「2～3年」（26.0%）であった。

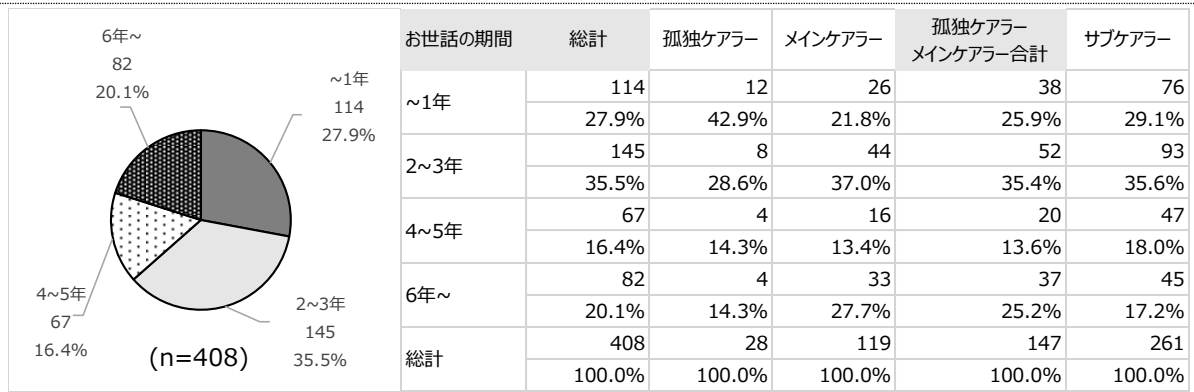
グループ別に見ると、小学6年生では、孤独ケアラーとメインケアラーの合計・サブケアラーともに「2～3年」が最も高く、次に「～1年」であり、同じ傾向を示した。

中学2年生では、孤独ケアラーとメインケアラーの合計は「6年～」が最も高く、サブケアラーは「2～3年」が最も高かった。

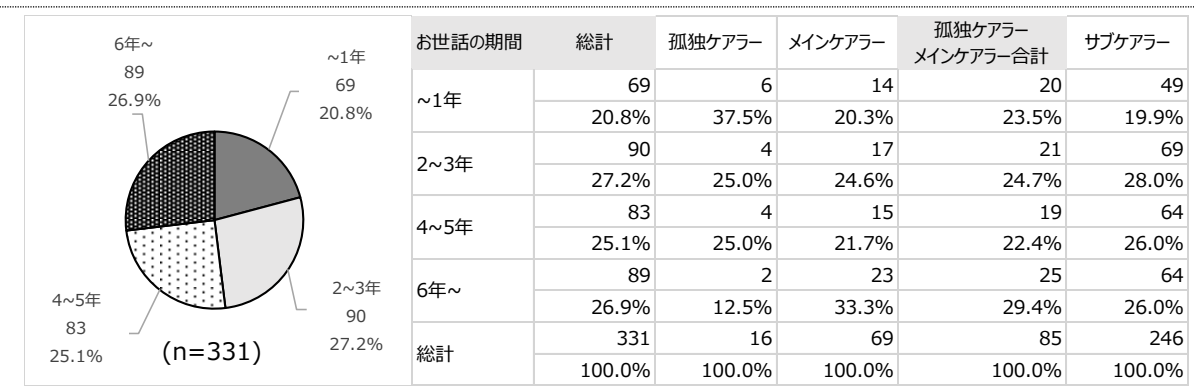
高校2年生では、孤独ケアラーとメインケアラーの合計・サブケアラーともに「6年～」が最も高かった。

中学2年生、高校2年生では、小学生で開始したお世話が長期化している様子がうかがえる。

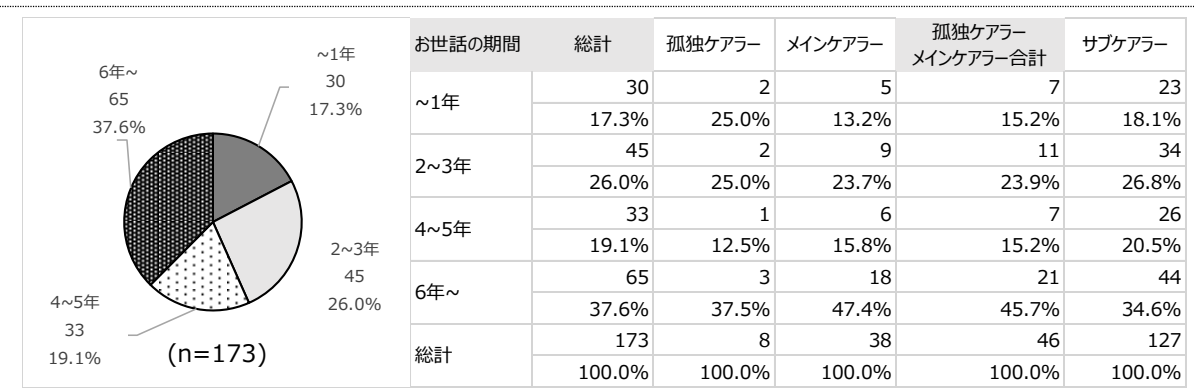
小学 6 年生



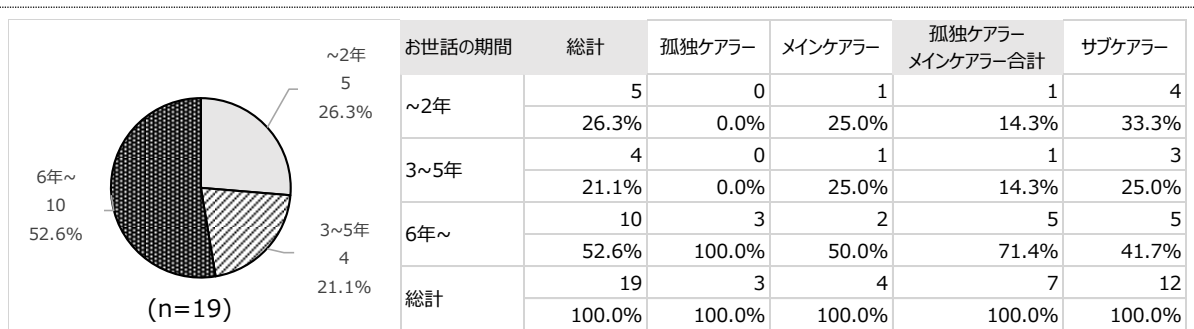
中学 2 年生



高校 2 年生



大学 3 年生



②お世話の頻度

Q：あなたはどのくらいお世話をしていますか。

お世話の頻度（総計）については、すべての学校種別で「**ほぼ毎日**」の割合が最も高く、また、週に3日以上お世話をしているヤングケアラーが6割以上であった。

小学6年生、中学2年生（総計）では、「ほぼ毎日」と、次に高い「週に3～5日」と回答した割合を合わせると、小学6年生では79.2%、中学2年生では79.8%であった。

高校2年生では、「**ほぼ毎日**」の割合が最も高かったが、小学6年生、中学2年生に比較すると低かった。

グループ別にみると、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、すべての学校種別で「**ほぼ毎日**」が4～7割で最も高かった。また、すべての学校種別の「ほぼ毎日」で、孤独ケアラーとメインケアラーの合計の割合が、総計の割合を上回った。

一方で、サブケアラーは、すべての学校種別の「週に3～5日」で、総計の割合を上回った。このため、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、サブケアラーよりもお世話の頻度が高いことがうかがえる。

小学6年生



中学2年生



高校2年生



大学3年生



③お世話の時間

Q：あなたは平日に、1日あたり何時間くらいお世話をしていますか。(だいたい時間でかまいません)
 ※日によって違う場合は、この1ヶ月で最も当てはまる時間を教えてください

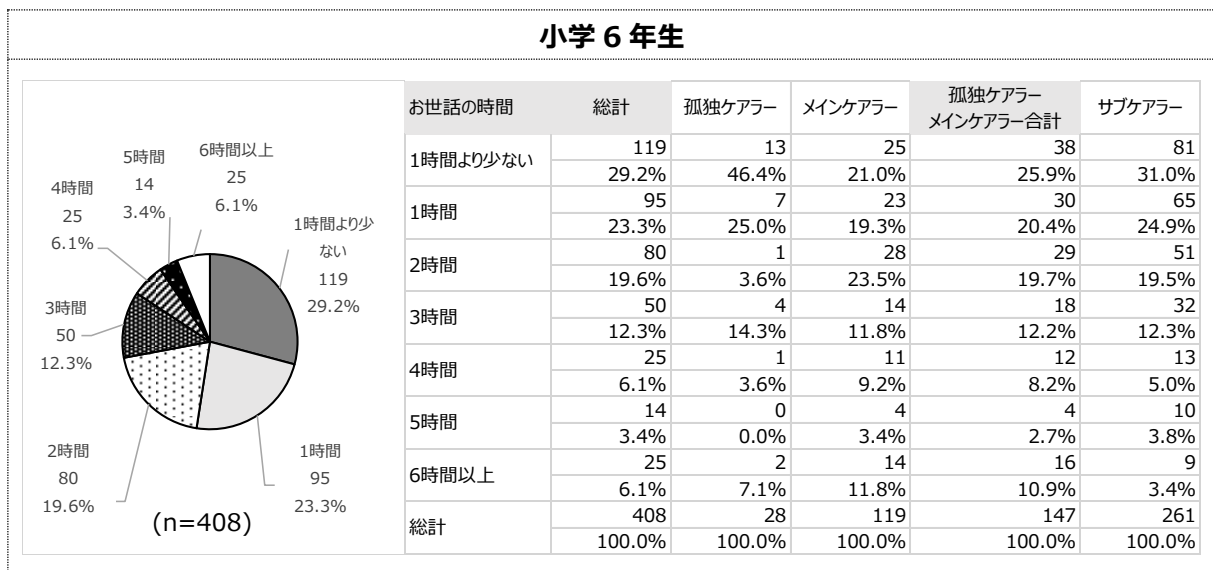
お世話の時間（総計）については、すべての学校種別で「1時間より少ない」の割合が最も高く、次いで「1時間」であった。

小学6年生、中学2年生、高校2年生の総計では「1時間より少ない」と「1時間」を合わせると、小学6年生では52.5%、中学2年生では56.2%、高校2年生では67.1%であった。

1日に6時間以上お世話をしているヤングケアラーがすべての学校種別で4～6%程度存在していた。

グループ別にみると、すべての学校種別の「6時間以上」で、孤独ケアラーとメインケアラーの合計の割合が、総計の割合を上回った。

一方で、サブケアラーは、すべての学校種別の「1時間より少ない」で、総計の割合を上回った。このため、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、サブケアラーよりもお世話の頻度が高いことがうかがえる。



中学 2 年生



高校 2 年生



大学 3 年生



3.4.2 お世話の大変さ

Q：お世話をするに大変さを感じていますか。(あてはまるものすべて)

- － 「身体的に大変」「精神的に大変」「時間的余裕がない」「特に大変さは感じていない」

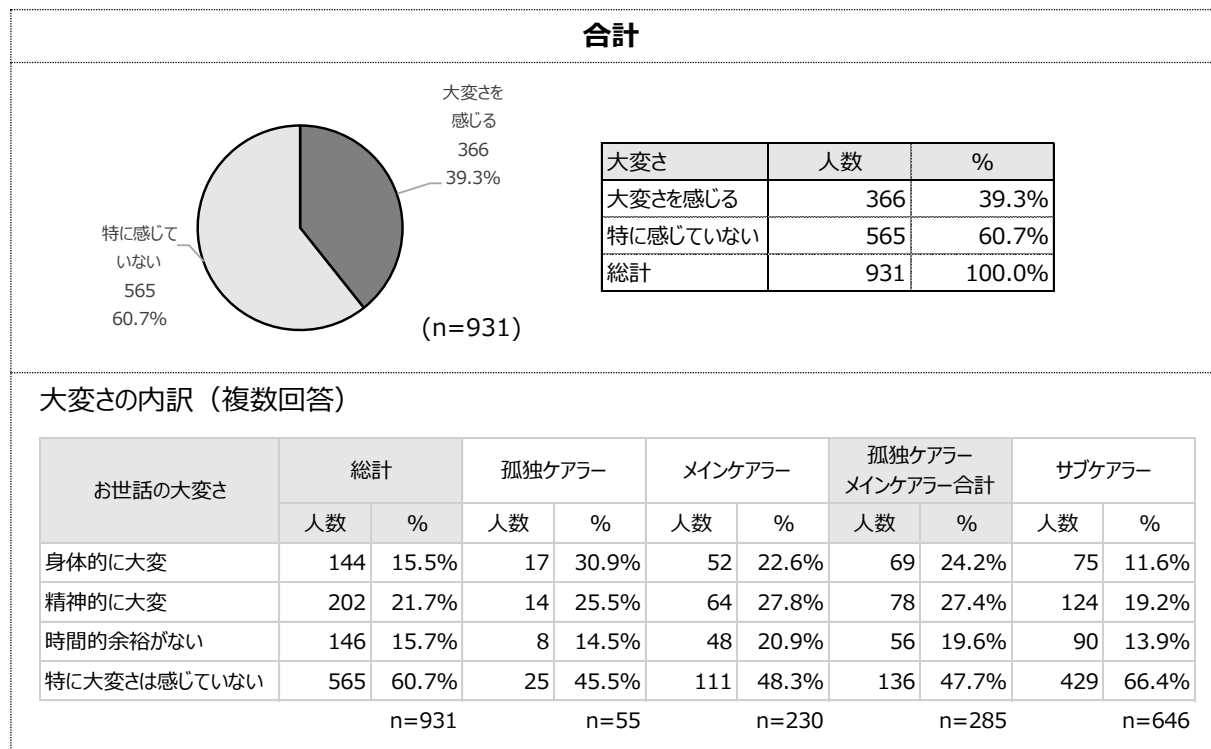
※「特に大変さは感じていない」を選択せず、「身体的に大変」「精神的に大変」「時間的余裕がない」の中から1つ以上を選択した回答者を「大変さを感じる」として集計している。

「3.4.1 お世話の期間・頻度・時間」に加え、これは回答者(ヤングケアラー)自身が**主観的に感じる大変さの有無と度合い**を尋ねる質問である。

お世話の大変さについては、小学6年生、中学2年生、高校2年生では、**約4割が「大変さを感じる」と回答**(「身体的に大変」、「精神的に大変」、「時間的余裕がない」のうち1つ以上を選択)し、**約6割は「特に大変さは感じていない」と回答した**。

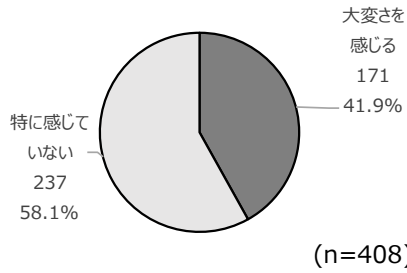
大変さの内訳では、小学6年生、中学2年生では「**精神的に大変**」という回答が最も多く、高校2年生では「**時間的余裕がない**」という回答が最も多かった。また、「身体的に大変」「精神的に大変」「時間的余裕がない」のうち、大変さを感じるとして回答した数を見ると、いずれの学校種別でも1つ、2つ、3つの順に少なくなっていたことから、複数の大変さを感じているヤングケアラーは、それほど多くないといえる。

グループ別にみると、孤独ケアラーについては、メインケアラー及びサブケアラーよりも「身体的に大変」の割合が高かった。また、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、身体的・精神的・時間的のすべての面において、サブケアラーよりも大変さを感じる割合が高かった。



小学6年生

大変さの数による集計



大変さ	人数	%
大変さを感じる	171	41.9%
特に感じていない	237	58.1%
総計	408	100.0%

大変さの数	人数	%	大変さの内訳	人数	%
大変さ：1つ	127	74.3%	体力の面で大変	34	19.9%
			気持ちの面で大変	56	32.7%
			時間の余裕がない	37	21.6%
大変さ：2つ	33	19.3%	体力の面で大変 + 気持ちの面で大変	14	8.2%
			気持ちの面で大変 + 時間の余裕がない	12	7.0%
			体力の面で大変 + 時間の余裕がない	7	4.1%
			小計	171	100.0%

大変さの内訳（複数回答）

お世話の大変さ	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
体力の面で大変	66	16.2%	7	25.0%	26	21.8%	33	22.4%	33	12.6%
気持ちの面で大変	93	22.8%	8	28.6%	32	26.9%	40	27.2%	53	20.3%
時間の余裕がない	67	16.4%	4	14.3%	22	18.5%	26	17.7%	41	15.7%
特に大変さは感じていない	237	58.1%	12	42.9%	59	49.6%	71	48.3%	166	63.6%
	n=408		n=28		n=119		n=147		n=261	

【国の先行調査との比較】

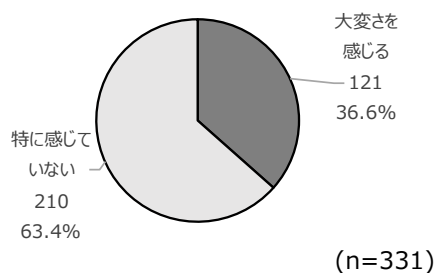
大変さの有無	国(%) ※1	青森県(%)	お世話の大変さ	国(%)	青森県(%)
大変さを感じる	33.9%	41.9%	体力の面で大変	13.9%	16.2%
特に感じていない	57.4%	58.1%	気持ちの面で大変	18.4%	22.8%
無回答	8.7%	0.0%	時間の余裕がない	14.6%	16.4%
計	100.0%	100.0%	特に大変さは感じていない	57.4%	58.1%
	n=631	n=408	無回答	8.7%	0.0%
				n=631	n=408

※1：大変さの有無において、国の大変さを感じる割合(%)は下記の方法で計算した

$$\text{国(}\%) = 100\% - (\text{特に大変さは感じていない}\% + \text{無回答}\%)$$

大変さの有無については、「大変さを感じる」の割合が国では 33.9%、青森県は 41.9%であった。
お世話の大変さについては、国・青森県ともに「特に大変さは感じていない」の割合が最も高く、大変さに関する選択肢では「気持ちの面で大変」の割合が最も高かった。
また、大変さに関する選択肢のうち、体力・気持ち・時間すべての面において青森県の割合が国の割合を上回った。

中学 2 年生



大変さ	人数	%
大変さを感じる	121	36.6%
特に感じていない	210	63.4%
総計	331	100.0%

大変さの数による集計

大変さの数	人数	%	大変さの内訳	人数	%
大変さ：1つ	87	71.9%	身体的に大変	29	24.0%
			精神的に大変	37	30.6%
			時間的余裕がない	21	17.4%
大変さ：2つ	24	19.8%	身体的に大変 +精神的に大変	15	12.4%
			精神的に大変 +時間的余裕がない	6	5.0%
			身体的に大変 +時間的余裕がない	3	2.5%
大変さ：3つ	10	8.3%	身体的に大変 +精神的に大変 +時間的余裕がない	10	8.3%
小計	121	100.0%	小計	121	100.0%

大変さの内訳（複数回答）

お世話の大変さ	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身体的に大変	57	17.2%	7	43.8%	18	26.1%	25	29.4%	32	13.0%
精神的に大変	68	20.5%	4	25.0%	22	31.9%	26	30.6%	42	17.1%
時間的余裕がない	40	12.1%	2	12.5%	14	20.3%	16	18.8%	24	9.8%
特に大変さは感じていない	210	63.4%	9	56.3%	30	43.5%	39	45.9%	171	69.5%
	n=331		n=16		n=69		n=85		n=246	

【国の先行調査との比較】

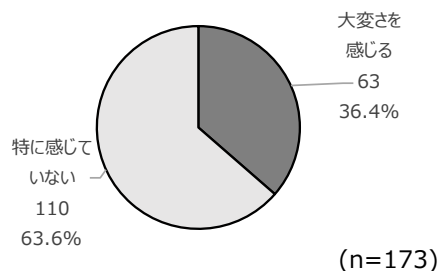
大変さの有無	国(%) ※1	青森県(%)	お世話の大変さ	国(%)	お世話の大変さ	青森県(%)
大変さを感じる	26.3%	36.6%	身体的にきつい	6.6%	身体的に大変	17.2%
特に感じていない	60.5%	63.4%	精神的にきつい	15.0%	精神的に大変	20.5%
無回答	13.2%	0.0%	時間的余裕がない	16.0%	時間的余裕がない	12.1%
計	100.0%	100.0%	特にきつさは感じていない	60.5%	特に大変さは感じていない	63.4%
	n=319	n=331	無回答	13.2%	無回答	0.0%
				n=319		n=331

※1：大変さの有無において、国の大変さを感じる割合(%)は下記の方法で計算した

$$\text{国(％)} = 100\% - (\text{特に大変さは感じていない％} + \text{無回答％})$$

大変さの有無については、「大変さを感じる」の割合が国では 26.3%、青森県は 36.6%であった。
お世話の大変さについては、国・青森県ともに「特に大変さは感じていない」の割合が最も高かった。大変さに関する選択肢では、国では「時間的余裕がない」、青森県では「精神的に大変」の割合が最も高かった。
また、大変さに関する選択肢のうち、「身体的に大変」「精神的に大変」が国の「身体的にきつい」「精神的にきつい」の割合を上回った。

高校2年生



大変さ	人数	%
大変さを感じる	63	36.4%
特に感じていない	110	63.6%
総計	173	100.0%

大変さの数による集計

大変さの数	人数	%	大変さの内訳	人数	%
大変さ：1つ	49	77.8%	身体的に大変	4	6.3%
			精神的に大変	21	33.3%
			時間的余裕がない	24	38.1%
大変さ：2つ	7	11.1%	身体的に大変 +精神的に大変	4	6.3%
			精神的に大変 +時間的余裕がない	0	0.0%
			身体的に大変 +時間的余裕がない	3	4.8%
大変さ：3つ	7	11.1%	身体的に大変 +精神的に大変 +時間的余裕がない	7	11.1%
小計	63	100.0%	小計	63	100.0%

大変さの内訳（複数回答）

お世話の大変さ	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身体的に大変	18	10.4%	2	25.0%	8	21.1%	10	21.7%	8	6.3%
精神的に大変	32	18.5%	0	0.0%	8	21.1%	8	17.4%	24	18.9%
時間的余裕がない	34	19.7%	2	25.0%	9	23.7%	11	23.9%	23	18.1%
特に大変さを感じていない	110	63.6%	4	50.0%	21	55.3%	25	54.3%	85	66.9%
	n=173		n=8		n=38		n=46		n=127	

【国の先行調査との比較】

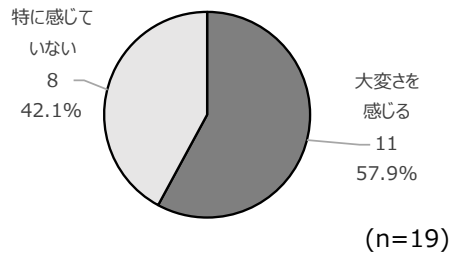
大変さの有無	国(%) ※1	青森県(%)	お世話の大変さ	国(%)	お世話の大変さ	青森県(%)
大変さを感じる	31.9%	36.4%	身体的にきつい	6.5%	身体的に大変	10.4%
特に感じていない	52.1%	63.6%	精神的にきつい	19.9%	精神的に大変	18.5%
無回答	16.0%	0.0%	時間的余裕がない	16.9%	時間的余裕がない	19.7%
計	100.0%	100.0%	特にきつさは感じていない	52.1%	特に大変さを感じていない	63.6%
	n=307	n=173	無回答	16.0%	無回答	0.0%
				n=307		n=173

※1：大変さの有無において、国の大変さを感じる割合(%)は下記の方法で計算した

$$\text{国(％)} = 100\% - (\text{特に大変さを感じていない％} + \text{無回答％})$$

大変さの有無については、「大変さを感じる」の割合が国では31.9%、青森県は36.4%であった。お世話の大変さについては、国・青森県ともに「特に大変さを感じていない」の割合が最も高かった。大変さに関する選択肢では、国では「精神的にきつい」、青森県では「時間的余裕がない」の割合が最も高かった。また、大変さに関する選択肢のうち、「身体的に大変」「時間的余裕がない」が国の「身体的にきつい」「時間的余裕がない」の割合を上回った。

大学3年生



大変さ	人数	%
大変さを感じる	11	57.9%
特に感じていない	8	42.1%
総計	19	100.0%

大変さの数による集計

大変さの数	人数	%	大変さの内訳	人数	%
大変さ：1つ	6	54.5%	身体的に大変	1	9.1%
			精神的に大変	4	36.4%
			時間的余裕がない	1	9.1%
大変さ：2つ	4	36.4%	身体的に大変 + 精神的に大変	1	9.1%
			精神的に大変 + 時間的余裕がない	3	27.3%
			身体的に大変 + 時間的余裕がない	0	0.0%
			精神的に大変 + 時間的余裕がない	0	0.0%
大変さ：3つ	1	9.1%	身体的に大変 + 精神的に大変 + 時間的余裕がない	1	9.1%
小計	11	100.0%	小計	11	100.0%

大変さの内訳（複数回答）

お世話の大変さ	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身体的に大変	3	15.8%	1	33.3%	0	0.0%	1	14.3%	2	16.7%
精神的に大変	9	47.4%	2	66.7%	2	50.0%	4	57.1%	5	41.7%
時間的余裕がない	5	26.3%	0	0.0%	3	75.0%	3	42.9%	2	16.7%
特に大変さを感じていない	8	42.1%	0	0.0%	1	25.0%	1	14.3%	7	58.3%
	n=19		n=3		n=4		n=7		n=12	

【国の先行調査との比較】

大変さの有無	国(%) ※1	青森県(%)	お世話の大変さ	国(%)	お世話の大変さ	青森県(%)
大変さを感じる	58.2%	57.9%	身体的にきつい	16.3%	身体的に大変	15.8%
特に感じていない	41.8%	42.1%	精神的にきつい	42.4%	精神的に大変	47.4%
計	100.0%	100.0%	時間的余裕がない	31.8%	時間的余裕がない	26.3%
	n=987	n=19	特にきつさは感じていない	41.8%	特に大変さを感じていない	42.1%
				n=987		n=19

※1：大変さの有無において、国の大変さを感じる割合(%)は下記の方法で計算した

$$\text{国(％)} = 100\% - (\text{特に大変さを感じていない％} + \text{無回答％})$$

3.4.3 お世話に伴う困りごと

Q：お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。あなたが**困っている順番**に、1位、2位、3位を選んで番号を記載してください。
(特にない場合は、“特にないの番号”を記載してください)

※**困っている順位**に、1位は3ポイント、2位は2ポイント、3位は1ポイントとして集計している。

お世話に伴う困りごとは、すべての学校種別で、「**ストレスを感じる**」が1位であった。

また、困りごとの2～5位の内容で、すべての学校種別に共通するものは以下のとおりであった。

- ・ 自分の時間が取れない
- ・ 宿題(大学3年生は課題・予習復習)や勉強をする時間がない
- ・ 睡眠が十分に取れない(大学3年生を除く)

また、**小学6年生、中学2年生、高校2年生**では、4～6割の回答者は、「**困っていることはない**」と回答した。

※国の回答方法は複数回答、青森県の回答方法は3位までの順位回答であり、回答方法が異なる。青森県の回答率が高いことから、国と青森県の調査結果を一概に比較することはできない。

また、国及び青森県ともに回答が複数であることから、合計が100.0%を超える。

困りごと	小学6年生		中学2年生		高校2年生		大学3年生	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ない	199	48.8%	152	45.9%	100	57.8%	6	31.6%
ある	209	51.2%	179	54.1%	73	42.2%	13	68.4%
	n=408		n=331		n=173		n=19	

学校種別毎の「**お世話に伴う困りごと**」の上位は、下記のとおりである。

順位	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生
1位	ストレスを感じる	ストレスを感じる	ストレスを感じる	ストレスを感じる
2位	自分の時間がとれない	成績が落ちた	成績が落ちた	友人と遊ぶことができなかった
3位	宿題など勉強をする時間がない	自分の時間がとれない	自分の時間がとれない	課題・予習復習をする時間がとれない
4位	眠る時間がたりない	睡眠が十分に取れない	睡眠が十分に取れない	孤独を感じる
5位	授業に集中できない	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	自分の時間がとれなかった

小学6年生

困りごと	人数	%
ない	199	48.8%
ある	209	51.2%

n=408

※困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1~3位すべて未選択の場合を「ない」として集計した。

1位=3ポイント、2位=2ポイント、3位=1ポイントとしてポイントを算出
ポイントの多い順に順位づけ

全体(n)に占める1位~3位に選んだ割合(%)

お世話に伴う困りごと（順位回答）	順位	ポイント	%	困っている順位			計(人)
				1位	2位	3位	
ストレスを感じる	1	329	33.6%	79	34	24	137
自分の時間がとれない	2	122	14.0%	20	25	12	57
宿題など勉強をする時間がない	3	102	12.5%	17	17	17	51
眠る時間がたりない	4	98	11.3%	18	16	12	46
授業に集中できない	5	87	10.5%	15	14	14	43
学校を休んでしまう	6	62	7.6%	10	11	10	31
成績が落ちた	7	57	6.9%	10	9	9	28
ちこくや そうたいをしてしまう	8	49	6.6%	6	10	11	27
こどくを感じる	9	38	5.4%	3	10	9	22
食よくがない	10	36	4.9%	5	6	9	20
友だちと遊ぶことができない	11	35	4.2%	5	8	4	17
その他	12	33	3.4%	8	3	3	14
部活や習い事ができない	13	12	1.7%	2	1	4	7

n=408

【国の先行調査との比較】

世話をしているためにやりたいけれどできないこと(国) お世に伴う困りごと(青森県)	国(%)	青森県(%)
学校を休んでしまう	2.9%	7.6%
ちこく や そうたいをしてしまう	3.2%	6.6%
宿題など勉強をする時間がない	7.8%	12.5%
授業に集中できない	-	10.5%
成績が落ちた	-	6.9%
ストレスを感じる	-	33.6%
こどくを感じる	-	5.4%
眠る時間がたりない	6.7%	11.3%
食よくない	-	4.9%
友だちと遊ぶことができない	10.1%	4.2%
部活や習い事ができない	1.0%	1.7%
自分の時間がとれない	15.1%	14.0%
その他	1.1%	3.4%
特にない	63.9%	48.8%
無回答	8.7%	0.0%
	n=631	n=408

<質問・集計方法の違い>

※青森県(本調査)では順位回答のため
国と単純比較はできないが、順位(1~3
位)ではなく3つ選択する複数回答とみ
なし%を集計した
※青森県(本調査)では困りごとがない場
合は選択しないよう回答者に教示してい
るため、1~3位すべて未選択の場合を
「特にない」として集計した

※1：青森県だけの項目

※2：国の選択肢は「習い事ができない」

国の回答方法は複数回答、青森県の回答方法は3位までの順位回答であり、回答方法が異なる。国の回答合計が120.5%、青森県の回答合計が171.4%となっており、青森県の回答率が高いことから、国と青森県の調査結果を一概に比較することはできない。

※青森県の調査は、ヤングケアラーが、どの項目についてより強く困りごととして感じているかを把握するために、複数回答ではなく、3位までの順位回答としたものである。

「特にない」を除いて、国では、「自分の時間がとれない」が最も高く、次いで「友だちと遊ぶことができない」、「宿題など勉強をする時間がない」であり、青森県では、「ストレスを感じる」の割合が最も高く、次いで「自分の時間がとれない」、「宿題など勉強をする時間がない」、「眠る時間がたりない」の順であった。

中学 2 年生

困りごと	人数	%
ない	152	45.9%
ある	179	54.1%

※困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1～3 位すべて未選択の場合を「ない」として集計した。

n=331

お世話に伴う困りごと（順位回答）	順位	ポイント	%	困っている順位			計(人)
				1位	2位	3位	
ストレスを感じる	1	270	33.2%	69	22	19	110
成績が落ちた	2	141	17.5%	33	17	8	58
自分の時間がとれない	3	98	13.9%	19	14	13	46
睡眠が十分に取れない	4	74	11.5%	11	14	13	38
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	5	66	9.4%	11	13	7	31
授業に集中できない	6	58	9.4%	7	13	11	31
孤独を感じる	7	50	9.1%	5	10	15	30
どうしても学校を遅刻・早退してしまう	8	31	4.2%	6	5	3	14
学校に行きたくても行けない	9	30	4.8%	2	10	4	16
友人と遊ぶことができない	10	26	4.2%	2	8	4	14
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	11	13	2.7%	1	2	6	9
食欲がない	12	12	2.4%	1	2	5	8
その他	13	6	1.2%	1	0	3	4
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	14	4	0.6%	1	0	1	2

n=331

【国の先行調査との比較】

世話をしているためにやりたいけれどできないこと(国) お世話に伴う困りごと(青森県)	国(%)	青森県(%)
学校に行きたくても行けない	1.6%	4.8%
どうしても学校を遅刻・早退してしまう	2.5%	4.2%
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	16.0%	9.4%
授業に集中できない	-	9.4%
成績が落ちた	-	17.5%
ストレスを感じる	-	33.2%
孤独を感じる	-	9.1%
睡眠が十分に取れない	8.5%	11.5%
食欲がない	-	2.4%
友人と遊ぶことができない	8.5%	4.2%
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	4.7%	0.6%
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	4.1%	2.7%
自分の時間がとれない	20.1%	13.9%
その他	0.3%	1.2%
特になし	58.0%	45.9%
無回答	10.7%	0.0%

※1：青森県のみ項目

n=319 n=331

<質問・集計方法の違い>

※青森県(本調査)では順位回答のため国と単純比較はできないが、順位(1～3位)ではなく3つ選択する複数回答とみなし%を集計した

※青森県(本調査)では困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1～3 位すべて未選択の場合を「特になし」として集計した

小学 6 年生と同様、国と青森県の調査結果を一概に比較することはできない。

「特になし」を除いて、国では、「自分の時間がとれない」が最も高く、次いで「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」であり、青森県では、「ストレスを感じる」の割合が最も高く、次いで「成績が落ちた」、「自分の時間がとれない」の順であった。

高校 2 年生

困りごと	人数	%
ない	100	57.8%
ある	73	42.2%

n=173

※困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1~3 位すべて未選択の場合を「ない」として集計した。

お世話に伴う困りごと（順位回答）	順位	ポイント	%	困っている順位			計(人)
				1位	2位	3位	
ストレスを感じる	1	113	26.0%	25	18	2	45
成績が落ちた	2	38	9.8%	8	5	4	17
自分の時間がとれない	2	38	11.0%	8	3	8	19
睡眠が十分に取れない	4	36	10.4%	4	10	4	18
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	5	35	9.8%	7	4	6	17
授業に集中できない	6	23	6.4%	5	2	4	11
どうしても学校を遅刻・早退してしまう	7	17	4.6%	3	3	2	8
友人と遊ぶことができない	8	15	5.2%	2	2	5	9
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	9	12	2.9%	2	3	0	5
その他	9	12	2.3%	4	0	0	4
孤独を感じる	11	11	3.5%	1	3	2	6
学校に行きたくても行けない	12	7	1.7%	1	2	0	3
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	13	5	2.3%	0	1	3	4
食欲がない	14	1	0.6%	0	0	1	1

n=173

【国の先行調査との比較】

世話をしているためにやりたいけれどできないこと(国) お世話に伴う困りごと(青森県)	国(%)	青森県(%)
学校に行きたくても行けない	1.0%	1.7%
どうしても学校を遅刻・早退してしまう	2.9%	4.6%
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	13.0%	9.8%
授業に集中できない	-	6.4%
成績が落ちた	-	9.8%
ストレスを感じる	-	26.0%
孤独を感じる	-	3.5%
睡眠が十分に取れない	11.1%	10.4%
食欲がない	-	0.6%
友人と遊ぶことができない	11.4%	5.2%
部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	2.3%	2.3%
進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	5.5%	2.9%
自分の時間がとれない	16.6%	11.0%
その他	1.6%	2.3%
特になし	52.1%	57.8%
無回答	16.0%	0.0%

※1：青森県だけの項目

n=307 n=173

<質問・集計方法の違い>

※青森県(本調査)では順位回答のため
国と単純比較はできないが、順位(1~3
位)ではなく3つ選択する複数回答とみ
なし%を集計した
※青森県(本調査)では困りごとがない場
合は選択しないよう回答者に教示してい
るため、1~3 位すべて未選択の場合を
「特になし」として集計した

小学 6 年生、中学 2 年生と同様、国と青森県の調査結果を一概に比較することはできない。

「特になし」を除いて、国では、「自分の時間がとれない」が最も高く、次いで「宿題をする時間や勉強をする時間が取れない」「友人と遊ぶことができない」であり、青森県では、「ストレスを感じる」の割合が最も高く、次いで「自分の時間がとれない」、「睡眠が十分に取れない」の順であった。

大学3年生

困りごと	人数	%
ない	6	31.6%
ある	13	68.4%

※困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1~3位すべて未選択の場合を「ない」として集計した。

n=19

お世話に伴う困りごと（順位回答）	順位	ポイント	%	困っている順位			計(人)
				1位	2位	3位	
ストレスを感じる	1	18	36.8%	4	3	0	7
友人と遊ぶことができなかった	2	8	15.8%	2	1	0	3
課題・予習復習をする時間が取れなかった	3	7	21.1%	1	1	2	4
孤独を感じる	4	6	10.5%	2	0	0	2
自分の時間がとれなかった	4	6	15.8%	1	1	1	3
就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	6	5	15.8%	0	2	1	3
睡眠が十分に取れなかった	7	4	10.5%	1	0	1	2
一人暮らしをしたくてもできなかった	7	4	15.8%	0	1	2	3
その他	7	4	10.5%	1	0	1	2
食欲がない	10	3	5.3%	1	0	0	1
大学の授業に行きたくても行けなかった	11	2	5.3%	0	1	0	1
恋愛をしたくてもできなかった	11	2	5.3%	0	1	0	1
単位をとれなかった、留年・休学した	13	1	5.3%	0	0	1	1
部活動・サークル活動、習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	13	1	5.3%	0	0	1	1
アルバイトができなかった	15	0	0.0%	0	0	0	0

n=19

【国の先行調査との比較】

世話をしているためにやりたいけれどできないこと(国) お世話に伴う困りごと(青森県)	国(%)	青森県(%)
大学の授業に行きたくても行けなかった	4.5%	5.3%
単位をとれなかった、留年・休学した	3.6%	5.3%
課題・予習復習をする時間が取れなかった	17.9%	21.1%
留学をあきらめた	5.3%	-
ストレスを感じる	-	36.8%
孤独を感じる	-	10.5%
睡眠が十分に取れなかった	24.4%	10.5%
食欲がない	-	5.3%
友人と遊ぶことができなかった	24.3%	15.8%
部活動・サークル活動、習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	9.8%	5.3%
課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	4.8%	-
アルバイトができなかった	11.8%	0.0%
就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	7.5%	15.8%
一人暮らしをしたくてもできなかった	13.2%	15.8%
恋愛をしたくてもできなかった	7.9%	5.3%
自分の時間がとれなかった	32.2%	15.8%
その他	2.1%	10.5%
特になし	41.9%	31.6%
	n=987	n=19

<質問・集計方法の違い>

※青森県(本調査)では順位回答のため国と単純比較はできないが、順位(1~3位)ではなく3つ選択する複数回答とみなし%を集計した

※青森県(本調査)では困りごとがない場合は選択しないよう回答者に教示しているため、1~3位すべて未選択の場合を「特になし」として集計した

※1：青森県だけの項目

※2：国だけの項目

3.4.4 就職への不安(大学3年生のみ)

Q：お世話をすることで、就職に関し不安はありますか。(あてはまるものすべて)

就職への不安については「**特にない**」が 47.4%と最も高く、次いで「正社員として就職できるか不安がある」、
「休まず働けるか不安がある」がいずれも 21.1%であった。

約半数が就職に関して何らかの不安を感じている。

大学3年生（複数回答）

就職への不安	人数	%
正社員として就職できるか不安がある	4	21.1%
休まず働けるか不安がある	4	21.1%
通勤できる地域が限られる	3	15.8%
働ける時間帯が限られる	2	10.5%
就職先について考える時間がない	1	5.3%
わからない	2	10.5%
その他	0	0.0%
特にない	9	47.4%
		n=19

3.4.5 お世話をしている理由

Q：あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

お世話をしている理由については、「**自分がお世話をしないと家族が困るため**」が46.3%で最も高く、次いで「自分がお世話をしたいと思うため」が37.9%であった。

また、「**わからない・考えたことがない**」という回答が19.7%であった。この回答を選んだヤングケアラーには、明確な理由はわからないまま、気がついたときにはすでにお世話をしている状況にある子どもが含まれていると考えられる。

また、グループ別に見ると、孤独ケアラーとメインケアラーの合計、サブケアラーとも「**自分がお世話をしないと家族が困るため**」が最も高かったほか、孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、「ほかにお世話できる人がいないため」「わからない・考えたことがない」が総計を上回り、サブケアラーでは、「自分がお世話をしたいと思うため」、「自分がお世話をしないと家族が困るため」、「ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため」が総計を上回った。

学校種別で見ると、小学6年生に比較して、中学2年生、高校2年生、大学3年生では、「自分がお世話をしたいと思うため」が低かった。

合計（複数回答）

お世話をしている理由	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分がお世話をしたいと思うため	353	37.9%	18	32.7%	88	38.3%	106	37.2%	247	38.2%
自分がお世話をしないと家族が困るため	431	46.3%	18	32.7%	111	48.3%	129	45.3%	302	46.7%
ほかにお世話をできる人がいないため	88	9.5%	10	18.2%	32	13.9%	42	14.7%	46	7.1%
ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため	139	14.9%	3	5.5%	28	12.2%	31	10.9%	108	16.7%
わからない・考えたことがない	183	19.7%	16	29.1%	45	19.6%	61	21.4%	122	18.9%
その他	42	4.5%	3	5.5%	11	4.8%	14	4.9%	28	4.3%
	n=931		n=55		n=230		n=285		n=646	

小学6年生（複数回答）

お世話をしている理由	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分がお世話をしたいと思うため	167	40.9%	12	42.9%	50	42.0%	62	42.2%	105	40.2%
自分がお世話をしないと家族がこまるため	188	46.1%	8	28.6%	55	46.2%	63	42.9%	125	47.9%
ほかにお世話をできる人がいないため	28	6.9%	3	10.7%	14	11.8%	17	11.6%	11	4.2%
ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため	52	12.7%	0	0.0%	14	11.8%	14	9.5%	38	14.6%
わからない・考えたことがない	82	20.1%	9	32.1%	23	19.3%	32	21.8%	50	19.2%
その他	22	5.4%	0	0.0%	5	4.2%	5	3.4%	17	6.5%
	n=408		n=28		n=119		n=147		n=261	

中学 2 年生（複数回答）

お世話をしている理由	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分がお世話をしたいと思うため	114	34.4%	3	18.8%	26	37.7%	29	34.1%	85	34.6%
自分がお世話をしないと家族が困るため	163	49.2%	8	50.0%	38	55.1%	46	54.1%	117	47.6%
ほかにお世話をできる人がいないため	31	9.4%	5	31.3%	11	15.9%	16	18.8%	15	6.1%
ほかの家族や親せき等からお世話をしよう言われているため	54	16.3%	1	6.3%	8	11.6%	9	10.6%	45	18.3%
わからない・考えたことがない	66	19.9%	4	25.0%	11	15.9%	15	17.6%	51	20.7%
その他	16	4.8%	3	18.8%	6	8.7%	9	10.6%	7	2.8%
	n=331		n=16		n=69		n=85		n=246	

高校 2 年生（複数回答）

お世話をしている理由	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分がお世話をしたいと思うため	66	38.2%	2	25.0%	12	31.6%	14	30.4%	52	40.9%
自分がお世話をしないと家族が困るため	73	42.2%	2	25.0%	15	39.5%	17	37.0%	56	44.1%
ほかにお世話をできる人がいないため	24	13.9%	1	12.5%	6	15.8%	7	15.2%	17	13.4%
ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため	30	17.3%	1	12.5%	5	13.2%	6	13.0%	24	18.9%
わからない・考えたことがない	31	17.9%	3	37.5%	9	23.7%	12	26.1%	19	15.0%
その他	3	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.4%
	n=173		n=8		n=38		n=46		n=127	

大学 3 年生（複数回答）

お世話をしている理由	総計		孤独ケアラー		メインケアラー		孤独ケアラー メインケアラー合計		サブケアラー	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分がお世話をしたいと思うため	6	31.6%	1	33.3%	0	0.0%	1	14.3%	5	41.7%
自分がお世話をしないと家族が困るため	7	36.8%	0	0.0%	3	75.0%	3	42.9%	4	33.3%
ほかにお世話をできる人がいないため	5	26.3%	1	33.3%	1	25.0%	2	28.6%	3	25.0%
ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため	3	15.8%	1	33.3%	1	25.0%	2	28.6%	1	8.3%
わからない・考えたことがない	4	21.1%	0	0.0%	2	50.0%	2	28.6%	2	16.7%
その他	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
	n=19		n=3		n=4		n=7		n=12	

3.5 ヤングケアラーの相談状況・要望

本セクションでは、下記の項目について記載する。

- 3.5.1 相談経験
- 3.5.2 相談していない理由・悩みを聞いてくれる人の有無
- 3.5.3 支援の要望・希望する相談方法
- 3.5.4 支援の要望〈自由記述〉（1）
- 3.5.5 支援の要望〈自由記述〉（2）

3.5.1 相談経験

相談経験と相談相手

Q：あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

↓
「ある」と答えた回答者に対して

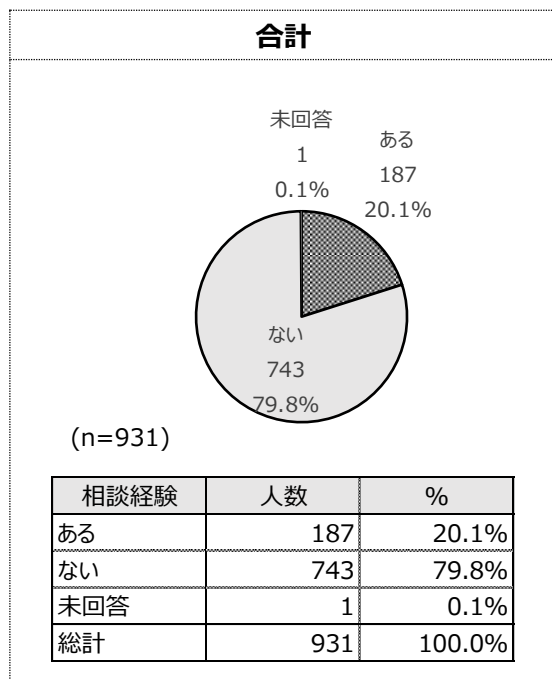
Q：相談したのは誰ですか。(あてはまる人すべて)

お世話について相談した経験について、約 8 割が相談経験が「ない」と回答した。

学校種別では、小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生の約 8 割、大学 3 年生の約 6 割が**相談経験が「ない」**と回答した。

相談経験が「ある」と回答した割合は、小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生では約 2 割、大学 3 年生では約 4 割であった。

相談経験が「ある」と回答した人に、相談相手を聞いたところ、すべての学校種別で「**家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）**」が 7～8 割と最も高かった。小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生は「友人、先輩や後輩、交際相手」が、次いで高く、約 3 割であった。

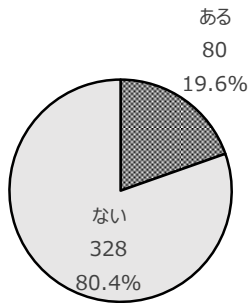


※相談経験が「ある」と回答した人の相談相手（上位 3 つ）

順位	小学6年生	%	中学2年生	%	高校2年生	%	大学3年生	%
1位	家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)	81.3%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	81.5%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	67.6%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	75.0%
2位	友だち、先輩や後輩、交際相手	32.5%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.4%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.3%	友人 交際相手、配偶者	25.0% 25.0%
3位	しんせき(おじ、おばなど) 学校の先生(保健室の先生以外)	12.5% 12.5%	学校の先生(保健室の先生以外)	15.4%	親戚(おじ、おばなど) 保健室の先生	11.8% 11.8%		
	n=80		n=65		n=34		n=8	

小学6年生

相談経験が「ある」と回答した人の相談相手(複数回答)



(n=408)

相談経験	人数	%
ある	80	19.6%
ない	328	80.4%
合計	408	100.0%

相談相手	人数	%
家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)	65	81.3%
しんせき(おじ、おばなど)	10	12.5%
友だち、先ばいや後はい、交際相手	26	32.5%
家族をお世話したことのある人	3	3.8%
学校の先生(保健室の先生以外)	10	12.5%
保健室の先生	3	3.8%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	3	3.8%
病院・いりょう・ふくしサービスの人	2	2.5%
近所の人	2	2.5%
SNS上での知り合い	2	2.5%
その他	2	2.5%

n=80

【国の先行調査との比較】

相談経験	国(%)	青森県(%)
ある	17.3%	19.6%
ない	76.1%	80.4%
無回答	6.7%	0.0%
	n=631	n=408

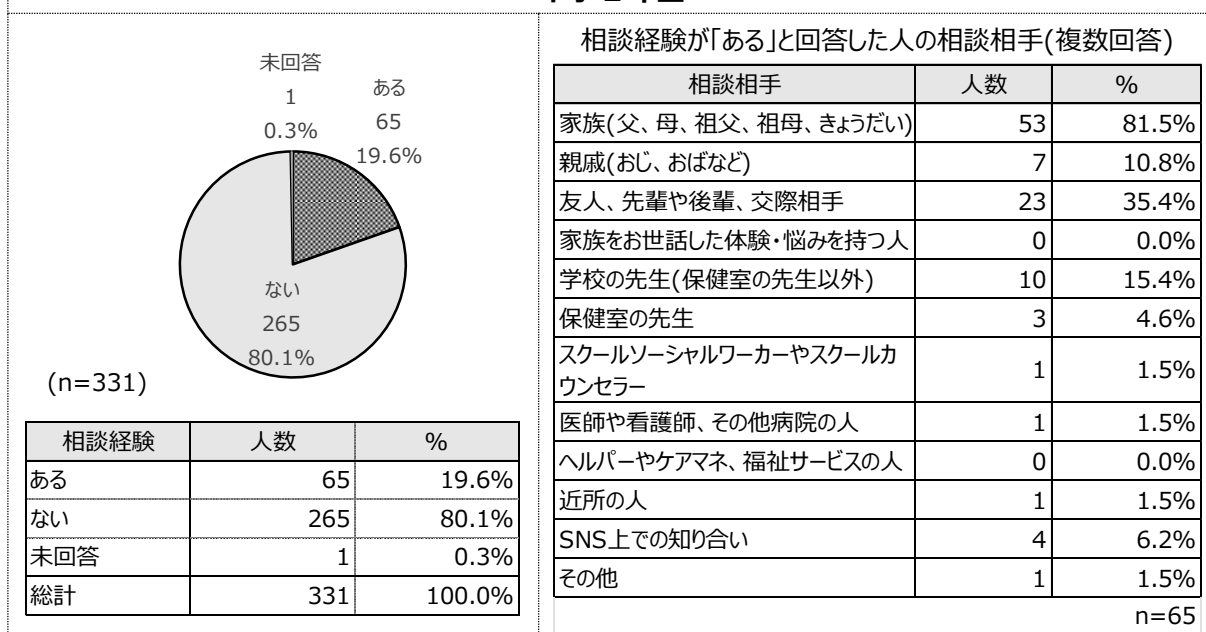
相談相手	国(%)	相談相手	青森県(%)
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	78.9%	家族(お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)	81.3%
親戚(おじ、おばなど)	10.1%	しんせき(おじ、おばなど)	12.5%
友人	40.4%	友だち、先ばいや後はい、交際相手	32.5%
-	-	家族をお世話したことのある人	3.8% ※1
学校の先生(保健室の先生以外)	13.8%	学校の先生(保健室の先生以外)	12.5%
保健室の先生	5.5%	保健室の先生	3.8%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	3.7%	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	3.8%
病院・医療・福祉サービスの人	1.8%	病院・いりょう・ふくしサービスの人	2.5%
近所の人	1.8%	近所の人	2.5%
SNS上での知り合い	4.6%	SNS上での知り合い	2.5%
その他	1.8%	その他	2.5%
無回答	0.0%	無回答	0.0%
	n=109		n=80

※1：青森県だけの項目

相談経験については、国・青森県ともに約2割が「ある」と回答した。

また、お世話についての相談相手は、国・青森県ともに「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も高く、次いで「友人/友だち、先ばいや後はい、交際相手」であった。

中学 2 年生



【国の先行調査との比較】

相談経験	国(%)	青森県(%)
ある	21.6%	19.6%
ない	67.7%	80.1%
無回答	10.7%	0.3%
	n=319	n=331

相談相手	国(%)	相談相手	青森県(%)
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	69.6%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	81.5%
親戚(おじ、おばなど)	8.7%	親戚(おじ、おばなど)	10.8%
友人	40.6%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.4%
-	-	家族をお世話した体験・悩みを持つ人	0.0% ※1
学校の先生(保健室の先生以外)	13.0%	学校の先生(保健室の先生以外)	15.4%
保健室の先生	4.3%	保健室の先生	4.6%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	7.2%	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	1.5%
医師や看護師、その他病院の人	1.4%	医師や看護師、その他病院の人	1.5%
ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	1.4%	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	0.0%
役所や保健センターの人	0.0%	-	- ※2
近所の人	1.4%	近所の人	1.5%
SNS上での知り合い	7.2%	SNS上での知り合い	6.2%
その他	1.4%	その他	1.5%
無回答	1.4%	無回答	0.0%
	n=69		n=65

※1：青森県だけの項目

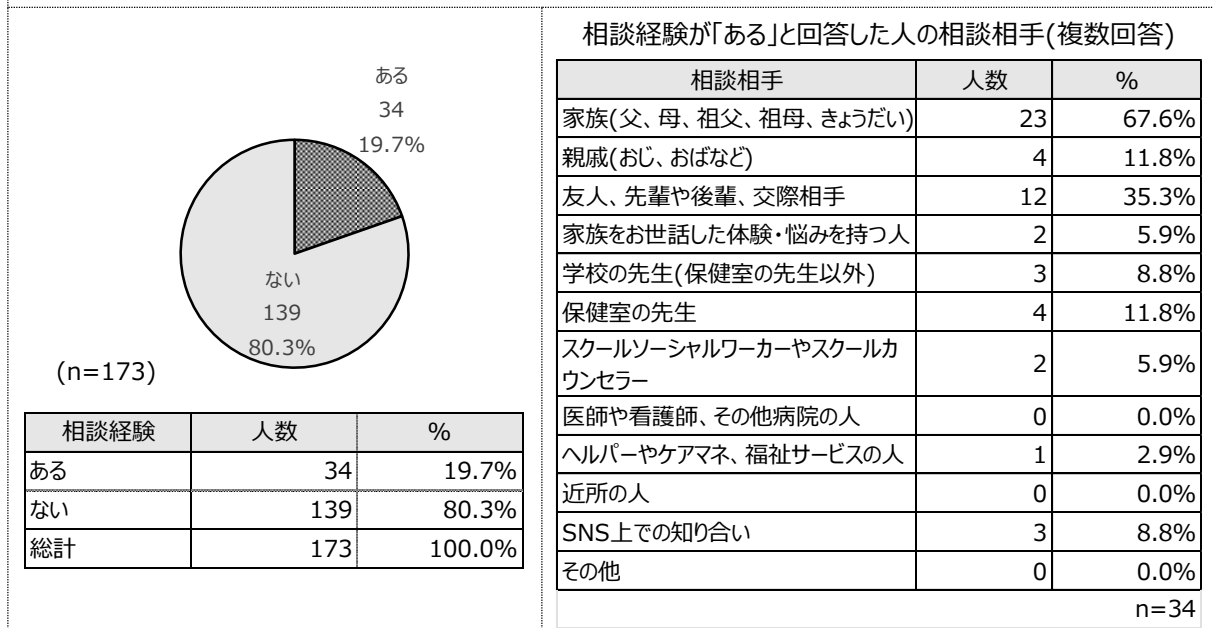
※2：国だけの項目

相談経験については、国・青森県ともに約 2 割が「ある」と回答した。

お世話についての相談相手は、国・青森県ともに「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も高く、次いで「友人/友人、先輩や後輩、交際相手」であった。

青森県では、国と比較し、「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」の割合が高く、「友人、先輩や後輩、交際相手」「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」の割合が低かった。

高校2年生



相談経験が「ある」と回答した人の相談相手(複数回答)

相談相手	人数	%
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	23	67.6%
親戚(おじ、おばなど)	4	11.8%
友人、先輩や後輩、交際相手	12	35.3%
家族をお世話した体験・悩みを持つ人	2	5.9%
学校の先生(保健室の先生以外)	3	8.8%
保健室の先生	4	11.8%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	2	5.9%
医師や看護師、その他病院の人	0	0.0%
ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	1	2.9%
近所の人	0	0.0%
SNS上での知り合い	3	8.8%
その他	0	0.0%
		n=34

【国の先行調査との比較】

相談経験	国(%)	青森県(%)
ある	23.5%	19.7%
ない	64.2%	80.3%
無回答	12.4%	0.0%
	n=307	n=173

相談相手	国(%)	相談相手	青森県(%)
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	69.4%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	67.6%
親戚(おじ、おばなど)	8.3%	親戚(おじ、おばなど)	11.8%
友人	47.2%	友人、先輩や後輩、交際相手	35.3%
-	-	家族をお世話した体験・悩みを持つ人	5.9% ※1
学校の先生(保健室の先生以外)	18.1%	学校の先生(保健室の先生以外)	8.8%
保健室の先生	4.2%	保健室の先生	11.8%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	8.3%	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	5.9%
医師や看護師、その他病院の人	2.8%	医師や看護師、その他病院の人	0.0%
ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	4.2%	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	2.9%
役所や保健センターの人	1.4%	-	- ※2
近所の人	1.4%	近所の人	0.0%
SNS上での知り合い	9.7%	SNS上での知り合い	8.8%
その他	1.4%	その他	0.0%
無回答	4.2%	無回答	0.0%
	n=72		n=34

※1：青森県だけの項目

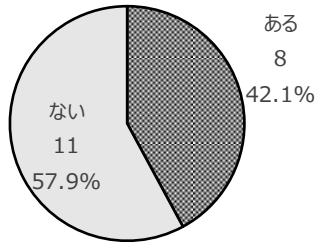
※2：国だけの項目

相談経験については、国・青森県ともに約2割が「ある」と回答した。

お世話についての相談相手は、国・青森県ともに「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も高く、次いで「友人/友人、先輩や後輩、交際相手」であった。

青森県では、国と比較し、「友人、先輩や後輩、交際相手」「学校の先生(保健室の先生以外)」の割合が10ポイント程度低かった。

大学3年生



(n=19)

相談経験	人数	%
ある	8	42.1%
ない	11	57.9%
総計	19	100.0%

相談経験が「ある」と回答した人の相談相手(複数回答)

相談相手	人数	%
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	6	75.0%
親戚(おじ、おばなど)	0	0.0%
友人	2	25.0%
家族をお世話した体験・悩みを持つ人	0	0.0%
交際相手、配偶者	2	25.0%
大学の指導教員	0	0.0%
大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	0	0.0%
その他大学の職員・機関	0	0.0%
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	0	0.0%
医師や看護師、その他病院の人	0	0.0%
ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	0	0.0%
近所の人	0	0.0%
SNS上での知り合い	0	0.0%
その他	0	0.0%

n=8

【国の先行調査との比較】

相談経験	国(%)	青森県(%)
ある	33.4%	42.1%
ない	66.0%	57.9%
	n=987	n=19

相談相手	国(%)	相談相手	青森県(%)
家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	52.4%	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	75.0%
親戚(おじ、おばなど)	14.8%	親戚(おじ、おばなど)	0.0%
友人	49.7%	友人	25.0%
-	-	家族をお世話した体験・悩みを持つ人	0.0% ※1
交際相手、配偶者	16.7%	交際相手、配偶者	25.0%
大学の指導教員	11.5%	大学の指導教員	0.0%
大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	12.7%	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	0.0%
その他大学の職員・機関	1.8%	その他大学の職員・機関	0.0%
-	-	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	0.0% ※1
医師や看護師、その他病院の人	4.5%	医師や看護師、その他病院の人	0.0%
ホームヘルパーやケアマネジャー、福祉サービスの人	4.5%	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	0.0%
役所の人(自治体の保健センター等含む)	3.6%	-	- ※2
近所の人	2.4%	近所の人	0.0%
SNS上での知り合い	4.5%	SNS上での知り合い	0.0%
その他	7.3%	その他	0.0%
	n=330		n=8

※1：青森県だけの項目

※2：国だけの項目

3.5.2 相談していない理由・悩みを聞いてくれる人の有無

Q：あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

↓
「ない」と回答した人に対して

Q：相談していない理由を教えてください。(あてはまるものすべて)

Q：あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

ヤングケアラーで相談経験が「ない」と回答した人にその理由について聞いたところ、すべての学校種別で、「**相談するほどの悩みではないと自分が思うから**」が最も高く、小学6年生、中学2年生では次いで「周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから」が高く、高校2年生では「家族外の人に相談するような悩みではないから」であった。

相談経験が「ない」と回答した人に、お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無を聞いたところ、すべての学校種別で6～7割が「いる」と答えた。

小学6年生で、相談経験が「ない」と回答した人にその理由について聞いたところ、「**相談するほどのなやみではないと自分が思うから**」(65.5%)が最も高く、次いで「周りの人たちにとっては大変ななやみではないと思うから」(15.9%)、「相談しても何も変わらないから」(15.2%)の順であった。

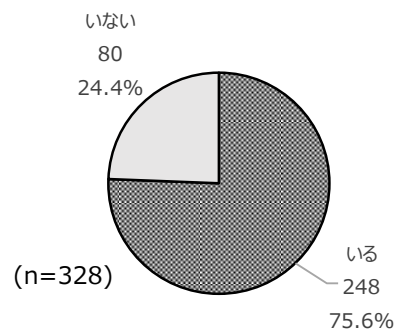
相談経験が「ない」と回答した人に、お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無を聞いたところ、75.6%の回答者が「**いる**」と答えた。

小学6年生

相談経験が「ない」と回答した人の相談していない理由（複数回答）

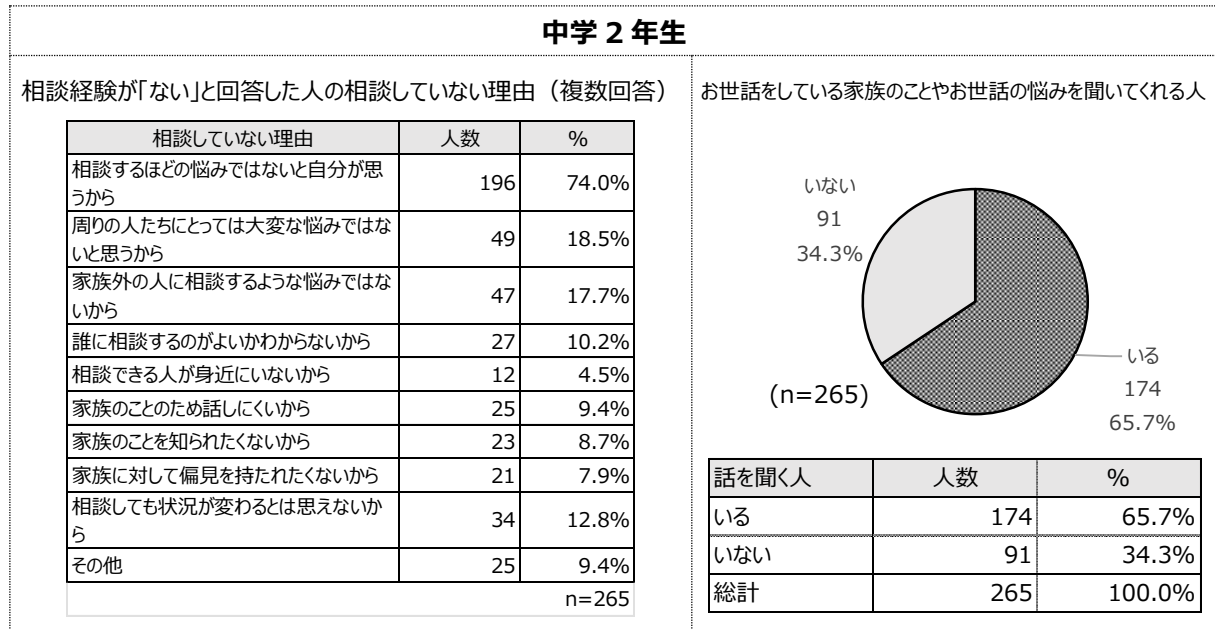
相談していない理由	人数	%
相談するほどのなやみではないと自分が思うから	215	65.5%
周りの人たちにとっては大変ななやみではないと思うから	52	15.9%
だれに相談するのがよいかわからないから	28	8.5%
相談できる人がいないから	11	3.4%
家族のことを話したくないから	19	5.8%
相談しても何も変わらないから	50	15.2%
その他	36	11.0%
n=328		

お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人

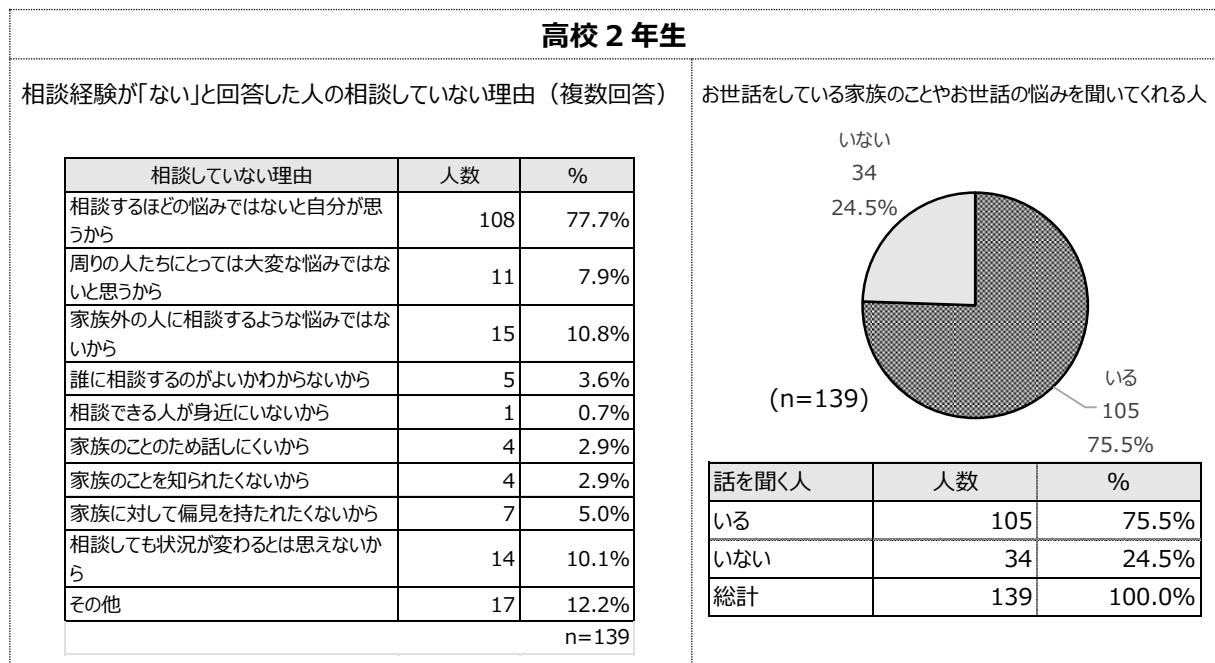


話を聞く人	人数	%
いる	248	75.6%
いない	80	24.4%
総計	328	100.0%

中学2年生で、相談経験が「ない」と回答した人にその理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないと自分が思うから」（74.0%）が最も高く、次いで「周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから」（18.5%）、「家族外の人に相談するような悩みではないから」（17.7%）の順であった。相談経験が「ない」と回答した人に、お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無を聞いたところ、65.7%の回答者が「いる」と答えた。



高校2年生で、相談経験が「ない」と回答した人にその理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないと自分が思うから」（77.7%）が最も高く、「その他」を除くと、「家族外の人に相談するような悩みではないから」（10.8%）、「相談しても状況が変わるとは思えないから」（10.1%）の順であった。相談経験が「ない」と回答した人に、お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無を聞いたところ、75.5%の回答者が「いる」と答えた。

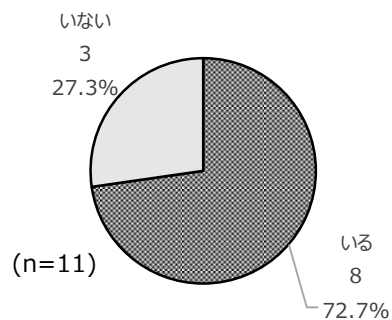


大学3年生

相談経験が「ない」と回答した人の相談していない理由（複数回答）

相談していない理由	人数	%
相談するほどの悩みではないと自分から思うから	4	36.4%
周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	2	18.2%
家族外の人に相談するような悩みではないから	1	9.1%
誰に相談するのがよいかわからないから	2	18.2%
相談できる人が身近にいないから	1	9.1%
家族のことのため話しにくいから	2	18.2%
家族のことを知られたくないから	1	9.1%
家族に対して偏見を持たれたくないから	1	9.1%
相談しても状況が変わるとは思えないから	2	18.2%
その他	3	27.3%
n=11		

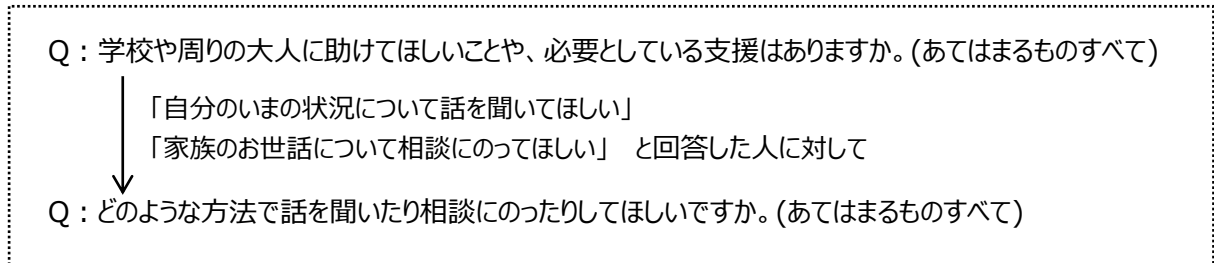
お世話をしている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人



話を聞く人	人数	%
いる	8	72.7%
いない	3	27.3%
総計	11	100.0%

3.5.3 支援の要望・希望する相談方法

支援の要望



小学6年生では、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「**特にない**」(56.1%)が最も高く、次いで「勉強を教えてください」(17.2%)、「自分のことについて話を聞いてほしい」(16.7%)、「時間を自由に使えるようにしてほしい」(14.2%)であった。

「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、「**直接会って**」が77.0%と最も高く、次いで「電話」が27.0%であった。

小学6年生		
支援の要望 (複数回答)		
支援の要望	人数	%
自分のことについて話を聞いてほしい	68	16.7%
家族のお世話について相談にのってほしい	18	4.4%
家族の病気やしょうがい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	6	1.5%
自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)だれかに代わってほしい	12	2.9%
時間を自由に使えるようにしてほしい	58	14.2%
勉強を教えてください	70	17.2%
お金の面でえんじてほしい	17	4.2%
わからない	30	7.4%
その他	5	1.2%
特にない	229	56.1%
n=408		

希望する方法 (複数回答)		
相談方法	人数	%
直接会って	57	77.0%
電話	20	27.0%
SNS	13	17.6%
電子メール	7	9.5%
その他	4	5.4%
n=74		

※どちらか、または両方選んだ回答者

中学2年生では、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「**特にな**い」(52.3%)が最も高く、次いで「学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい」(16.3%)、「時間を自由に使えるようにしてほしい」(15.7%)、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」(13.6%)、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」(12.1%)であった。

「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、「**直接会って**」が70.8%と最も高く、次いで「SNS」が22.9%であった。

中学2年生		
支援の要望 (複数回答)		
支援の要望	人数	%
自分のいまの状況について話を聞いてほしい	45	13.6%
家族のお世話について相談にのってほしい	10	3.0%
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	13	3.9%
自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	8	2.4%
時間を自由に使えるようにしてほしい	52	15.7%
進路や就職など将来の相談にのってほしい	40	12.1%
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	54	16.3%
家庭への経済的な支援をしてほしい	29	8.8%
わからない	26	7.9%
その他	8	2.4%
特にな	173	52.3%
		n=331

※どちらか、または両方選んだ回答者

↓

希望する方法 (複数回答)

相談方法	人数	%
直接会って	34	70.8%
電話	10	20.8%
SNS	11	22.9%
電子メール	6	12.5%
その他	2	4.2%
		n=48

高校2年生では、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援については、「**特にな**い」(58.4%)が最も高く、次いで「**進路や就職など将来の相談にのってほしい**」(15.0%)、「**時間を自由に使えるようにしてほしい**」(13.3%)、「**学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい**」(9.2%)であった。

「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に希望する相談方法について聞いたところ、「**直接会って**」が69.2%と最も高く、次いで「**電話**」、「**SNS**」がいずれも38.5%であった。

高校2年生		
支援の要望 (複数回答)		
支援の要望	人数	%
自分のいまの状況について話を聞いてほしい	12	6.9%
家族のお世話について相談にのってほしい	3	1.7%
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	5	2.9%
自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	3	1.7%
時間を自由に使えるようにしてほしい	23	13.3%
進路や就職など将来の相談にのってほしい	26	15.0%
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	16	9.2%
家庭への経済的な支援をしてほしい	9	5.2%
わからない	14	8.1%
その他	4	2.3%
特にな	101	58.4%
n=173		

希望する方法 (複数回答)		
相談方法	人数	%
直接会って	9	69.2%
電話	5	38.5%
SNS	5	38.5%
電子メール	1	7.7%
その他	1	7.7%
n=13		

※どちらか、または両方選んだ回答者

大学3年生		
支援の要望 (複数回答)		
支援の要望	人数	%
自分のいまの状況について話を聞いてほしい	3	15.8%
家族のお世話について相談にのってほしい	3	15.8%
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	1	5.3%
自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	1	5.3%
時間を自由に使えるようにしてほしい	1	5.3%
進路や就職など将来の相談にのってほしい	0	0.0%
大学の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	2	10.5%
家庭への経済的な支援をしてほしい	5	26.3%
わからない	1	5.3%
その他	1	5.3%
特にな	7	36.8%
n=19		

希望する方法 (複数回答)		
相談方法	人数	%
直接会って	5	100.0%
電話	0	0.0%
SNS	2	40.0%
電子メール	0	0.0%
その他	0	0.0%
n=5		

※どちらか、または両方選んだ回答者

3.5.4 支援の要望<自由記述>(1)

Q：学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまるものすべて)

↓ 「自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい」
と答えた回答者に対して

Q：誰かに代わってもらえたら楽になると思うのは、どんなお世話やどんな時ですか。(具体的に)

自由記述で得られたコメントは以下のとおりである。

※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上、掲載。

学年	お世話の相手	変わってもらえたら楽になるお世話や場面(自由記述コメント)
小学6年生	妹・弟	弟と一緒に遊ぶとか
		遊び
		あちこちに行ったときに探したり追いかけたりする時
		弟と妹の手伝い
		弟をずっと見てもらうのと、弟があらした部屋の片付けを土曜日変わってほしい
		寝るとき、お風呂
		言うことを聞かないとき、泣いたとき
		お風呂から上がったときの着替えなど
		時間に余裕がない時
		風呂洗い
中学2年生	祖母	お風呂に入れるときや、トイレに連れて行くとき
	妹・弟	全部
高校2年生	姉・兄	デイサービスに預けてもらえること
大学3年生 (現在)	祖母	トイレの補助や、話し相手になること

3.5.5 支援の要望<自由記述>(2)

Q：家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

自由記述を内容で分類し、集計した結果は以下のとおりである。

自由記述を分類別でみると、「相談・話を聞く」が最も多く、次いで「サポート・支援」、「時間・息抜き」であった。

自由記述分類	小学6年生	中学2年生	高校2年生	大学3年生 (現在)	大学3年生 (過去)	総計
相談・話を聞く	19	15	1	1	1	37
サポート・支援	21	8	6			35
時間・息抜き	17	13	3		1	34
金銭的支援	6	6	3	2		17
周囲の働きかけ	10	5				15
助け合い	4	7				11
勉強サポート	8	1				9
子どもの相手	5					5
優しさ		5				5
周囲の理解				3		3
家族の手伝い				1		1
その他	28	22	4			54
総計	118	82	17	7	2	226

自由記述で得られたコメントは下記のとおりである。
 ※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上、掲載。

小学6年生

内容	お世話の相手	自由記述コメント
サポート・支援	複数	たくさんてつだってほしい。
	複数	一緒に遊んでほしい。
	複数	国や県、市がサポートできる対策をしてほしい。
	複数	支援する。
	複数	知り合いの人にもお願いしたい。
	母親	長時間見させないようにする。
	母親	もっと人が欲しい。
	祖母	せんたく、そうじき。
	祖父	サポート。
	妹・弟	助ける。
	妹・弟	弟のことをもうちょっと見てほしい。
	妹・弟	家事の手伝い。
	妹・弟	そういう人たちへの支援活動。
	妹・弟	一緒に遊んでほしい。
	妹・弟	時間があるときに助ける。
	妹・弟	代わりになる。
	妹・弟	周りの人も手伝ってほしい。
	妹・弟	たまには他の人任せにすることが必要。
	妹・弟	支援。
	妹・弟	もっとめんどろを見てもらえるようにしたい。
妹・弟	世話をされている人だけでなく、世話をしている人のことも考えて手伝ってもらいたい。	

内容	お世話の相手	自由記述コメント
相談・話を聞く	複数	相談に乗って欲しい。
	複数	話を聞いてほしい。
	祖母	抱え込まないで大人に相談する。
	祖母	相談をどうすればいいか聞きたい。
	祖母	ふあんを聞いてくれる人。
	妹・弟	他の人に相談してもいい。
	妹・弟	自分の辛さを分かってもらいたい。
	妹・弟	悩みを聞いてあげる。
	妹・弟	アドバイスをしてもらいたい。
	妹・弟	ストレスがたまってイライラして怒ったりしないで、落ち着いてお世話をする必要があると思う。先生や大人には、困っているときに相談にのってもらいたい。
	妹・弟	自分の話を聞いてほしい。
	妹・弟	自分の気持ちをわかってほしい。
	妹・弟	少しでも相談にのる。
	妹・弟	いっぱい話を聞いてもらいたい。LINEとかで悩みを聞いてもらえると嬉しいです。
	妹・弟	悩みを聞いてもらう。
	妹・弟	相談にのってあげる。もう少しきにかける。
	妹・弟	家族の他にも悩みを相談できる人がいること。
	妹・弟	大人に料理などを手伝ってあげる。何かお世話で悩みを持っていたら、相談にのってあげてほしい。
妹・弟	話を聞いてあげたり、助けてあげたりする（精神面や体力の面）事が必要だと思う。家族のお世話をしている子どもの親に今の子どもの気持ちを伝え（別の人が）、親に子どもの扱いを改善するようにしてもらうことも場合によっては必要だと思う。	

内容	お世話の相手	自由記述コメント
時間・息抜き	複数	自由な時間がほしい。
	複数	時間をもっと作ってほしい。
	母親	父が仕事から疲れて帰って来たときに母の介護的な事をたまにしてため息をついているのが悲しい。父を休ませてほしい。
	母親	休みを与えてあげる。
	祖母	時間。
	祖母	個人の時間が必要。
	妹・弟	時間を少しでもいいからじぶんのじゆうなじかんにしてもらいたいです。
	妹・弟	ストレスを発散できるように一人の時間を作る。
	妹・弟	自由に過ごせる時間を作ってもらいたいです。
	妹・弟	自分の時間をつくること。
	妹・弟	自由に遊ぶ時間が必要だと思う。
	妹・弟	自分で使える時間がほしい。
	妹・弟	自由な時間をとってあげる。
	妹・弟	自分の時間をつくること。
	妹・弟	息抜きをする。
妹・弟	もっと、時間に余裕を持ってもらうといいと思う（協力して時間を作る）。	
その他	自由な時間をくれ。	
周囲の働きかけ	母親	いつも元気に挨拶して欲しいです。
	祖母	色々な人に、障がい者についてもっと理解をしてほしい。
	祖母	会話が苦手な人やあまり会話をしない人に話しかける。
	祖父	自分なりに頑張っている事に気づいてほしい。
	姉・兄	地域の人の協力。
	妹・弟	気を使ってほしい。
	妹・弟	まだ未成年で学ぶことがたくさんあるのに、家族のお世話をするのはあまり良くないと思いました。その現状を大人が第一に理解して変えていく必要があると思いました。
	妹・弟	私は自分の意思でお世話をしているけど、そうでない子は勉強する時間がないと思うので、家庭環境の確認をしっかりとすることが必要だと思います。
	妹・弟	優しく接する。
妹・弟	声をかけてもらう事を積極的にしてもらう事が、必要だと思う。	

内容	お世話の相手	自由記述コメント
勉強サポート	複数	わからないことを教えてもらいたい。
	姉・兄	どのような勉強のしかたをすればいいか。
	妹・弟	勉強を教えてもらいたい。
	妹・弟	勉強。
	妹・弟	わからないところをおしえてほしい。
	妹・弟	勉強。
	妹・弟	勉強をして技術を学ぶことが必要だと思う。
	妹・弟	勉強。
金銭的支援	母親	支援金が欲しい。
	母親	必要なことは育てるためのお金。
	妹・弟	お金を寄付してほしい。
	妹・弟	お金の支援。
	妹・弟	お金。
	妹・弟	幼いのがたくさんいるから支援金がほしい。
子どもの相手	妹・弟	しっかり見守る。
	妹・弟	目を離さずに見ること。
	妹・弟	怪我をさせないように見守っていることが必要。
	妹・弟	どこかに行ったり、危ないものを触ったりするとだめだから、見ていることが必要。
	妹・弟	言葉を覚えるためにたくさん本を読んであげる。
助け合い	父親	たすけあいをしたほうがいいと思います。
	祖母	助け合う。
	妹・弟	家族を助ける。
	妹・弟	家族と協力する事。

内容	お世話の相手	自由記述コメント
その他	複数	習慣づける。
	複数	諦めないで頑張る。
	複数	環境の改革。
	母親	お世話を頑張る。
	祖母	それに必要な買い物をしてほしい。
	祖母	皆が幸せでいられますように。
	祖母	家族に対する感謝をするべきだとかんがえる。
	姉・兄	しっかりしてほしい。
	姉・兄	環境を綺麗にしてほしい。
	妹・弟	親にけんかしないで仲良くしてほしい、でも離婚はしないでほしい。学校の人にしてもらいたいことは特にない。
	妹・弟	大丈夫です。
	妹・弟	お母さんのお世話をしている。
	妹・弟	お世話をしている子供の事も考えてあげてほしいと思う。だけど、大人も忙しいと思うからあんまり無理はしないでほしい。
	妹・弟	妹や弟に優しく接する。
	妹・弟	気持ちが大切。
	妹・弟	服がほしい。旅行したい。
	妹・弟	しっかり日本語を教える。
	妹・弟	わたしは小3のちょっとわがままな弟を見ているだけだから悩んでいないけれど、年齢が上がるに連れ、介護しなくてはならない人が増える人もいるかと思うのでたまにこういうアンケートを取ると良いと思う。
	妹・弟	家の近くで騒がないでほしい。
	妹・弟	子供を生んだったらしっかり責任感を持って、娘に任せず自分たちで世話をしてほしい。
	妹・弟	お世話してもらっている子に少し自分でやらせてみる。
	妹・弟	妹と遊んだりするときは妹の意見を優先的に考える。どんなことをしたいかを聞いて楽しく遊ぶ。何でも褒めてあげる事が大事だと思う。
	妹・弟	お世話をする上で大切なことを教えてほしい。
妹・弟	毎回、「小さいから仕方がない」ですまされること。	
妹・弟	負担のかからないように平等に世話をする。	
妹・弟	家事を自分でできるようになるために慣れさせるほうがいい。	
妹・弟	優しさ、ありのままの自分。	
妹・弟	弟と、喧嘩したりすることがあるから、もっと、仲良くしたい。	

中学 2 年生

内容	お世話の相手	自由記述コメント
相談・話を聞く	母親	理解してほしい。
	母親	誰かが真摯に話を聞いてあげたり、居場所をつくってあげる。
	祖母	支援をしてあげたり、相談できるような環境を作ってあげる。
	祖母	相談に乗って欲しい。耳を傾けてほしい。
	祖父	もし困っているヤングケアラーがいるのなら手を差し伸べられるなにかのきっかけがほしい。気軽に相談できる環境作り。
	祖父	お世話をしている子の話を大人が聞けば良いと思う。
	祖父	その人なりに悩みがある人もいると思うので、話に乗ってもらいたい。
	妹・弟	自由な時間。大変さを分かってほしい。話を真剣に聞いて欲しい。
	妹・弟	とにかく、困っていることがないか相談にのるべきだと思う。
	妹・弟	相談に乗ってあげる。
	妹・弟	相談相手を作る。
	妹・弟	話すこと。
	妹・弟	真摯に相談に乗る。
	妹・弟	必要だと思うこと：報酬。 してもらいたいこと：僕とお話（勉強のこと、家庭のこと、好きなことの話など）。
	その他	お世話をして辛いや気持ちがあるならちゃんと相談した方がいいと思う。学校の先生は困ってる人がいても見てみぬふりをする人がいる。
時間・息抜き	複数	ストレス解消法が必要。
	祖母	ひとりの時間を少なくともあげる。
	妹・弟	自分の時間が取れるように、特定の人だけにしないようにする。
	妹・弟	お世話を必要としているだけでなく、お世話している人にも自由な時間を与えてほしい。
	妹・弟	時間。
	妹・弟	睡眠時間を確保してあげたい。勉強する時間を確保してあげたい。友達と一緒にいる時間を長くさせてあげたい。
	妹・弟	自分の時間を作る。
	妹・弟	抱え込まないこと。同じ悩みをもつ人と交流して話すこと。
	妹・弟	仕事の時間。
	妹・弟	自分の時間もしっかりとること。
	妹・弟	みんなでいれる時間を増やしたい。
	妹・弟	自分の時間を増やしてほしい。
妹・弟	イライラしないで。	

内容	お世話の相手	自由記述コメント
サポート・支援	複数	大きな出来事があったら手伝ってほしいです。
	母親	自分が出来ること進んでお世話をしてもらいたい。
	母親	ボランティアとして自分の力も少しはかしてあげたい。
	姉・兄	その子や、その家族に援助をしてあげること。
	妹・弟	そのような子供のこともっと積極的に支援し、自由な時間を与える。
	妹・弟	ママに支援してほしい。
	妹・弟	手伝い。
	妹・弟	できる事全部。
助け合い	複数	毎日手伝いをする。
	姉・兄	手伝いをするのは当たり前。
	妹・弟	皆が手伝いをして誰もが安心安全に過ごせるようにしてほしい。
	妹・弟	お世話は家族でやる。一人に任せない。助け合う。
	妹・弟	家族のお世話は大変だから協力しあいたい。
	妹・弟	自分ももっとお手伝いする。
	妹・弟	一人にお世話の責任を負わず、お世話を分担する。
金銭的支援	母親	金がほしい。
	父親	お金が足りない。家で苦労してるのに学校でも苦労しなきゃいけない。心を休めることができる場所がない。
	妹・弟	経済的な支援。
	妹・弟	お金が欲しい。
	妹・弟	金。
	その他	キャットフードを分けてほしい。
周囲の働きかけ	母親	挨拶。
	祖母	周りの人がその人の現状を知ること。解決方法を教えること。
	妹・弟	いろんな人達がいることを分かってもらう。
	妹・弟	近所の人などが声をかけてもらうと気持ちが楽になると思います。
	妹・弟	家の状況も理解してもらう。
優しさ	祖母	親切に接する。
	姉・兄	優しく見守ってほしい。
	妹・弟	お世話をしていて大変になっていることを周りにいる人々が理解をして、接してあげることが必要だと思います。
	妹・弟	優しくしてください。
	その他	優しくしてねー。
勉強サポート	祖父	学習のサポート。

内容	お世話の相手	自由記述コメント
その他	複数	ゴミ拾い。
	複数	がんばる。
	複数	イライラしてもお世話しているときは我慢する。
	母親	ご飯。
	祖母	なんのお世話を頼んでほしいのかを聞いてから行動すること。そうしないとただのおせっかいになってしまうから。
	祖母	思いやり。
	祖母	お世話に必要な知識。
	祖母	いない。
	祖母	大人もう少し態度を良くしてほしい。
	祖父	褒める。
	祖父	一緒にいる。
	妹・弟	成績に数字をつけないでほしい。
	妹・弟	優しくすること。
	妹・弟	愛情そそぐ。
	妹・弟	親切に大切にすること。
	妹・弟	子供の言葉づかいを直してほしい。
	妹・弟	みんながみんなお世話をするのが嫌だと決めつけなくてほしい。
	妹・弟	笑顔。
	妹・弟	周りを見る。
	妹・弟	見守ること。
妹・弟	気を使う。	
その他	がんばる。	

高校2年生

内容	お世話の相手	自由記述コメント
サポート・支援	祖母	自分は仕事で大変だから手伝わなくても大丈夫とか思わないでほしい。
	祖母	介護の人をもっと増やす。
	祖父	無理のない程度でやる必要がある。家族でもやる人が2人しかいないので親戚とかでもいいから手伝って欲しい。
	妹・弟	誰かが面倒を見てあげる。
	妹・弟	お世話をしている子どもが辛いとか嫌など思っているならば、子どもがお世話をしなくてもいいような制度をつくる。身近に相談できるような環境をつくる。
	その他	お互いにストレスなく過ごせるように、家族で話し合ったり、家族以外の人たちに頼ることが出来れば良いと思います。頼ることを決めた時に頼ることのできる、さまざまな形の仕組みがあると助かると思います。
金銭的支援	祖母	カネ。
	祖父	支援金を出してほしい。適切な対処をしてほしい。
	姉・兄	経済的支援金を見直してほしい。デイサービスの数を増やしてほしい。特別支援学校の卒業後の就職支援。
時間・息抜き	母親	子供の時間を縛らないで欲しい。
	姉・兄	早く家に帰らせてください。先生の雑談で私の無いに等しい時間がどんどん無くなってストレスを感じています。それに、早くバイトにも行かなくていいしやめてほしいです。
	妹・弟	美味しいご飯。自由な時間。
相談・話を聞く	祖父	男だから女だからといった理由に関係なくまず話を聞く。話の途中で割り込まない。子供にも影響すると思うので特に大人が意識するべきだと思う。
その他	母親	相手を思う気持ち。
	妹・弟	なんと言ったらいいかわからない。
	妹・弟	執拗に話を聞いてこないでほしい。
	妹・弟	部活の練習量。

大学3年生(現在)

内容	お世話の相手	自由記述コメント
周囲の理解	複数	ヤングケアラーの精神面や時間面に関する悩みを知って欲しい。
	祖父	忘れ物や授業中寝てしまう事があるかもしれないが理解して欲しい。
	妹・弟	お世話をしている子どもがいるということを教員が把握し、配慮すること。お世話をしていることで自分を犠牲にしている人もいるかもしれないので、そんな人たちが心の拠り所にできるような場所を作ること。それは堂々とではなく知らなければならない人だけが知れるような配慮をして。
金銭的支援	祖母	金銭的な支援が何より大事だと思います。
	祖母	アルバイトもあるので、金銭的な支援が欲しい。
家族の手伝い	父親	定時に帰ってこないから母が全部、家族が一部やらないといけない。男だろうが女だろうが定時に帰る環境がないと子どもが犠牲になる。やらない本人も悪いが。
相談・話を聞く	祖父	困っていることがあったら、すぐに相談する。

大学3年生(過去)

内容	お世話の相手	自由記述コメント
時間・息抜き	父親	精神的余裕。自分の時間。頼れる人、機関。
相談・話を聞く	妹・弟	相談相手、自分に使う時間を優先すること、どんな気持ちでお世話をしているのか知ってもらおうこと。

3.6 ヤングケアラーの認知度・知ったきっかけ

Q：あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

↓
「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に対して

Q：「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまるものすべて)

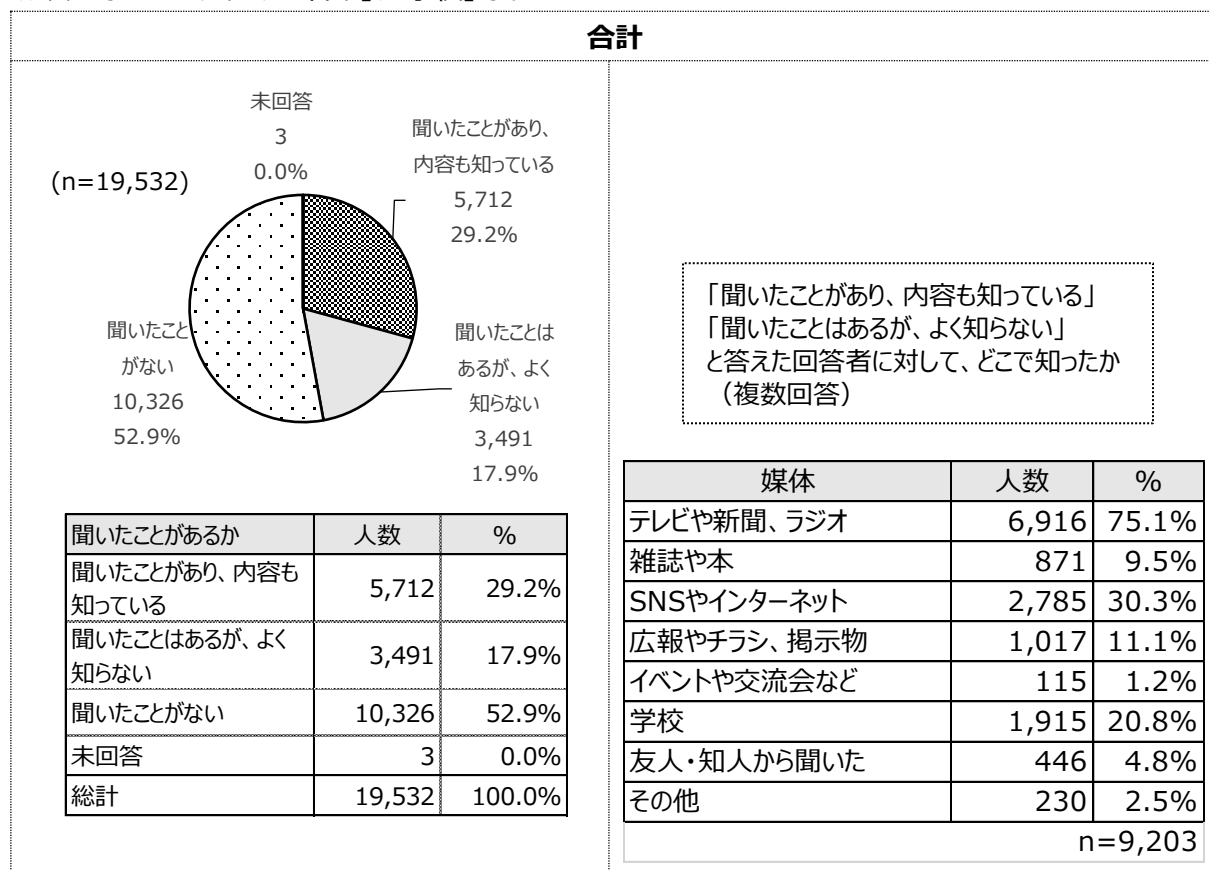
「ヤングケアラー」という言葉の認知度については、「**聞いたことがない**」が 52.9%、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.2%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が 17.9%であった。

学校種別では、小学 6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生では「**聞いたことがない**」が最も高く、小学 6 年生は 60.9%、中学 2 年生は 52.6%、高校 2 年生は 46.5%であった。

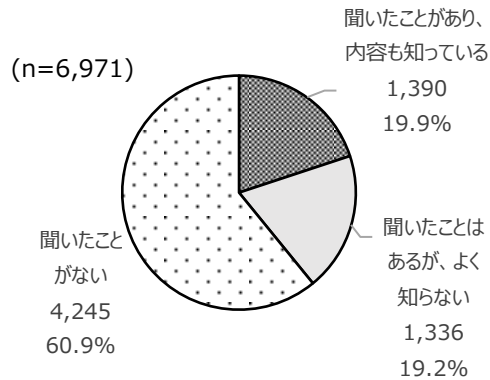
大学 3 年生では「**聞いたことがあり、内容も知っている**」が最も高く、62.5%であった。

回答者の年齢が上がるにつれて、「聞いたことがあり、内容も知っている」という割合が高くなっていった。

「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったかについて聞いたところ、すべての学校種別で、「**テレビや新聞、ラジオ**」が 6～8 割と最も高く、次いで「SNS やインターネット」、「学校」であった。



小学6年生

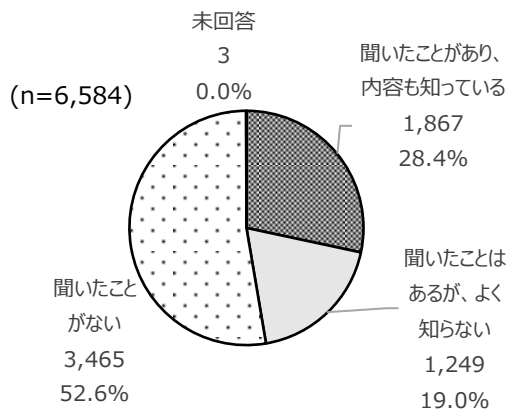


聞いたことがあるか	人数	%
聞いたことがあり、内容も知っている	1,390	19.9%
聞いたことはあるが、よく知らない	1,336	19.2%
聞いたことがない	4,245	60.9%
総計	6,971	100.0%

「聞いたことがあり、内容も知っている」
「聞いたことはあるが、よく知らない」
と答えた回答者に対して、どこで知ったか
(複数回答)

媒体	人数	%
テレビや新聞、ラジオ	2,165	79.4%
ざっしや本	239	8.8%
SNSやインターネット	627	23.0%
お知らせやチラシ、ポスター	296	10.9%
イベントや交流会など	27	1.0%
学校	329	12.1%
友人・知人から聞いた	165	6.1%
その他	96	3.5%
n=2,726		

中学2年生



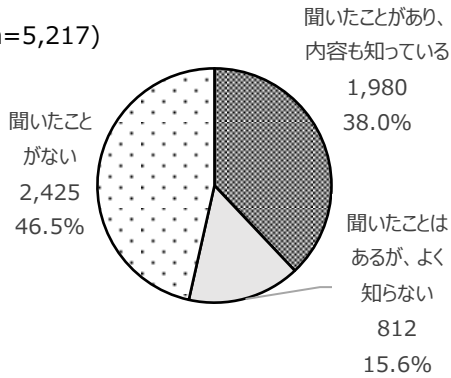
聞いたことがあるか	人数	%
聞いたことがあり、内容も知っている	1,867	28.4%
聞いたことはあるが、よく知らない	1,249	19.0%
聞いたことがない	3,465	52.6%
未回答	3	0.0%
総計	6,584	100.0%

「聞いたことがあり、内容も知っている」
「聞いたことはあるが、よく知らない」
と答えた回答者に対して、どこで知ったか
(複数回答)

媒体	人数	%
テレビや新聞、ラジオ	2,440	78.3%
雑誌や本	330	10.6%
SNSやインターネット	1,017	32.6%
広報やチラシ、掲示物	462	14.8%
イベントや交流会など	33	1.1%
学校	508	16.3%
友人・知人から聞いた	131	4.2%
その他	91	2.9%
n=3,116		

高校2年生

(n=5,217)

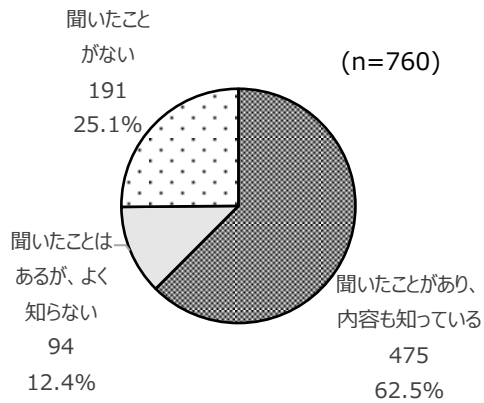


聞いたことがあるか	人数	%
聞いたことがあり、内容も知っている	1,980	38.0%
聞いたことはあるが、よく知らない	812	15.6%
聞いたことがない	2,425	46.5%
総計	5,217	100.0%

「聞いたことがあり、内容も知っている」
「聞いたことはあるが、よく知らない」
と答えた回答者に対して、どこで知ったか
(複数回答)

媒体	人数	%
テレビや新聞、ラジオ	1,935	69.3%
雑誌や本	228	8.2%
SNSやインターネット	904	32.4%
広報やチラシ、掲示物	233	8.3%
イベントや交流会など	45	1.6%
学校	850	30.4%
友人・知人から聞いた	126	4.5%
その他	37	1.3%
		n=2,792

大学3年生



聞いたことがあるか	人数	%
聞いたことがあり、内容も知っている	475	62.5%
聞いたことはあるが、よく知らない	94	12.4%
聞いたことがない	191	25.1%
総計	760	100.0%

「聞いたことがあり、内容も知っている」
「聞いたことはあるが、よく知らない」
と答えた回答者に対して、どこで知ったか
(複数回答)

媒体	人数	%
テレビや新聞、ラジオ	376	66.1%
雑誌や本	74	13.0%
SNSやインターネット	237	41.7%
広報やチラシ、掲示物	26	4.6%
イベントや交流会など	10	1.8%
学校	228	40.1%
友人・知人から聞いた	24	4.2%
その他	6	1.1%
		n=569

3.7 追加調査 クロス集計

本セクションでは、下記の項目について記載する。

3.7.1 相談経験 × お世話の大変さ

3.7.2 相談していない理由 × お世話の大変さ

3.7.3 お世話をしている理由 × お世話の大変さ

3.7.4 支援の要望 × お世話の大変さ

3.7.1 相談経験 × お世話の大変さ

相談経験 (P.93 参照) × お世話の大変さ (P.78 参照) (クロス集計)

相談経験については、お世話の「大変さを感じる」「特に大変さを感じていない」のグループいずれも、小学6年生、中学2年生、高校2年生で「ある」よりも「ない」と回答した割合が高かった。

また、相談経験が「ある」と回答した割合は、小学6年生、中学2年生、高校2年生では、「大変さを感じる」グループが「特に大変さを感じていない」グループよりも高かった。

一方で、大変さを感じながらも、相談経験が「ない」と回答する割合が、小学6年生、中学2年生、高校2年生で6～7割であった。

小学6年生

		お世話の大変さ					
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない		総計	
		人数	%	人数	%	人数	%
相談 経験	ある	48	28.1%	32	13.5%	80	19.6%
	ない	123	71.9%	205	86.5%	328	80.4%
	総計	171	100.0%	237	100.0%	408	100.0%

中学2年生

		お世話の大変さ					
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない		総計	
		人数	%	人数	%	人数	%
相談 経験	ある	31	25.6%	34	16.2%	65	19.6%
	ない	90	74.4%	175	83.3%	265	80.1%
	未回答	0	0.0%	1	0.5%	1	0.3%
	総計	121	100.0%	210	100.0%	331	100.0%

高校2年生

		お世話の大変さ					
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない		総計	
		人数	%	人数	%	人数	%
相談 経験	ある	23	36.5%	11	10.0%	34	19.7%
	ない	40	63.5%	99	90.0%	139	80.3%
	総計	63	100.0%	110	100.0%	173	100.0%

大学3年生

		お世話の大変さ					
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない		総計	
		人数	%	人数	%	人数	%
相談 経験	ある	4	36.4%	4	50.0%	8	42.1%
	ない	7	63.6%	4	50.0%	11	57.9%
	総計	11	100.0%	8	100.0%	19	100.0%

3.7.2 相談していない理由 × お世話の大変さ

相談していない理由 (P.98 参照) × お世話の大変さ (P.78 参照) (クロス集計)

相談していない理由については、「特に大変さを感じていない」グループでは、「相談するほどの悩みではないと自分が思うから」が最も高く、小学6年生では71.2%、中学2年生では81.7%、高校2年生では77.8%であった。また、「大変さを感じる」グループよりも、その割合が高かった。

また、それ以外では、すべての学校種別で、「その他」を除くすべての項目で「大変さを感じている」グループの回答の割合が「特に大変さを感じていない」グループの回答の割合を上回った。

「大変さを感じる」と回答したグループでは、「特に大変さを感じていない」グループよりも、相談に至っていない様子がうかがえる。

小学6年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
相談していない理由 (複数回答)	相談するほどのなやみではないと自分が思うから	69	56.1%	146	71.2%
	周りの人たちにとっては大変ななやみではないと思うから	32	26.0%	20	9.8%
	だれに相談するのがよいかわからないから	19	15.4%	9	4.4%
	相談できる人がいないから	9	7.3%	2	1.0%
	家族のことを話したくないから	13	10.6%	6	2.9%
	相談しても何も変わらないから	28	22.8%	22	10.7%
	その他	7	5.7%	29	14.1%
		n=123		n=205	

中学2年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
相談していない理由 (複数回答)	相談するほどの悩みではないと自分が思うから	53	58.9%	143	81.7%
	周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	30	33.3%	19	10.9%
	家族外の人に相談するような悩みではないから	24	26.7%	23	13.1%
	誰に相談するのがよいかわからないから	16	17.8%	11	6.3%
	相談できる人が身近にいないから	9	10.0%	3	1.7%
	家族のここのため話しにくいから	17	18.9%	8	4.6%
	家族のことを知られたくないから	17	18.9%	6	3.4%
	家族に対して偏見を持たれたくないから	11	12.2%	10	5.7%
	相談しても状況が変わるとは思えないから	23	25.6%	11	6.3%
	その他	7	7.8%	18	10.3%
		n=90		n=175	

高校2年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
(複数回答)	相談するほどの悩みではないと自分が思うから	31	77.5%	77	77.8%
	周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	7	17.5%	4	4.0%
	家族外の人に相談するような悩みではないから	5	12.5%	10	10.1%
	誰に相談するのがよいかわからないから	4	10.0%	1	1.0%
	相談できる人が身近にいないから	1	2.5%	0	0.0%
	家族のここのため話にくいから	4	10.0%	0	0.0%
	家族のことを知られたくないから	3	7.5%	1	1.0%
	家族に対して偏見を持たれたくないから	5	12.5%	2	2.0%
	相談しても状況が変わるとは思えないから	10	25.0%	4	4.0%
	その他	4	10.0%	13	13.1%
		n=40		n=99	

大学3年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
(複数回答)	相談するほどの悩みではないと自分が思うから	2	28.6%	2	50.0%
	周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	2	28.6%	0	0.0%
	家族外の人に相談するような悩みではないから	1	14.3%	0	0.0%
	誰に相談するのがよいかわからないから	2	28.6%	0	0.0%
	相談できる人が身近にいないから	1	14.3%	0	0.0%
	家族のここのため話にくいから	2	28.6%	0	0.0%
	家族のことを知られたくないから	1	14.3%	0	0.0%
	家族に対して偏見を持たれたくないから	1	14.3%	0	0.0%
	相談しても状況が変わるとは思えないから	2	28.6%	0	0.0%
	その他	1	14.3%	2	50.0%
		n=7		n=4	

3.7.3 お世話をしている理由 × お世話の大変さ

お世話をしている理由 (P.90 参照) × お世話の大変さ (P.78 参照) (クロス集計)

お世話をしている理由について、「大変さを感じる」グループと「特に大変さを感じていない」グループで比較すると、「自分がお世話をしたいと思うため」「わからない・考えたことがない」は、「特に大変さを感じていない」グループの割合が「大変さを感じる」グループの割合よりも高かった。

一方で、「自分がお世話をしないと家族が困るため」「ほかにお世話をできる人がいないため」「ほかの家族や親せき等からお世話をするよう言われているため」は、「大変さを感じる」グループの割合が「特に大変さを感じない」とグループの割合よりも高かった。

このことから、大変さを感じるヤングケアラーは、やむを得ない理由でお世話をしている状況であることが多いと考えられる。

また、「大変さを感じる」グループには、「自分がお世話をしたいと思うため」お世話をしている割合が、すべての学校種別で2割以上いることから、自ら進んでお世話をしている場合であっても、負担を感じていることが推察される。

小学6年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
お世話をしている理由 (複数回答)	自分がお世話をしたいと思うため	59	34.5%	108	45.6%
	自分がお世話をしないと家族がこまるため	109	63.7%	79	33.3%
	ほかにお世話をできる人がいないため	19	11.1%	9	3.8%
	ほかの家族や親せきなどからお世話をするよう言われているため	30	17.5%	22	9.3%
	わからない・考えたことがない	22	12.9%	60	25.3%
	その他	8	4.7%	14	5.9%
		n=171		n=237	

中学2年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
お世話をしている理由 (複数回答)	自分がお世話をしたいと思うため	29	24.0%	85	40.5%
	自分がお世話をしないと家族が困るため	76	62.8%	87	41.4%
	ほかにお世話をできる人がいないため	20	16.5%	11	5.2%
	ほかの家族や親せき等からお世話をするよう言われているため	27	22.3%	27	12.9%
	わからない・考えたことがない	14	11.6%	52	24.8%
	その他	6	5.0%	10	4.8%
		n=121		n=210	

高校2年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
お世話をしている理由 (複数回答)	自分がお世話をしたいと思うため	15	23.8%	51	46.4%
	自分がお世話をしないと家族が困るため	35	55.6%	38	34.5%
	ほかにお世話をできる人がいないため	12	19.0%	12	10.9%
	ほかの家族や親せき等からお世話をしよう言われているため	14	22.2%	16	14.5%
	わからない・考えたことがない	8	12.7%	23	20.9%
	その他	1	1.6%	2	1.8%
		n=63		n=110	

大学3年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
お世話をしている理由 (複数回答)	自分がお世話をしたいと思うため	3	27.3%	3	37.5%
	自分がお世話をしないと家族が困るため	6	54.5%	1	12.5%
	ほかにお世話をできる人がいないため	4	36.4%	1	12.5%
	ほかの家族や親せき等からお世話をしよう言われているため	2	18.2%	1	12.5%
	わからない・考えたことがない	1	9.1%	3	37.5%
	その他	1	9.1%	0	0.0%
		n=11		n=8	

3.7.4 支援の要望 × お世話の大変さ

支援の要望 (P.101 参照) × お世話の大変さ (P.78 参照) (クロス集計)

支援の要望については、「特にない」を除いて、「大変さを感じる」グループが、「特に大変さを感じていない」グループよりもすべての項目において高かった。

要望の内容については、「大変さを感じている」、「特に大変さを感じていない」いずれも、小学6年生では、「勉強を教えてほしい」、「自分のことについて話を聞いてほしい」、「時間を自由に使えるようにしてほしい」が高く、中学2年生でも、概ね同様の項目が高かった。

高校2年生では、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」よりも、「家庭への経済的な支援をしてほしい」の割合が高かった。

小学6年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
支援の要望 (複数回答)	自分のことについて話を聞いてほしい	38	22.2%	30	12.7%
	家族のお世話について相談にのってほしい	15	8.8%	3	1.3%
	家族の病気やしょうがい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	3	1.8%	3	1.3%
	自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)だれかに代わってほしい	11	6.4%	1	0.4%
	時間を自由に使えるようにしてほしい	37	21.6%	21	8.9%
	勉強を教えてほしい	44	25.7%	26	11.0%
	お金の面でしえんしてほしい	10	5.8%	7	3.0%
	わからない	13	7.6%	17	7.2%
	その他	3	1.8%	2	0.8%
	特にない	69	40.4%	160	67.5%
		n=171		n=237	

中学2年生		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
支援の要望 (複数回答)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	27	22.3%	18	8.6%
	家族のお世話について相談にのってほしい	6	5.0%	4	1.9%
	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	6	5.0%	7	3.3%
	自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	5	4.1%	3	1.4%
	時間を自由に使えるようにしてほしい	29	24.0%	23	11.0%
	進路や就職など将来の相談にのってほしい	17	14.0%	23	11.0%
	学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	25	20.7%	29	13.8%
	家庭への経済的な支援をしてほしい	19	15.7%	10	4.8%
	わからない	10	8.3%	16	7.6%
	その他	5	4.1%	3	1.4%
特にない	45	37.2%	128	61.0%	
		n=121		n=210	

高校2年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
支援の要望 (複数回答)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	5	7.9%	7	6.4%
	家族のお世話について相談にのってほしい	3	4.8%	0	0.0%
	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	4	6.3%	1	0.9%
	自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	2	3.2%	1	0.9%
	時間を自由に使えるようにしてほしい	12	19.0%	11	10.0%
	進路や就職など将来の相談にのってほしい	12	19.0%	14	12.7%
	学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	6	9.5%	10	9.1%
	家庭への経済的な支援をしてほしい	7	11.1%	2	1.8%
	わからない	5	7.9%	9	8.2%
	その他	1	1.6%	3	2.7%
	特にない	31	49.2%	70	63.6%

n=63

n=110

大学3年生

		お世話の大変さ			
		大変さを感じる		特に大変さを感じていない	
		人数	%	人数	%
支援の要望 (複数回答)	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	2	18.2%	1	12.5%
	家族のお世話について相談にのってほしい	3	27.3%	0	0.0%
	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	1	9.1%	0	0.0%
	自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	1	9.1%	0	0.0%
	時間を自由に使えるようにしてほしい	0	0.0%	1	12.5%
	進路や就職など将来の相談にのってほしい	0	0.0%	0	0.0%
	大学の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	1	9.1%	1	12.5%
	家庭への経済的な支援をしてほしい	4	36.4%	1	12.5%
	わからない	1	9.1%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	1	12.5%
	特にない	1	9.1%	6	75.0%

n=11

n=8

4 まとめと考察

本調査結果から青森県でのヤングケアラー支援の方向性と対策について考察する。

4.1 グループ毎の支援の方向性

4.1.1 孤独ケアラー

4.1.2 メインケアラー

4.1.3 サブケアラー

4.1.4 孤独ケアラー＋メインケアラー

4.2 お世話の大変さの有無によるヤングケアラーの比較

4.3 ヤングケアラー全体の支援の方向性

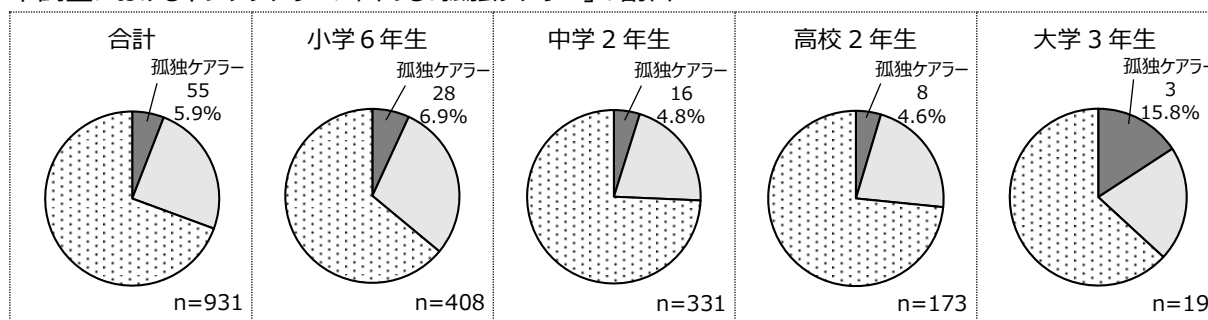
4.1 グループ毎の支援の方向性

本調査では、ヤングケアラーの実態を把握するため、担っている役割や一緒にお世話をしている家族によって、孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラーの3つのグループに分類した。

調査の結果、明らかになったグループ毎の特徴と支援の方向性について考察する。

4.1.1 孤独ケアラー

本調査におけるヤングケアラーに占める「孤独ケアラー」の割合



調査結果

◆孤独ケアラーの割合、人数 (P.53～P.55 参照)

孤独ケアラーは、ヤングケアラーの3つの分類（孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラー）の中で最も割合が低く、小学6年生では6.9%、中学2年生は4.8%、高校2年生は4.6%、大学3年生は15.8%であった。

学校種別毎の有効回答数に占める割合は小学6年生で0.4%（28/6,971人）、中学2年生で0.2%（16/6,584人）、高校2年生で0.2%（8/5,217人）、大学3年生で0.4%（3/760人）であった。

◆お世話が必要な人 (P.57 参照)

孤独ケアラーがお世話をしている人（お世話が必要な人）は、小学6年生では、「母親」（11人）が最も多く、次いで「妹・弟」（9人）であった。中学2年生では、「母親」（5人）が最も多く、次いで「妹・弟」（4人）であった。高校2年生では、「母親」「妹・弟」（それぞれ3人）が最も多かった。

◆お世話の頻度 (P.74～P.75 参照)

孤独ケアラーのお世話の頻度は、小学6年生では「週に1～2日」が32.1%で最も高かったが、次いで「ほぼ毎日」が高く、28.6%であった。また、中学2年生、高校2年生では、「ほぼ毎日」が最も高く、中学2年生は62.5%、高校2年生は50.0%であった。

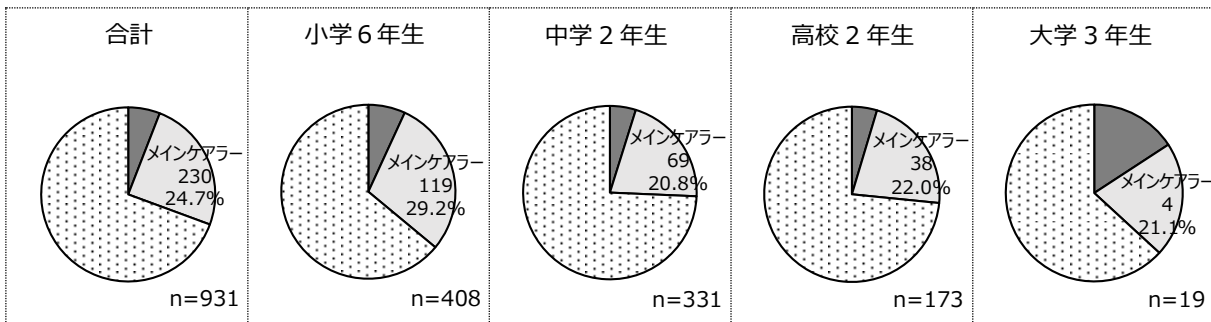
	<p>◆お世話の時間 (P.76～P.77 参照)</p> <p>孤独ケアラーのお世話の時間は、小学6年生は「1時間より少ない」(46.4%)、中学2年生は「2時間」(31.3%)、高校2年生は「1時間より少ない」(37.5%)が最も高かった。</p> <p>「6時間以上」という回答が、小学6年生で2人(7.1%)、中学2年生で4人(25.0%)、高校生で1人(12.5%)であった。</p> <p>◆お世話の大変さ (P.78～P.81 参照)</p> <p>グループ別にみると、孤独ケアラーのうち、お世話をしていることに大変さを感じている割合は、4割～6割であった。</p>
--	--

<p>考察</p>	<p>有効回答数に占める孤独ケアラーの割合は全学校種別で0.4%以下であり、また、3つのグループのなかで、最も割合が少なかった。</p> <p>各学校種別で3名～28名という人数であったため、本調査結果の数値からは孤独ケアラーの傾向をとらえることが困難だった。</p> <p>しかしながら、家庭内で家族と一緒にではなく、子どもが中心的に一人でお世話をしていることから、他に分類されるケアラーと比較しても、負担が大きく、困りごとを抱えているのではないかと考えられる。</p> <p>従って、周りの大人が、遅刻、成績の低下、授業中の居眠り、ストレスを感じていることに起因する行動や表情など子どもの様子を注意して見て、声をかけ、必要な支援につなげていくことが重要であるが、行動や表情に表れにくい子どもがいることについても、注意が必要である。</p> <p>また、一人で世話をしていることに鑑みると、個々の生活状況や困りごとに応じて、カスタマイズされた個別支援を行うことが必要である。</p>
-----------	--

<p>支援の方向性</p>	<p>○教職員や子どもの周りにいる大人・関連団体に対して、国の先行調査及び本調査の結果をもとに、ヤングケアラーに関する理解を深める研修会等を行うことにより、自ら相談したり、支援を求めることができないケアラーの早期発見につなげる。</p> <p>○孤独ケアラーは、家庭内で唯一お世話を担っており、家族間の調整や外部の支援機関の利用を検討することも本人の負担の軽減につながる。孤独ケアラーを把握した際には、家族の背景や本人が抱える事情を十分に聞きながら、支援につなげる必要がある。</p>
---------------	--

4.1.2 メインケアラー

本調査におけるヤングケアラーに占める「メインケアラー」の割合



調査結果

◆メインケアラーの割合、人数 (P.53～P.55 参照)

メインケアラーは、ヤングケアラーの3つの分類（孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラー）の中でサブケアラーの次に割合が高く、小学6年生は29.2%、中学2年生は20.8%、高校2年生は22.0%、大学3年生は21.1%であった。

学校種別毎の有効回答数に占める割合は小学6年生で1.7%（119/6,971人）、中学2年生で1.0%（69/6,584人）、高校2年生で0.7%（38/5,217人）、大学3年生で0.5%（4/760人）であった。

◆お世話が必要な人 (P.57 参照)

メインケアラーがお世話をしている人（お世話が必要な人）は、「妹・弟」が最も多く、小学6年生では74人、中学2年生では42人、高校2年生では17人となっていた。次いで「母親」となっており、小学6年生では30人、中学2年生では15人、高校2年生では10人であった。

◆お世話の頻度 (P.74～P.75 参照)

メインケアラーのお世話の頻度は、「ほぼ毎日」が最も高く、小学6年生では59.7%、中学2年生では66.7%、高校2年生では68.4%であった。また、孤独ケアラーやサブケアラーと比較しても、「ほぼ毎日」の割合が高かった。

◆お世話の時間 (P.76～P.77 参照)

メインケアラーのお世話の時間は、小学6年生は「2時間」（23.5%）、中学2年生は「1時間」（24.6%）、高校2年生は「1時間」「3時間」（23.7%）が最も高かった。

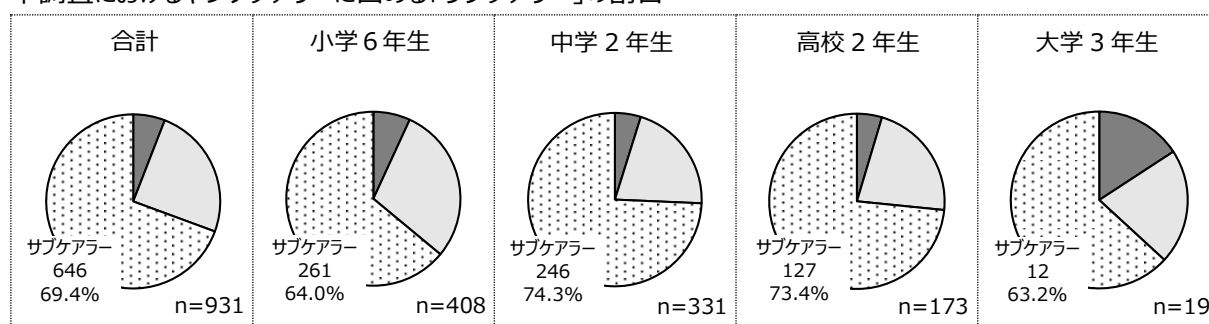
◆お世話の大変さ (P.78～P.81 参照)

小学6年生、中学2年生では、「精神的に大変」と感じており、高校2年生では、「時間的余裕がない」と感じていた。メインケアラーが大変さを感じている割合は、身体的・精神的・時間的のすべての面において、サブケアラーよりも高かったが、孤独ケアラーの回答数が少なかつたため、孤独ケアラーとの明確な違いを見出すことはできなかった。

<p>考察</p>	<p>メインケアラーは、サブケアラーと比較すると人数は少ないものの、家族と一緒に子どもが中心的にお世話をしており、本調査の結果からは、「ほぼ毎日」お世話をしている割合が高く、お世話の時間については、「1時間より少ない」から「6時間以上」まで広く分布していることがわかった。</p> <p>大変さを感じている割合がサブケアラーよりも多かったのは、メインケアラーの方がサブケアラーよりお世話の頻度も時間も多いために起因するものと考えられることから、お世話の頻度と時間を減らすことが負担の軽減につながるものと推察される。</p> <p>また、メインケアラーでは、「自分がお世話をしないと家族が困るため」にお世話をしていることが、精神的な負担や、困りごととしての「ストレスを感じる」につながっているものと推察される。お世話の頻度や時間を減らすことのほかに、精神的な負担を軽減するための取組も必要である。</p>
<p>支援の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが担っているお世話を代わりに担う既存の施策へ確実につなげる方策を検討する。 ○精神的に大変さを感じているメインケアラーに対しては、普段の様子や困りごとを聞き、精神的な負担を緩和することができる体制を整える。

4.1.3 サブケアラ

本調査におけるヤングケアラーに占める「サブケアラ」の割合



調査結果

◆サブケアラの割合、人数（P.53～P.55 参照）

サブケアラは、ヤングケアラーの3つの分類（孤独ケアラー、メインケアラー、サブケアラ）の中で最も割合が高く、小学6年生は64.0%、中学2年生は74.3%、高校2年生は73.4%、大学3年生は63.2%であった。

学校種別毎の有効回答数に占める割合は小学6年生で3.7%（261/6,971人）、中学2年生で3.7%（246/6,584人）、高校2年生で2.4%（127/5,217人）、大学3年生で1.6%（12/760人）であった。

◆お世話が必要な人（P.57 参照）

サブケアラがお世話をしている人（お世話が必要な人）は、「妹・弟」が最も多く、小学6年生では207人、中学2年生では178人、高校2年生では71人であった。

◆お世話の頻度（P.74～P.75 参照）

サブケアラのお世話の頻度は、「ほぼ毎日」が最も高く、小学6年生では50.2%、中学2年生では45.1%、高校2年生では38.6%であった。

しかしながら、メインケアラーに比較して、「ほぼ毎日」の割合は低く、「週に3～5日」と回答している割合が高かった。

◆お世話の時間（P.76～P.77 参照）

サブケアラのお世話の時間は、「1時間より少ない」が最も高く、小学6年生では31.0%、中学2年生では34.6%、高校2年生では44.9%であった。

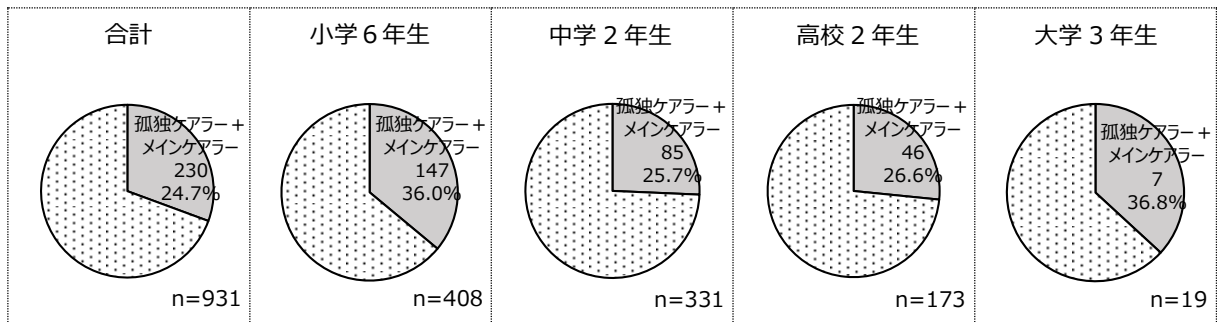
◆お世話の大変さ（P.78～P.81 参照）

グループ別にみると、サブケアラが大変さを感じている割合は、身体的・精神的・時間的のすべての面において、メインケアラーよりも低かった。

<p>考察</p>	<p>全ヤングケアラーに占める割合が最も多く、本県におけるヤングケアラーは半数以上がサブケアラーに該当するものである。</p> <p>大変さを感じている割合は、メインケアラーに比較して少ないが、約 3 割のサブケアラーはお世話をしていることに対して大変さを感じており、補助的なお世話であってもお世話を続けていることは子どもの負担につながっているものと考えられる。</p> <p>また、お世話をしている相手としては、「妹・弟」が最も多く、お世話の内容は、着替えの手伝いや送り迎え、食事のお世話、見守りなど、細切れにお世話を行っており、実際のお世話を他が代行することは困難であるケアが多いと推察される。</p> <p>そのため、お世話をしている時間としては、「1 時間より少ない」が多く、一見負担が軽いかのようと思われるが、日常のお世話の積み重ねによる影響を考える必要がある。</p>
<p>支援の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お世話の頻度は、週に 3 日以上～ほぼ毎日と幅広く、1 日あたりのお世話の時間は、1 時間より少ない層が最も多かった。また、サブケアラーの数も他に比較して多いことから、家庭内でのお世話を個別に代行する方法よりも、多くのサブケアラーに対して、同時に負担が軽減されるような支援方法を検討する必要がある。 ○支援者とお世話を共有することで、お世話の負担の頻度や時間を減らし、あわせて本人自身の困りごとの相談ができる体制を整えることにより、大変さを感じる割合も下がるのではないかと考える。

4.1.4 孤独ケアラー+メインケアラー

本調査におけるヤングケアラーに占める「孤独ケアラー+メインケアラー」の割合



調査結果

◆孤独ケアラー+メインケアラーの割合、人数 (P.53~P.55 参照)

孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、小学6年生は36.0%、中学2年生は25.7%、高校2年生は26.6%、大学3年生は36.8%であった。

学校種別毎の有効回答数に占める割合は小学6年生で2.1% (147/6,971人)、中学2年生で1.3% (85/6,584人)、高校2年生で0.9% (46/5,217人)、大学3年生で0.9% (7/760人)であった。

◆お世話の頻度 (P.74~P.75 参照)

孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が最も高く、小学6年生では53.7%、中学2年生では65.9%、高校2年生では65.2%であった。

◆お世話の時間 (P.76~P.77 参照)

孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、すべての学校種別で「6時間以上」の割合が、総計の割合を上回った。

◆お世話の大変さ (P.78~P.81 参照)

孤独ケアラーとメインケアラーの合計では、身体的・精神的・時間的のすべての面において、サブケアラーよりも割合が高かった。

<p>考察</p>	<p>全ヤングケアラーに占める割合は、3～4割であった。</p> <p>大変さを感じている割合は、身体的・精神的・時間的のすべての項目においてサブケアラーより高かった。</p> <p>また、お世話をしている頻度は「ほぼ毎日」が多く、お世話をしている時間は「6時間以上」の割合が総計の割合よりも高かった。</p> <p>これらのことから、日常的に長時間のお世話をしている結果、身体的・精神的・時間的のすべての面において大変さを感じているものと考えられる。</p>
<p>支援の 方向性</p>	<p>○該当するヤングケアラーを早期に発見するとともに、お世話の頻度・時間を軽減するための支援策を検討する必要がある。</p>

4.2 お世話の大変さの有無によるヤングケアラーの比較

さらに、本調査で抽出された 931 名のヤングケアラーを、お世話の「大変さを感じているグループ」と「大変さを感じていないグループ」に分けて回答を比較することで、必要な支援の方向性を探った。

調査結果	<p>大変さを感じているヤングケアラーは小学 6 年生で 41.9%、中学 2 年生で 36.6%、高校 2 年生で 36.4%であった。(P.78 参照)</p> <p>お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて、相談していない理由を、学校種別毎に大変さを感じているグループと感じていないグループにわけて比較したところ、最も多かったものはどちらも「相談するほどの悩みではないと自分が思うから」であった。</p> <p>しかしながら、大変さを感じているグループでは、「周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから」「相談しても状況が変わるとは思えないから」の割合が、大変さを感じていないグループに比較して高かった。(P.121 参照)</p> <p>また、大変さを感じているグループと感じていないグループのお世話をしている理由を比較すると、大変さを感じているグループでは「自分がお世話をしないと家族が困るため」が最も多く、大変さを感じていないグループでは「自分がお世話をしたいと思うため」が最も多かった(中学 2 年生については、「自分がお世話をしたいと思うため」と「自分がお世話をしないと家族が困るため」が同程度であった)。</p> <p>さらに、大変さを感じていないグループではお世話をしている理由として 20%以上が「分からない・考えたことがない」と回答した。(P.123 参照)</p>
------	--

考察

調査結果から、大変さを感じているのに相談をしていないヤングケアラーが相談しやすい環境を整えるためには、相談しづらい、自分の悩みを話しても理解してもらえないのではないか、といった心理的な障壁を解消し、相談しても何も変わらないのではないか、といった疑念を解消することが重要である。

本県において、誰に・どのように相談したらよいかを明確にしていく必要がある。

また、お世話が、自発的な理由によるものなのか、家族が困るためやむを得ずお世話をしているかによって、お世話の大変さの感じ方が異なっている。

これは、自発的にお世話をしている場合は、自らの生活や学業への影響、使用できる時間や体力などを考えたうえで、できる範囲でお世話をしている可能性があるのに対し、家族が困るためにやむを得ずお世話をしている場合は、自らが可能と考える範囲を超えて、過度な負担や責任を負いながらお世話をしている可能性があるからと考えられる。

また、家庭内においても、子どもの大変さが共有されておらず、子どもにお世話をしてもらっている状況である場合や、家庭内でお世話をできる体制が十分に整っていないために子どもがやむを得ずお世話を担っている場合、様々な理由により外部サービスを利用していない場合など、多くのケースが考えられるが、このような場合、ヤングケアラーへの支援と並行して、家族への支援を行う必要がある。ヤングケアラーの家族への支援を行うことが、結果としてヤングケアラーの支援になると考えられるからである。

さらに、大変さを感じていないグループであっても、お世話をしている理由とし、20%以上が「分からない・考えたことがない」と回答している。この回答を選んだヤングケアラーは、自分がお世話をしている理由について考えることがないまま、日常にお世話をしている状況になっていたものと考えられ、その結果、お世話の大変さを感じる事が少ないのではないかと推察される。

自らがヤングケアラーであることを自覚できる環境づくりをし、相談体制を整え、既存施策につなげていくことが必要である。

支援の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○相談体制の構築と周知 相談窓口を明確にし、どんなことでも気軽に相談できることを伝えていく。 ○具体の支援体制の構築 相談窓口が支援機関を紹介するなど、相談に対応できるように体制を整えていく。 ○関係機関との連携 市町村と調査結果を共有するとともに、市町村が実態把握に努め、実施している既存の施策と各家庭で利用されていないサービスをつなげ、家族への支援を進めていく。 ○ヤングケアラーに関する認知度向上 ヤングケアラーの認知度を高めることにより、自覚のないまま生活や学業などに影響を受けているヤングケアラーが自らの負担などを自覚し、支援策の利用につなげることにより、潜在化している負担の解消につなげる。
------------	--

4.3 ヤングケアラー全体の支援の方向性

◆早期発見から支援につなげるために

【まとめ①】

お世話の頻度についての総計では、すべての学校種別で「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっており、本県のヤングケアラーの半数以上が週に3日～毎日お世話をしていることが明らかになった。(P.74 参照)

また、大変さを感じているヤングケアラーが4割程度存在している。(P.78 参照)

お世話について相談した経験について、小学6年生、中学2年生、高校2年生の約8割が相談経験が「ない」と回答している。(P.93 参照)

相談していない理由については、「相談するほどの悩みではないと自分が思うから」、「周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから」、「家族外の人に相談するような悩みではないから」など様々である。(P.98～P.100 参照)

支援の要望は、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」のうち、希望する方法は「直接会って」が最も多い。(P.101～P.103 参照)

ヤングケアラーの半数以上が、週に3日以上お世話をしており、約4割が大変さを感じているにも関わらず、様々な理由により、周囲に相談することができていない。

また、「直接会って」、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」という要望もある。

そのため、子どもがどのようなことでも気軽に相談しやすい環境をつくる必要がある。



支援の方向性①：

子どもがどのようなことでも気軽に相談しやすい環境をつくる

具体例：

- ・ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの積極的な活用など、学校内の相談体制の充実。
- ・ 子どもが利用しやすい方法で、第三者に相談できる相談体制の構築。

【まとめ②】

お世話について相談した経験について、小学6年生、中学2年生、高校2年生の約8割が相談経験が「ない」と回答している。(P.93 参照)

「お世話が必要な人」のお世話が必要な理由について、「わからない」「答えたくない」という回答が一定程度あり(P.58 参照)、また、お世話をしている理由についても、孤独ケアラーとメインケアラーでは「わからない・考えたことがない」の割合が総計の割合を上回っている。(P.90 参照)

ヤングケアラーのなかには、自分の置かれた状況を把握し、自ら周囲に相談することが難しい子どももいる可能性がある。

よって、周りの大人が、普段から、遅刻、成績の低下、授業中の居眠り、ストレスが溜まっていることに起因する行動や表情の変化など、子どもの様子を注視し、自ら周囲に相談することが難しい子どもを含めたすべての子どもに対して、大人側から積極的に声をかけていくこと、気づいていくことがヤングケアラーの早期発見に向けて、重要であるといえる。

そのためには、教職員や周囲の大人がヤングケアラーを早期発見できるよう、国の先行調査や本調査で明らかになった、県内におけるヤングケアラーの割合、ヤングケアラーが抱える課題について理解を深める必要がある。



支援の方向性②：
積極的に大人がアプローチする仕組みを整える

具体例：

- ・ ヤングケアラーに関する周知・普及啓発。
- ・ 教職員や子どもの周囲の大人に向けた、ヤングケアラーに関する理解を深める研修会の開催。

◆家庭でのヤングケアラーの負担軽減支援

【まとめ③】

お世話に伴う困りごとは、すべての学校種別で、「ストレスを感じる」が1位であった。(P.83 参照)

また、お世話に伴う困りごとの2～5位の内容で、すべての学校種別に共通するものは以下のとおりであった。

- ・ 自分の時間が取れない
- ・ 宿題(大学3年生は課題・予習復習)や勉強をする時間がない
- ・ 睡眠が十分に取れない(大学3年生を除く)

お世話をしている理由としては「自分がお世話をしないと家族が困るため」という回答が最も多い。(P.90 参照)
支援の要望については、勉強に関連するもののほか、「話を聞いてほしい」と「時間を自由に使えるようにしてほしい」が多かった。(P.101～P.103 参照)

お世話に伴う困りごとの1位は「ストレスを感じる」であるが、2位から5位まで困りごとの中で、ヤングケアラーならではの特徴的なものとして「自分の時間が取れない」がある。

青森県のヤングケアラーに対する支援策として、お世話に伴う困りごとを改善するためには、話を聞いてあげるなどストレス解消に努めるとともに、ヤングケアラーが担っているお世話を代わりに担うことにより、ヤングケアラーが自由に時間を使えるようにすることが重要である。

そのため、子どものお世話の負担を軽減するための既存の施策へとつなげていく必要がある。



支援の方向性③：
既存の様々な施策に子どもや家庭をつなげていく

具体例：

- ・ ヤングケアラーに関する支援策や連絡先をまとめた一覧等を記載したリーフレット等の整備・普及。
- ・ 市町村等による福祉、介護、医療等、各関係機関につなげるための仕組みづくり。
- ・ 市町村等による介護サービスや障害福祉サービスの利用調整、ボランティア等による支援の紹介など、ヤングケアラー及びその家族のケアの軽減。
- ・ 市町村等による家事や家族のお世話をサポートするサービスの実施・拡充。

◆最後に：県内関連団体との連携によるヤングケアラーの課題解決について

今回、県内に居住する小学6年生、中学2年生、高校2年生、大学3年生に調査を行ったところ、回答者のなかに少なくない数があることが確認された。ヤングケアラーが存在することがわかったため、市町村や学校、既存の団体、様々な取組等（福祉団体、医療関係団体、福祉サービス事業者、児童館、学童保育、子ども食堂など）と連携し、できる限り速やかに上述したような支援体制を構築することが重要と考える。

5 調査票

小学6年生

学校と家庭生活についてのアンケート調査 (小学校6年生)

I. 基本情報

Q1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他	4. 答えたくない
------	------	--------	-----------

Q2. あなたが住んでいる市町村を記入してください。(漢字でもひらがなでもかまいません)

青森県 () 市 / 町 / 村	※例：青森県上北郡東北町 ⇒ 東北町 または とうほくまち
-------------------	-------------------------------

Q3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	2. まあよい	3. ふう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	-------	------------	---------

II. ふだんの生活について

Q4. あなたは学校を欠席したり、ちこくやそうたいをしたりすることがありますか。

①欠席について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする
②ちこくやそうたいについて	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

Q5. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業中にねてしまうことが多い	6. 修学旅行などの宿はく行事を欠席する
2. 宿題ができていないことが多い	7. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物のわすれ物が多い	8. 学校では一人で過ごすことが多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い	9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出物を出すのがおくれることが多い	10. 特にない

Q6. 部活動(学校外での活動をふくむ)や習い事をしていますか。

1. している	2. していない
---------	----------

Q7. あなたがなやんでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友達のこと	5. 生活や勉強に必要なお金のこと
2. 学校の成績のこと	6. 自分のために使える時間が少ないこと
3. 部活動や習い事のこと	7. その他 ()
4. 家族のこと	8. 特にない

↓ 1~7のどれかに○をつけた人にお聞きます

Q8. そのなやみについて、話を聞いてくれる人はいますか。

1. いる	2. いない	3. 話はしたくない
-------	--------	------------

Ⅲ. 家庭や家族のことについて

Q9. あなたが <u>いっしょに住んでいる人</u> はだれですか。	Q10. <u>いっしょに住んでいる大人の人はお仕事(農業や自営業をふくむ)</u> をしていますか。 <u>※家事や家族のお世話をのぞいて</u>	Q11. <u>いっしょに住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人</u> がいますか。
いっしょに住んでいる人 (あてはまる人 <u>すべて</u> に○) ○をつけた人のみ右へ進む →	仕事をしているか ※家事や家族の世話をのぞく (あてはまる番号1つに○)	お世話が <u>必要</u> か (あてはまる人 <u>すべて</u> に☒)
1. お母さん	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 } 下の Q12へ
2. お父さん	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 } 下の Q12へ
3. おばあさん	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 } 3ページの Q13へ
4. おじいさん	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 } 3ページの Q13へ
5. お姉さん・お兄さん		<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページの Q14へ
6. 妹・弟		
7. その他 ()	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページの Q15へ
		いない場合・ → 6ページの 答えたくない場合 Q30へ


※お世話をしている人が何人いる場合は、それぞれについてお答えください

Q12. お母さん または お父さんにお世話が <u>必要</u> と答えた人にお聞きます			
Q12-①. だれが <u>お世話を</u> していますか。 (あてはまる人 <u>すべて</u> に○)	お母さん / お父さんのお世話をしている人		
	1. 自分	6. お姉さん	11. ふくしサービス(ヘルパーなど)を利用
	2. お母さん	7. お兄さん	12. その他 ()
	3. お父さん	8. 妹	13. 特にいない
	4. おばあさん	9. 弟	一番お世話している人の番号 (何人いる場合は全員)
	5. おじいさん	10. しんせきの人	
Q12-②. 一番お世話している人	1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入してください		
Q12-③. お世話をしているのはどのような理由ですか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	お母さん / お父さんのお世話が <u>必要</u> な理由		
	1. 高れい(65才以上)	5. 日本語が苦手	
	2. かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	6. わからない	
	3. 病気	7. 答えたくない	
	4. しょうがい	8. その他 ()	
Q12-④. どのようなお世話をしていますか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	お母さん / お父さん <u>に</u> しているお世話		
	1. 家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	7. 通やく(日本語や手話など)	
	2. 入浴やトイレ、食事のお世話など	8. お金の管理	
	3. 買い物や散歩にいっしょに行く	9. 薬の管理	
	4. 病院へいっしょに行く	10. 家計を助ける(働く)	
	5. 話を聞く	11. その他 ()	
	6. 見守り(そばについて見ている)		

2

※本調査では、母親、父親の就業状況を調査対象としているが、未回答を防ぐため、他同居家族の就業状況に関する設問も調査票に記載している。

Q13. おばあさん または おじいさんに お世話が 必要と 答えた 人にお聞 きます			
Q13-①. だれが お世話を して いますか。 (あてはまる 人 <u>すべて</u> に○)	おばあさん / おじいさんのお世話をしている人		
	1. 自分	6. お姉さん	11. ふくしサービス(ヘルパーなど)を利用
	2. お母さん	7. お兄さん	12. その他 ()
	3. お父さん	8. 妹	13. 特にいない
	4. おばあさん	9. 弟	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
	5. おじいさん	10. しんせきの人	
Q13-②. 一番お世話している人	1～12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入してください 		
Q13-③. お世話をしているのはどの ような理由ですか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	おばあさん / おじいさんのお世話が必要な理由		
	1. 高れい(65才以上)	5. 日本語が苦手	
	2. かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	6. わからない	
	3. 病気	7. 答えたくない	
	4. しょうがい	8. その他 ()	
Q13-④. どのようなお世話を して いますか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	おばあさん / おじいさんに行っているお世話		
	1. 家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	7. 通やく(日本語や手話など)	
	2. 入浴やトイレ、食事のお世話など	8. お金の管理	
	3. 買い物や散歩にいっしょに行く	9. 薬の管理	
	4. 病院へいっしょに行く	10. 家計を助ける(働く)	
	5. 話を聞く	11. その他 ()	
	6. 見守り(そばについて見ている)		

Q14. きょうだい(姉・兄・妹・弟)に お世話が 必要と 答えた 人にお聞 きます			
Q14-①. だれが お世話を して いますか。 (あてはまる 人 <u>すべて</u> に○)	きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話をしている人		
	1. 自分	6. お姉さん	11. ふくしサービス(ヘルパーなど)を利用
	2. お母さん	7. お兄さん	12. その他 ()
	3. お父さん	8. 妹	13. 特にいない
	4. おばあさん	9. 弟	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
	5. おじいさん	10. しんせきの人	
Q14-②. 一番お世話している人	1～12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入してください 		
Q14-③. お世話をしているのはどの ような理由ですか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話が必要な理由		
	1. 若い	5. 日本語が苦手	
	2. かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	6. わからない	
	3. 病気	7. 答えたくない	
	4. しょうがい	8. その他 ()	
Q14-④. どのようなお世話を して いますか。 (あてはまる番号 <u>すべて</u> に○)	きょうだい(姉・兄・妹・弟)に行っているお世話		
	1. 家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	7. 見守り(そばについて見ている)	
	2. 着替えの手伝いやねかしつけ、送りむかえ など	8. 通やく(日本語や手話など)	
	3. 入浴やトイレ、食事のお世話など	9. お金の管理	
	4. 買い物や散歩にいっしょに行く	10. 薬の管理	
	5. 病院へいっしょに行く	11. 家計を助ける(働く)	
	6. 話を聞く	12. その他 ()	

Q15. 「その他」で選んだ人にお世話が必要と答えた人にお聞きします			
Q15-①. だれがお世話をしていますか。 (あてはまる人すべてに○)	「その他」で選んだ人のお世話をしている人		
	1. 自分	6. お姉さん	11. ふくしサービス(ヘルパーなど)を利用
	2. お母さん	7. お兄さん	12. その他 ()
	3. お父さん	8. 妹	13. 特にいない
	4. おばあさん	9. 弟	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
5. おじいさん	10. しんせきの人		
Q15-②. 一番お世話している人	1～12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入してください		
Q15-③. お世話をしているのはどのような理由ですか。 (あてはまる番号すべてに○)	「その他」で選んだ人のお世話が必要な理由		
	1. 高れい(65才以上)	6. 日本語が苦手	
	2. 幼い	7. わからない	
	3. かいご(食事や身の回りのお世話)が必要	8. 答えたくない	
	4. 病気	9. その他 ()	
5. しょうがい			
Q15-④. どのようなお世話をしていますか。 (あてはまる番号すべてに○)	「その他」で選んだ人に行っているお世話		
	1. 家事(食事の準備やそうじ、せんたく)	7. 見守り(そばについて見ている)	
	2. 着替えの手伝いやねかしつけ、送りむかえなど	8. 通やく(日本語や手話など)	
	3. 入浴やトイレ、食事のお世話など	9. お金の管理	
	4. 買い物や散歩にいっしょに行く	10. 薬の管理	
	5. 病院へいっしょに行く	11. 家計を助ける(働く)	
6. 話を聞く	12. その他 ()		

IV. あなたのお世話のじょうきょうについて

現在お世話をしている / 過去にお世話をしていた人にお聞きします

※ Q12-①～15-①

「だれがお世話をしていますか。」という質問で

→ 「自分」と答えた人は **Q16** へ

→ 「自分」と答えなかった人は **Q30** へ

Q16. あなたは何才から家族のお世話をしていますか。

() 才から

※ はっきりとわからない場合は、だいたいの年れいでかまいません

※ お世話をしている人が何人かいる場合は、いちばん最初の年れいを教えてください

Q17. あなたはどのくらいお世話をしていますか。

1. ほぼ毎日	4. 1か月に数日
2. 週に3～5日	5. その他 ()
3. 週に1～2日	

※ だいたいの時間でかまいません

※ 日によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん当てはまる時間を教えてください

Q18. あなたは平日に、1日あたり何時間くらいお世話をしていますか。

1. 1時間より少ない	5. 4時間
2. 1時間	6. 5時間
3. 2時間	7. 6時間以上
4. 3時間	

4

Q19. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。
 あなたが**こまっている順番**に、**1位、2位、3位**を選んで**番号を記入**してください。(特にない場合は**14**と記入)

1位	2位	3位	← 例) 1位=3 / 2位=12 / 3位=14
この中から1位、2位、3位を選ぶ			
1. 学校を休んでしまう	6. ストレスを感じる	11. 部活や習い事ができない	
2. ちこくやそつたいをしてしまう	7. こどくを感じる	12. 自分の時間がとれない	
3. 宿題など勉強をする時間がない	8. 眠る時間がたりない	13. その他 ()	
4. 授業に集中できない	9. 食よくがない	14. 特にない	
5. 成績が落ちた	10. 友だちと遊ぶことができない		

Q20. お世話をすることに**大変さ**を感じていますか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 体力の面で大変	3. 時間のよゆうがない
2. 気持ちの面で大変	4. 特に大変さは感じていない

Q21. あなたがお世話を**する理由**は何ですか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 自分がお世話をしたいと思うため	4. ほかの家族や親せきなどからお世話をしよう言われているため
2. 自分がお世話をしないと家族がこまるため	5. わからない・考えたことがない
3. ほかにお世話をできる人がいないため	6. その他 ()

Q22. あなたが**お世話をしている家族**のことや、**お世話のなやみ**についてだれかに**相談**したことはありますか。

1. ある → Q23へ	2. ない → Q24へ
--------------	--------------

Q23. **相談したのはだれ**ですか。(あてはまる人**すべて**に○) → Q26へ

1. 家族 (お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい)	7. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
2. しんせき (おじ、おばなど)	8. 病院・いりよう・ふくしサービスの人
3. 友だち、先ばいや後はい、交際相手	9. 近所の人
4. 家族をお世話したことのある人	10. SNS上での知り合い
5. 学校の先生 (保健室の先生以外)	11. その他 ()
6. 保健室の先生	

Q24. **相談していない理由**を教えてください。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 相談するほどのなやみではないと自分が思うから	5. 家族のことを話したくないから
2. 周りの人たちにとっては大変ななやみではないと思うから	6. 相談しても何も変わらないから
3. だれに相談するのがよいかわからないから	7. その他 ()
4. 相談できる人がいないから	

↓ Q25へ

Q25. あなたが**お世話をしている家族**のことや、**お世話のなやみ**を聞いてくれる人はいますか。 → Q26へ

1. いる	2. いない
-------	--------

Q26. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のことについて話を聞いてほしい	6. 勉強を教えてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	7. お金の面でしえんしてほしい
3. 家族の病気やしょうがい、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい	8. その他 ()
4. 自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)だれかに代わってほしい	9. 特にない
5. 時間を自由に使えるようにしてほしい	10. わからない

Q26で1, 2を選んだ人は Q27 へ

4を選んだ人は Q28 へ

それ以外の人は Q29 へ

Q27. どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 直接会って	3. SNS	5. その他 ()
2. 電話	4. 電子メール	

Q28. だれかに代わってもらえたら楽になると思うのは、どんなお世話やどんな時ですか。(具体的にご記入ください)

Q29. 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

V. 最後に

Q30. あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている	3. 聞いたことがない
2. 聞いたことはあるが、よく知らない	

Q31. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. ざっしや本	6. 学校
3. SNSやインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. お知らせやチラシ、ポスター	8. その他 ()

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。
 いただいたきちような意見を今後の取組に役立てていきたいと思います。

中学 2 年生

学校と家庭生活についてのアンケート調査 (中学校 2 年生)

I. 基本情報

Q1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他	4. 答えたくない
------	------	--------	-----------

Q2. あなたが住んでいる市町村を記入してください。(漢字でもひらがなでもかまいません)

青森県 () 市 / 町 / 村	※例: 青森県上北郡東北町 ⇒ 東北町 または とうほくまち
-------------------	--------------------------------

Q3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	2. まあよい	3. ふう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	-------	------------	---------

II. ふだんの生活について

Q4. あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

①欠席について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする
②遅刻や早退について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

Q5. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業中に居眠りすることが多い	6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
2. 宿題や課題ができていないことが多い	7. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	8. 学校では一人で過ごすことが多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い	9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	10. 特にない

Q6. 部活動(学校外での活動を含む)や習い事をしてありますか。

1. している	2. していない
---------	----------

Q7. あなたが悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと	8. 自分と家族との関係のこと
2. 学業成績のこと	9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
3. 進路のこと	10. 病気や障がいのある家族のこと
4. 部活動や習い事のこと	11. 自分のために使える時間が少ないこと
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	12. その他()
6. 塾(通信含む)や習い事ができない	13. 特にない
7. 家庭の経済的状況のこと	

↓ 1~12のどれかに○をつけた人にお聞きします

Q8. その悩みについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

1. いる	2. いない	3. 話はしたくない
-------	--------	------------

Ⅲ. 家庭や家族のことについて

Q9.

あなたが一緒に住んでいる人は誰ですか。

Q10.

一緒に住んでいる大人の人はお仕事をしていますか。
※家事や家族のお世話を除いて

Q11.

一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が
必要な人がいますか。

一緒に住んでいる人 (あてはまる人すべてに○) ○をつけた人のみ右へ進む	仕事をしているか ※家事や家族の世話を除く (あてはまる番号1つに○)	お世話が必要か (あてはまる人すべてに☑)
1. 母親	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他() ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ12へ
2. 父親	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他() ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ12へ
3. 祖母	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ13へ
4. 祖父	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ13へ
5. 姉・兄	1. 学生 2. 社会人 3. 家事手伝い 4. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ14へ
6. 妹・弟		<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ14へ
7. その他 ()	1. 毎日している 2. ときどきしている 3. していない 4. わからない 5. その他()	<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ15へ
		いない場合・ → 7ページの 答えたくない場合 Q30へ

2

※本調査では、母親、父親の就業状況を調査対象としているが、未回答を防ぐため、他同居家族の就業状況に関する設問も調査票に記載している。

Q11で「**お世話が必要な人がいる**」を選んだ方にお聞きします

※お世話をしている人が**何人**いる場合は、**それぞれについて**お答えください

Q12. 母親 / 父親のお世話をしている人

① 誰がお世話をしていますか。
(あてはまる人**すべて**に○)

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他 ()
7. 兄	13. 特にいない

①の中で**一番**お世話している人は誰ですか。
※ 1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入

② **一番お世話している人**の番号
(何人かいる場合は全員)

③ **母親 / 父親のお世話が必要な理由**

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

お世話をしているのはどのような**理由**ですか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

④ **母親 / 父親にしているお世話**

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他 ()

どのような**お世話**をしていますか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

Q13. 祖母 / 祖父のお世話をしている人

① 誰がお世話をしていますか。

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他 ()
7. 兄	13. 特にいない

② **一番お世話している人**の番号
(何人かいる場合は全員)

③ **祖母 / 祖父のお世話が必要な理由**

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ **祖母 / 祖父にしているお世話**

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他 ()

Q11で「**お世話が必要な人がいる**」を選んだ方にお聞きます

※お世話をしている人が**何人**いる場合は、**それぞれについて**お答えください

誰がお世話をしていますか。
(あてはまる人**すべて**に○)

①の中で**一番**お世話している人は誰ですか。

※ 1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入

お世話をしているのはどのような**理由**ですか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

どのような**お世話**をしていますか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

Q14. きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話をしている人	
①	
1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他 ()
7. 兄	13. 特にいない
②	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話が必要な理由	
③	
1. 若い	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	
きょうだい(姉・兄・妹・弟)にしているお世話	
④	
1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	
5. 通院への付き添い	
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	
7. 見守り(そばについて見ている)	
8. 通訳(日本語や手話など)	
9. 金銭管理	
10. 薬の管理	
11. 家計を助ける(働く)	
12. その他 ()	

Q15. 「その他」で選んだ人のお世話をしている人	
①	
1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他 ()
7. 兄	13. 特にいない
②	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
「その他」で選んだ人のお世話が必要な理由	
③	
1. 高齢(65歳以上)	8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む
2. 若い	
3. 要介護(介護が必要な状態)	9. 精神疾患・依存症以外の病気
4. 認知症	10. 日本語が苦手
5. 身体障がい	11. 分からない
6. 知的障がい	12. 答えたくない
7. 精神疾患 ※疑い含む	13. その他 ()
「その他」で選んだ人に行っているお世話	
④	
1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	
5. 通院への付き添い	
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	
7. 見守り(そばについて見ている)	
8. 通訳(日本語や手話など)	
9. 金銭管理	
10. 薬の管理	
11. 家計を助ける(働く)	
12. その他 ()	

IV. あなたのお世話の状況について

— 現在お世話をしている / 過去にお世話をしていた人にお聞きます —

※ Q12-①～15-①

「**誰がお世話をしていますか。**」という質問で

→ 「自分」と答えた人は **Q16** へ

→ 「自分」と答えなかった人は **Q30** へ

Q16. あなたは**何歳から**家族のお世話をしていますか。

() 歳から

※ はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません

※ お世話をしている人が何人いる場合は、**いちばん最初の年齢**を教えてください

Q17. あなたは**どのくらい**お世話をしていますか。

1. ほぼ毎日	4. 1か月に数日
2. 週に3～5日	5. その他 ()
3. 週に1～2日	

※ だいたいの時間でかまいません

※ 日によって違う場合は、**この1ヶ月で最も当てはまる時間**を教えてください

Q18. あなたは**平日**に、1日あたり**何時間くらい**お世話をしていますか。

1. 1時間より少ない	5. 4時間
2. 1時間	6. 5時間
3. 2時間	7. 6時間以上
4. 3時間	

Q19. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

あなたが**困っている順番**に、**1位、2位、3位**を選んで**番号を記入**してください。(特にない場合は**15**と記入)

1位	2位	3位
----	----	----

例) 1位=3 / 2位=12 / 3位=15

選択肢(この中から1位、2位、3位を選ぶ)

1. 学校に行きたくても行けない	6. ストレスを感じる	11. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう	7. 孤独を感じる	12. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない	8. 睡眠が十分に取れない	13. 自分の時間がとれない
4. 授業に集中できない	9. 食欲がない	14. その他 ()
5. 成績が落ちた	10. 友人と遊ぶことができない	15. 特にない

Q20. お世話をすることに**大変さ**を感じていますか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 身体的に大変	3. 時間的余裕がない
2. 精神的に大変	4. 特に大変さは感じていない

Q21. あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分がお世話をしたいと思うため	4. ほかの家族や親戚等からお世話をされるよう言われているため
2. 自分がお世話をしないと家族が困るため	5. わからない・考えたことがない
3. ほかにお世話をできる人がいないため	6. その他 ()

Q22. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

1. ある → Q23へ	2. ない → Q24へ
--------------	--------------



Q23. 相談したのは誰ですか。(あてはまる人すべてに○) → Q26へ

1. 家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)	7. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
2. 親戚(おじ、おばなど)	8. 医師や看護師、その他病院の人
3. 友人、先輩や後輩、交際相手	9. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
4. 家族をお世話した体験・悩みを持つ人	10. 近所の人
5. 学校の先生(保健室の先生以外)	11. SNS上での知り合い
6. 保健室の先生	12. その他 ()

Q24. 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談するほどの悩みではないと自分が思うから	6. 家族のことのため話しにくいから
2. 周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	7. 家族のことを知られたくないから
3. 家族外の人に相談するような悩みではないから	8. 家族に対して偏見を持たれたくないから
4. 誰に相談するのがよいかわからないから	9. 相談しても状況が変わるとは思えないから
5. 相談できる人が身近にいないから	10. その他 ()



Q25へ

Q25. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。 → Q26へ

1. いる	2. いない
-------	--------

Q26. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	7. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	8. 家庭への経済的な支援をしてほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	9. その他 ()
4. 自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	10. 特にない
5. 時間を自由に使えるようにしてほしい	11. わからない
6. 進路や就職など将来の相談にのってほしい	

Q26で1, 2を選んだ人は Q27 へ

4を選んだ人は Q28 へ

それ以外の人は Q29 へ

➔ **Q27. どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 直接会って	3. SNS	5. その他 ()
2. 電話	4. 電子メール	

Q28. 誰かに代わってもらえたら楽になると思うのは、どんなお世話やどんな時ですか。(具体的にご記入ください) ←

Q29. 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

V. 最後に

Q30. あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている	3. 聞いたことがない
2. 聞いたことはあるが、よく知らない	

Q31. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. 雑誌や本	6. 学校
3. SNSやインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. 広報やチラシ、掲示物	8. その他 ()

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。←
いただいた貴重な意見を今後の取組に役立てていきたいと思ます。

学校と家庭生活についてのアンケート調査 (高校・高専 2 年生)

I. 基本情報

Q1. あなたの**学校の種類**を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 全日制高校	2. 定時制高校	3. 高等専門学校	4. あてはまるものはない
----------	----------	-----------	---------------

Q2. あなたの**性別**を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他	4. 答えたくない
------	------	--------	-----------

Q3. あなたが住んでいる**市町村**を記入してください。

青森県 () 市 / 町 / 村	※例：青森県上北郡東北町 ⇒ 東北町
-------------------	---------------------------

Q4. あなたの**健康状態**について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	2. まあよい	3. ぶつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

II. ふだんの生活について

Q5. あなたは学校を**欠席**したり、**遅刻**や**早退**をしたりすることがありますか。

①欠席について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする
②遅刻や早退について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

Q6. ふだんの**学校生活**などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 授業中に居眠りすることが多い	6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する
2. 宿題や課題ができていないことが多い	7. 保健室で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	8. 学校では一人で過ごすことが多い
4. 部活動や習い事を休むことが多い	9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
5. 提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	10. 特にない

Q7. **部活動**(学校外での活動を含む)や**習い事**をしていますか。

1. している	2. していない
---------	----------

Q8. あなたが**悩んでいる**ことはありますか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 友人との関係のこと	8. 自分と家族との関係のこと
2. 学業成績のこと	9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
3. 進路のこと	10. 病気や障がいのある家族のこと
4. 部活動や習い事のこと	11. 自分のために使える時間が少ないこと
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	12. その他()
6. 塾(通信含む)や習い事ができない	13. 特にない
7. 家庭の経済的状況のこと	

↓ 1~12のどれかに○をつけた人にお聞きします

Q9. その**悩み**について、**相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人**がいますか。

1. いる	2. いない	3. 話はしたくない
-------	--------	------------

Ⅲ. 家庭や家族のことについて

Q10.

あなたが一緒に住んでいる人は誰ですか。

Q11.

一緒に住んでいる大人の人はお仕事をしていますか。
※家事や家族のお世話を除いて

Q12.

一緒に住んでいる人の中で、食事や身の回りのお世話が必要な人がいますか。

一緒に住んでいる人 (あてはまる人すべてに○) ○をつけた人のみ右へ進む	仕事をしているか ※家事や家族の世話を除く (あてはまる番号1つに○)	お世話が必要か (あてはまる人すべてに☑)
1. 母親	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 () ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ13へ
2. 父親	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 () ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ13へ
3. 祖母	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ14へ
4. 祖父	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 3ページのQ14へ
5. 姉・兄	1. 学生 2. 社会人 3. 家事手伝い 4. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ15へ
6. 妹・弟		<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ15へ
7. その他 ()	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	<input type="checkbox"/> 必要 → 4ページのQ16へ
		いない場合・ → 7ページの答えたくない場合 Q31へ

2

※本調査では、母親、父親の就業状況を調査対象としているが、未回答を防ぐため、他同居家族の就業状況に関する設問も調査票に記載している。

Q12で「お世話が必要な人がいる」を選んだ方にお聞きします

※お世話をしている人が何人いる場合は、それぞれについてお答えください

Q13. 母親 / 父親のお世話をしている人

① 誰がお世話をしていますか。
(あてはまる人すべてに○)

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

①の中で一番お世話している人は誰ですか。
※ 1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入

② 一番お世話している人の番号
(何人かいる場合は全員)

③ 母親 / 父親のお世話が必要な理由

お世話をしているのはどのような理由ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ 母親 / 父親にしているお世話

どのようなお世話をしていますか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他()

Q14. 祖母 / 祖父のお世話をしている人

① 誰がお世話をしていますか。

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

② 一番お世話している人の番号
(何人かいる場合は全員)

③ 祖母 / 祖父のお世話が必要な理由

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ 祖母 / 祖父にしているお世話

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他()

Q12で「**お世話が必要な人がいる**」を選んだ方にお聞きます

※お世話をしている人が**何人**いる場合は、**それぞれについて**お答えください

誰がお世話をしていますか。
(あてはまる人**すべて**に○)

①の中で**一番**お世話している人は誰ですか。

※ 1~12の中で、中心的に
(**一番長い時間**)お世話している人の番号を記入

お世話をしているのはどのような**理由**ですか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

どのような**お世話**をしていますか。
(あてはまる番号**すべて**に○)

Q15. きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話をしている人	
①	
1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他 ()
7. 兄	13. 特にいない
②	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
③ きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話が必要な理由	
1. 若い	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	
④ きょうだい(姉・兄・妹・弟)にしているお世話	
1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	
5. 通院への付き添い	
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	
7. 見守り(そばについて見ている)	
8. 通訳(日本語や手話など)	
9. 金銭管理	
10. 薬の管理	
11. 家計を助ける(働く)	
12. その他 ()	

Q16. 「その他」で選んだ人のお世話をしている人	
①	
1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない
②	一番お世話している人の番号 (何人かいる場合は全員)
③ 「その他」で選んだ人のお世話が必要な理由	
1. 高齢(65歳以上)	8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む
2. 若い	
3. 要介護(介護が必要な状態)	9. 精神疾患・依存症以外の病気
4. 認知症	10. 日本語が苦手
5. 身体障がい	11. 分からない
6. 知的障がい	12. 答えたくない
7. 精神疾患 ※疑い含む	13. その他 ()
④ 「その他」で選んだ人に行っているお世話	
1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など	
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	
5. 通院への付き添い	
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	
7. 見守り(そばについて見ている)	
8. 通訳(日本語や手話など)	
9. 金銭管理	
10. 薬の管理	
11. 家計を助ける(働く)	
12. その他 ()	

IV. あなたのお世話の状況について

現在お世話をしている / 過去にお世話をしていた人にお聞きます

※ Q13-①～16-①

「誰がお世話をしていますか。」という質問で

→ 「自分」と答えた人は **Q17** へ

→ 「自分」と答えなかった人は **Q31** へ

Q17. あなたは何歳から家族のお世話をしていますか。

() 歳から

※ はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません

※ お世話をしている人が何人いる場合は、**いちばん最初の年齢**を教えてください

Q18. あなたはどのくらいお世話をしていますか。

1. ほぼ毎日	4. 1か月に数日
2. 週に3～5日	5. その他 ()
3. 週に1～2日	

※ だいたいの時間でかまいません

※ 日によって違う場合は、この1ヶ月で**最も当てはまる時間**を教えてください

Q19. あなたは平日に、1日あたり何時間くらいお世話をしていますか。

1. 1時間より少ない	5. 4時間
2. 1時間	6. 5時間
3. 2時間	7. 6時間以上
4. 3時間	

Q20. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

あなたが困っている順番に、**1位、2位、3位**を選んで**番号を記入**してください。(特にない場合は**15**と記入)

1位	2位	3位	例) 1位=3 / 2位=12 / 3位=15
選択肢(この中から1位、2位、3位を選ぶ)			
1. 学校に行きたくても行けない	6. ストレスを感じる	11. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう	7. 孤独を感じる	12. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない	8. 睡眠が十分に取れない	13. 自分の時間がとれない	
4. 授業に集中できない	9. 食欲がない	14. その他 ()	
5. 成績が落ちた	10. 友人と遊ぶことができない	15. 特にない	

Q21. お世話をすることに**大変さ**を感じていますか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 身体的に大変	3. 時間的余裕がない
2. 精神的に大変	4. 特に大変さは感じていない


Q22. あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分がお世話をしたいと思うため	4. ほかの家族や親戚等からお世話をされるよう言われているため
2. 自分がお世話をしないと家族が困るため	5. わからない・考えたことがない
3. ほかにお世話をできる人がいないため	6. その他 ()

Q23. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

1. ある  Q24へ	2. ない  Q25へ
--	---



Q24. 相談したのは誰ですか。(あてはまる人すべてに○)  Q27へ

1. 家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)	7. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
2. 親戚(おじ、おばなど)	8. 医師や看護師、その他病院の人
3. 友人、先輩や後輩、交際相手	9. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
4. 家族をお世話した体験・悩みを持つ人	10. 近所の人
5. 学校の先生(保健室の先生以外)	11. SNS上での知り合い
6. 保健室の先生	12. その他 ()

Q25. 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談するほどの悩みではないと自分が思うから	6. 家族のことのため話しにくいから
2. 周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	7. 家族のことを知られたくないから
3. 家族外の人に相談するような悩みではないから	8. 家族に対して偏見を持たれたくないから
4. 誰に相談するのがよいかわからないから	9. 相談しても状況が変わるとは思えないから
5. 相談できる人が身近にいないから	10. その他 ()



Q26へ

Q26. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。  Q27へ

1. いる	2. いない
-------	--------

Q27. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	7. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	8. 家庭への経済的な支援をしてほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	9. その他 ()
4. 自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	10. 特にない
5. 時間を自由に使えるようにしてほしい	11. わからない
6. 進路や就職など将来の相談にのってほしい	

Q27で1, 2を選んだ人は Q28 へ

4を選んだ人は Q29 へ

それ以外の人は Q30 へ

→ **Q28. どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 直接会って	3. SNS	5. その他 ()
2. 電話	4. 電子メール	

Q29. 誰かに代わってもらえたら楽になると思うのは、どんなお世話やどんな時ですか。(具体的にご記入ください) ←

Q30. 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

V. 最後に

Q31. あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている	3. 聞いたことがない
2. 聞いたことはあるが、よく知らない	

Q32. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. 雑誌や本	6. 学校
3. SNSやインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. 広報やチラシ、掲示物	8. その他 ()

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。←
いただいた貴重な意見を今後の取組に役立てていきたいと思います。

大学3年生

学校と家庭生活についてのアンケート調査 (大学3年生)

I. 基本情報

Q1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他	4. 答えたくない
------	------	--------	-----------

Q2. あなたが住んでいる市町村を記入してください。

青森県 () 市 / 町 / 村 ※例：青森県上北郡東北町 ⇒ 東北町

Q3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

① 身体面の健康状態 →	1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
② 精神面の健康状態 →	1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない

II. ふだんの生活について

Q4. あなたは大学を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

① 欠席について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする
② 遅刻や早退について	→	1. ほとんどしない	2. たまにする	3. よくする

Q5. ふだんの大学生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業を欠席しがちである	6. 合宿等の行事を欠席する
2. 課題や予習復習ができていないことが多い	7. 大学では一人で過ごすことが多い
3. 持ち物の忘れ物が多い	8. 友達と遊んだり、話したりする時間が少ない
4. 部活・サークル等を休むことが多い	9. 特にない
5. 提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	

Q6. 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと	8. 家庭の経済的状況のこと
2. 学業成績のこと	9. 自分と家族との関係のこと
3. 就職・進路のこと	10. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
4. 部活動・サークル活動のこと	11. 病気や障がいのある家族のこと
5. 学費(授業料)など大学生活に必要なお金のこと	12. 自分のために使える時間が少ないこと
6. 課外活動や習い事ができない	13. その他 ()
7. アルバイト・仕事のこと	14. 特にない

↓ 1～13のどれかに○をつけた人にお聞きします

Q7. その悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

1. いる	2. いない	3. 話はしたくない
-------	--------	------------

Ⅲ. 家庭や家族のことについて

Q8. 現在の住まい方を教えてください。

1. 家族と同居	3. 寮
2. 一人暮らし	4. その他 ()

Q9 <家族と同居の場合>
一緒に住んでいる人
<寮・一人暮らしの場合>
実家に住んでいる人
は誰ですか

Q10.
Q9で選んだ人は、お仕事をしていますか。
※家事や家族のお世話を除いて

Q11.
Q9で選んだ人の中で、食
事や身の回りのお世話が
必要な人がいますか。

一緒に住んでいる人 実家に住んでいる人 (あてはまる人すべてに○) ○をつけた人のみ右へ進む	仕事をしているか ※家事や家族の世話を除く (あてはまる番号1つに○)	お世話が必要か (あてはまる番号1つに○)
1. 母親	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 () ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他 ()	1. 現在必要 } 3ページの 2. 現在は必要ないが、 } Q12へ 過去に必要だった } 3. 現在も過去も必要ない
2. 父親	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 () ※ お仕事をしている場合は最も近い番号に○をしてください 1. 会社員/公務員 (会社や役所などの正社員) 2. 自営業 (お店やフリーランスなど自分で商売をしている) 3. パート・アルバイト 4. わからない 5. その他 ()	1. 現在必要 } 3ページの 2. 現在は必要ないが、 } Q12へ 過去に必要だった } 3. 現在も過去も必要ない
3. 祖母	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	1. 現在必要 } 3ページの 2. 過去に必要だった } Q13へ 3. 現在も過去も必要ない
4. 祖父	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	1. 現在必要 } 3ページの 2. 過去に必要だった } Q13へ 3. 現在も過去も必要ない
5. 姉・兄	1. 学生 2. 社会人 3. 家事手伝い 4. その他 ()	1. 現在必要 } 4ページの 2. 過去に必要だった } Q14へ 3. 現在も過去も必要ない
6. 妹・弟	1. 学生 2. 社会人 3. 家事手伝い 4. その他 ()	1. 現在必要 } 4ページの 2. 過去に必要だった } Q14へ 3. 現在も過去も必要ない
7. その他 ()	1. 毎日している 2. ととききしている 3. していない 4. わからない 5. その他 ()	1. 現在必要 } 4ページの 2. 過去に必要だった } Q15へ 3. 現在も過去も必要ない

2

※ Q11で「3. 現在も過去も必要ない」をすべて選んだ方又は「答えたくない」方は 7ページの Q31へ

※本調査では、母親、父親の就業状況を調査対象としているが、未回答を防ぐため、他同居家族の就業状況に関する設問も調査票に記載している。

※ Q11で「1. 現在お世話が**必要**」を選んだ方 → 現在お世話している人
「2. 過去にお世話が**必要だった**」を選んだ方 → 当時お世話していた人

Q12. 母親 / 父親の
お世話をしている(していた)人

① お世話をしている(していた)人

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

② **一番お世話している人** → の番号 (何人かいる場合は全員)

母親 / 父親の
③ お世話が必要な(必要だった)理由

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ **母親 / 父親に** している(していた)お世話

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他 ()

誰がお世話をしていますか。していましたか。(あてはまる人**すべて**に○)

①の中で**一番**お世話している人は誰ですか。いた人
※ 1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入

お世話をしているのはどのような**理由**ですか。でしたか。(あてはまる番号**すべて**に○)

どのような**お世話**をしていますか。いましたか。(あてはまる番号**すべて**に○)

Q13. 祖母 / 祖父の
お世話をしている(していた)人

① お世話をしている(していた)人

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

② **一番お世話している人** → の番号 (何人かいる場合は全員)

祖母 / 祖父の
③ お世話が必要な(必要だった)理由

1. 高齢(65歳以上)	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ **祖母 / 祖父に** している(していた)お世話

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
3. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
4. 通院への付き添い
5. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
6. 見守り(そばについて見ている)
7. 通訳(日本語や手話など)
8. 金銭管理
9. 薬の管理
10. 家計を助ける(働く)
11. その他 ()

※ Q11で「1. 現在お世話が**必要**」を選んだ方 → 現在お世話している人
 「2. 過去にお世話が**必要だった**」を選んだ方 → 当時お世話していた人 (についてお聞きます)

誰がお世話をしていますか。
 していましたか。
 (あてはまる人**すべて**に○)

①の中で**一番**お世話している人は誰ですか。

※ 1~12の中で、中心的に(一番長い時間)お世話している人の番号を記入

お世話をしているのはどのような理由ですか。
 でしたか。
 (あてはまる番号**すべて**に○)

どのようなお世話をしていますか。
 いましたか。
 (あてはまる番号**すべて**に○)

Q14. きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話をしている(していた)人

①

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

② **一番お世話している人**の番号 (何人かいる場合は全員) →

きょうだい(姉・兄・妹・弟)のお世話が必要**(必要だった)理由**

1. 若い	8. 精神疾患・依存症以外の病気
2. 要介護(介護が必要な状態)	
3. 認知症	9. 日本語が苦手
4. 身体障がい	10. 分からない
5. 知的障がい	11. 答えたくない
6. 精神疾患 ※疑い含む	12. その他 ()
7. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む	

④ **きょうだい(姉・兄・妹・弟)にしている(していた)お世話**

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 通院への付き添い
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
7. 見守り(そばについて見ている)
8. 通訳(日本語や手話など)
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. 家計を助ける(働く)
12. その他 ()

Q15. 「その他」で選んだ人のお世話をしている(していた)人

①

1. 自分	8. 妹
2. 母親	9. 弟
3. 父親	10. 親戚の人
4. 祖母	11. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
5. 祖父	
6. 姉	12. その他()
7. 兄	13. 特にいない

② **一番お世話している人**の番号 (何人かいる場合は全員) →

「その他」で選んだ人のお世話が必要**(必要だった)理由**

1. 高齢(65歳以上)	8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など) ※疑い含む
2. 若い	
3. 要介護(介護が必要な状態)	9. 精神疾患・依存症以外の病気
4. 認知症	10. 日本語が苦手
5. 身体障がい	11. 分からない
6. 知的障がい	12. 答えたくない
7. 精神疾患 ※疑い含む	13. その他 ()

④ **「その他」で選んだ人**にしている(していた)お世話

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. 着替えの手伝いや寝かしつけ、保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 通院への付き添い
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
7. 見守り(そばについて見ている)
8. 通訳(日本語や手話など)
9. 金銭管理
10. 薬の管理
11. 家計を助ける(働く)
12. その他 ()

IV. あなたのお世話の状況について

現在お世話をしている / 過去にお世話をしていた方にお聞きます

※ Q12-①～15-①

「誰がお世話をしていますか。」という質問で

→ 「自分」と答えた人は **Q16** へ

→ 「自分」と答えなかった人は **Q31** へ

Q16. あなたは何歳から家族のお世話をしていますか / していましたか。

() 歳から

() 歳まで

※ 過去にお世話をしていた方のみお答えください

※ はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません

※ お世話をしている人が何人かいる場合は、いちばん最初の年齢を教えてください

Q17. お世話をしている / していた頻度を教えてください。

1. ほぼ毎日	4. 1か月に数日
2. 週に3～5日	5. その他 ()
3. 週に1～2日	

※ だいたいの時間でかまいません

※ 日によって違う場合は、この1ヶ月で最も当てはまる時間を教えてください

Q18. あなたは平日に、1日あたり何時間くらいお世話をしていますか / していましたか。

1. 1時間より少ない	5. 4時間
2. 1時間	6. 5時間
3. 2時間	7. 6時間以上
4. 3時間	

Q19. お世話をしていることで、困っていることや、やりたかったのにあきらめたことはありますか。

あなたが困っている/困っていた順番に、**1位、2位、3位**を選んで番号を記入してください。(特にない場合は**16**と記入)

1位	2位	3位
----	----	----

例) 1位=3 / 2位=12 / 3位=16

選択肢(この中から1位、2位、3位を選ぶ)

1. 大学の授業に行きたくても行けなかった	9. 部活動・サークル活動、習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった
2. 単位をとれなかった、留年・休学した	10. アルバイトができなかった
3. 課題・予習復習をする時間が取れなかった	11. 就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した
4. ストレスを感じる	12. 一人暮らしをしたくてもできなかった
5. 孤独を感じる	13. 恋愛をしたくてもできなかった
6. 睡眠が十分に取れなかった	14. 自分の時間がとれなかった
7. 食欲がない	15. その他 ()
8. 友人と遊ぶことができなかった	16. 特になかった

Q20. お世話をすることで、**就職**に関し**不安**はありますか / ありましたか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 正社員として就職できるか不安がある	5. 就職先について考える時間がない
2. 休まず働けるか不安がある	6. わからない
3. 通勤できる地域が限られる	7. その他 ()
4. 働ける時間帯が限られる	8. 特にない

Q21. お世話をすることに**大変さ**を感じていますか / いましたか。(あてはまる番号**すべて**に○)


1. 身体的に大変	3. 時間的余裕がない
2. 精神的に大変	4. 特に大変さは感じていない

Q22. あなたがお世話を**理由**は何ですか / 何でしたか。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 自分がお世話をしたいと思うため	4. ほかの家族や親戚等からお世話をしよう言われているため
2. 自分がお世話をしないと家族が困るため	5. わからない・考えたことがない
3. ほかにお世話をできる人がいないため	6. その他 ()

Q23. あなたが**お世話をしている家族**のことや、**お世話の悩み**について誰かに**相談**したことはありますか / ありましたか。


1. ある  Q24へ	2. ない  Q25へ
---	---

Q24. **相談したのは誰**ですか / でしたか。(あてはまる人**すべて**に○)  Q27へ

1. 家族(母、父、祖母、祖父、きょうだい)	8. その他大学の職員・機関
2. 親戚(おじ、おばなど)	9. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
3. 友人	10. 医師や看護師、その他病院の人
4. 家族をお世話した体験・悩みを持つ人	11. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
5. 交際相手、配偶者	12. 近所の人
6. 大学の指導教員	13. SNS上での知り合い
7. 大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	14. その他 ()

Q25. **相談していない / しなかった理由**を教えてください。(あてはまる番号**すべて**に○)

1. 相談するほどの悩みではないと自分が思うから	6. 家族のことのため話しにくいから
2. 周りの人たちにとっては大変な悩みではないと思うから	7. 家族のことを知られたくないから
3. 家族外の人に相談するような悩みではないから	8. 家族に対して偏見を持たれたくないから
4. 誰に相談するのがよいかわからないから	9. 相談しても状況が変わるとは思えないから
5. 相談できる人が身近にいないから	10. その他 ()

 Q26へ

Q26. あなたが**お世話をしている家族**のことや、**お世話の悩み**を聞いてくれる人はいますか / いましたか。  Q27へ

1. いる	2. いない
-------	--------

Q27. 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)
 ※過去にお世話していた方は、当時思っていたことについてお答えください

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	6. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	7. 大学の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	8. 家庭への経済的な支援をしてほしい
4. 自分が行っているお世話を(一部でも全部でも)代わってくれる人やサービスがほしい	9. その他 ()
	10. 特にない
5. 時間を自由に使えるようにしてほしい	11. わからない

Q27で1, 2を選んだ人は Q28 へ

4を選んだ人は Q29 へ

それ以外の人は Q30 へ

Q28. どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしい / ほしかったですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 直接会って	3. SNS	5. その他 ()
2. 電話	4. 電子メール	

Q29. 誰かに代わってもらえたら楽になると思う / 思っていたのは、どんなお世話やどんな時ですか。(具体的に)

Q30. 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしてもらいたいことを自由に書いてください。

V. 最後に

Q31. あなたは、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。

1. 聞いたことがあり、内容も知っている	3. 聞いたことがない
2. 聞いたことはあるが、よく知らない	

Q32. 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. 雑誌や本	6. 学校
3. SNSやインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. 広報やチラシ、掲示物	8. その他 ()

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。
 いただいた貴重な意見を今後の取組に役立てていきたいと思ひます。

青森県ヤングケアラー実態調査 報告書

令和5年3月発行

青森県健康福祉部こどもみらい課 子育て支援グループ

〒030-8570 青森県青森市長島一丁目 1-1

TEL : 017-734-9301(直通)

KODOMO@pref.aomori.lg.jp



Aomori Prefectural Government